茨城県教育財団文化財調査報告第119集

# (仮称)萱丸地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

根崎遺跡
西栗山遺跡

平成9年3月

茨城県
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第119集

# （仮称）萱丸地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

## 根崎（ねさき）遺跡
## 西栗山（にしくりやま）遺跡

平成９年３月

茨　　城　　県
財団法人　茨城県教育財団

根崎遺跡遠景

西栗山遺跡全景

# 序

茨城県は，つくば科学万博などを通して，国内ばかりでなく，世界の科学・文化のリーダーとしての地位を築いてまいりました。また，常磐新線や圏央道の開発など，国際都市にふさわしい町づくりや道路の開発などにも努力をしてまいりました。

その結果，平成６年７月７日に県，市，地権者代表の三者協議が合意し，常磐新線開発と沿線開発を一体的に進める土地区画整理事業を進めております。

財団法人茨城県教育財団は，常磐新線沿線地域の土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査事業について茨城県と委託契約を結び，平成７年４月から翌年３月まで，根崎遺跡，西栗山遺跡の発掘調査を実施いたしました。この調査によって貴重な遺構，遺物が確認され，つくば市の歴史及び本県の歴史を解明する上に多大な成果を上げることができました。

本書は，根崎遺跡・西栗山遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が，研究の資料としてはもとより，郷土の歴史の理解を深めると共に，教育，文化の向上の一助として広く活用されることを希望いたします。

なお，発掘調査及び整理を進めるにあたり，委託者である茨城県からいただいた多大なる御協力に対し心から御礼申し上げます。

また，茨城県教育委員会，つくば市教育委員会をはじめ，関係各機関及び関係各位から御指導，御協力をいただいたことに，衷心より感謝の意を表します。

平成９年３月

財団法人　茨城県教育財団
理事長　橋　本　　昌

# 例　　言

1　本書は，茨城県の委託により，財団法人茨城県教育財団が，平成７年４月から平成８年３月まで発掘調査を実施した茨城県つくば市大字根崎字新畑196ほかに所在する根崎遺跡，茨城県つくば市大字西栗山字台畑254－9ほかに所在する西栗山遺跡の発掘調査報告書である。

2　根崎・西栗山遺跡の調査及び整理に関する当教育財団の組織は，次のとおりである。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 理事長 | | 橋本　昌 | 平成７年４月～ |
| 副理事長 | | 小林秀文 | 平成６年４月～平成８年３月 |
| | | 中島弘光 | 平成７年４月～ |
| | | 齋藤佳郎 | 平成８年４月～ |
| 常務理事 | | 木邦彦 | 平成７年４月～平成８年３月 |
| | | 梅澤秀夫 | 平成８年４月～ |
| 事務局長 | | 齋藤紀彦 | 平成７年４月～平成８年３月 |
| | | 小林隆郎 | 平成８年４月～ |
| 埋蔵文化財部長 | | 安藏幸亟 | 平成５年４月～平成８年３月 |
| | | 沼田文夫 | 平成８年４月～ |
| 埋蔵文化財部長代理 | | 河野佑司 | 平成６年４月～ |
| 企画管理課 | 課長 | 水剣敏夫 | 平成４年４月～平成８年３月 |
| | | 小幡弘明 | 平成８年４月～ |
| | 課長代理 | 根本達夫 | 平成７年４月～ |
| | 係長 | 清水　薫 | 平成８年４月～ |
| | 主任調査員 | 海老澤　稔 | 平成６年４月～平成８年３月 |
| | | 小高五十二 | 平成８年４月～ |
| 経理課 | 課長 | 小幡弘明 | 平成５年４月～平成８年３月 |
| | | 河崎孝典 | 平成８年４月～ |
| | 主査 | 鈴木三郎 | 平成７年４月～平成８年３月 |
| | | 田所多佳男 | 平成８年４月～ |
| | 課長代理 | 大高春夫 | 平成７年４月～ |
| | 主任 | 小池　孝 | 平成７年４月～ |
| | 主事 | 軍司浩作 | 平成５年４月～平成８年３月 |
| | | 柳澤松雄 | 平成８年４月～ |
| 調査二課 | 課長 | 阿久津　久 | 平成７年４月～平成８年３月 |
| | 調査第一班長 | 後藤哲也 | 平成７年４月～ |
| | 主任調査員 | 中村敬治 | 平成７年４月～平成８年３月　調査 |
| | 主任調査員 | 渡邊幸雄 | 平成７年10月～平成８年３月　調査 |
| | 主任調査員 | 田所則夫 | 平成７年４月～平成７年９月　調査 |
| | 主任調査員 | 茂木悦男 | 平成７年４月～平成７年９月　調査 |
| | 主任調査員 | 菱沼良幸 | 平成７年４月～平成７年９月　調査 |
| 整理課 | 課長 | 山本静男 | 平成７年４月～ |
| | 首席調査員 | 川井正一 | 平成８年４月～ |
| | 主任調査員 | 渡邊幸雄 | 平成８年４月～平成９年３月　整理・執筆・編集 |

3　本書で使用した記号等については，凡例を参照されたい。

4　本書の作成にあたり，鉄滓については，小池渉氏（ミュージアムパーク茨城県自然博物館学芸員）に，井草式土器については横山仁氏（千葉県文化財センター空港調査室長）に，鐸式土器については坂野和信氏

（埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査部課長）に，旧石器については谷旬氏（千葉県文化財センター北部調査事務所所長）にご指導をいただいた。炭化材の分析については，パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

5　発掘調査及び整理に際して，御指導，御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し，深く感謝の意を表します。

6　遺跡の概略

| | |
|---|---|
| ふりがな | （かしこうしかやまるちくとちくかくせいりじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ |
| 書名 | （仮称）荒丸地区土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 |
| 副書名 | 根崎遺跡・西栗山遺跡 |
| 巻次 | Ⅰ |
| シリーズ名 | 茨城県教育財団文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第119集 |
| 著者名 | 渡邊幸雄 |
| 編集機関 | 財団法人　茨城県教育財団 |
| 所在地 | 〒310　茨城県水戸市見和1丁目356番地の2　　TEL 029-225-6587 |
| 発行日 | 1997(平成9)年3月25日 |

| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地 | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ねざきいせき<br>根崎遺跡 | いばらきけん　し<br>茨城県つくば市<br>おおあざねざきあらたはた<br>大字根崎字新畑<br>196ほか | 08220<br>－<br>213 | 36度<br>0分<br>15秒 | 140度<br>4分<br>29秒 | 19950401<br>～<br>19960331 | 13,185m² | （仮称）荒丸地区土地区画整理事業に伴う事前調査 |
| にしくりやまいせき<br>西栗山遺跡 | いばらきけん　し<br>茨城県つくば市<br>おおあざにしくりやまあざだい<br>大字西栗山字台<br>畑254－9ほか | 08220<br>－<br>212 | 36度<br>0分<br>46秒 | 140度<br>4分<br>2秒 | | 16,896m² | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 根崎遺跡 | 集落跡 | 縄文<br>古墳<br><br><br>奈良平安<br>時期不明 | 土坑　2基<br>竪穴住居跡　8軒<br>土坑　1基<br><br>竪穴住居跡　3軒<br>竪穴住居跡　1軒<br>土坑　21基<br>溝　3条 | 縄文土器片<br>土師器　土製品<br>石製品　鉄滓<br>鉄製品<br>土師器　須恵器<br>土師器 | 古墳時代～平安時代，及び近世の複合遺跡である。古墳時代の鍛冶工房跡を検出している。 |
| 西栗山遺跡 | 集落跡 | 古墳<br><br><br>時期不明 | 竪穴住居跡　28軒<br><br>土坑　13基<br>溝　3条 | 土師器　須恵器<br>土製品　鉄製品<br>ミニチュア土器　石製品<br>土師器 | 古墳時代中期及び後期の複合遺跡である。 |

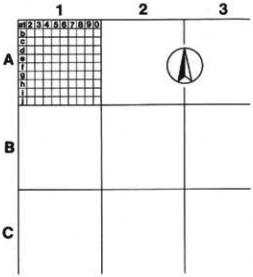
# 凡　　例

1　根崎遺跡，西栗山遺跡の発掘調査を実施するに当たり，遺跡及び遺構の位置を明確にするため調査区を設定した。

調査区の設定は，日本平面直角座標第Ⅸ系座標を基準点とし，根崎遺跡はＸ軸（南北）＋760m，Ｙ軸（東西）＋21,560m，西栗山遺跡はＸ軸（南北）＋1，600m，Ｙ軸（東西）＋20,960mの交点をそれぞれ基準点（Ａ１a₁）とした。

大調査区は，この基準点を基に遺跡範囲内を東西南北各々40m四方の大調査区に分割し，さらに，この大調査区を東西，南北に各々10等分し，４m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は，アルファベットと算用数字を用い，北から南へＡ，Ｂ，Ｃ‥‥，西から東へ１，２，３‥‥とし，「Ａ１区」，「Ｂ２区」のように呼称した。大調査区内の小調査区は，北から南へａ，ｂ，ｃ‥‥ｊ，西から東へ１，２，３‥‥０とし，名称は，大調査区の名称を冠し，「Ａ１a₁区」，「Ｂ２b₂区」のように呼称した。




第１図　調査区呼称概念図

2　遺構，遺物，土層に使用した記号は，次のとおりである。

遺構　　住居跡－ＳＩ　　土坑－ＳＫ　　溝－ＳＤ

遺物　　土器－Ｐ　　土製品－ＤＰ　　石製品－Ｑ　　金属製品・古銭－Ｍ　　拓本土器－ＴＰ

土層　　撹乱－Ｋ

3　遺構・遺物の実測図中の表示は，次のとおりである。

炉・焼土・赤彩　　粘土　　黒色処理　　繊維土器

●　土器　　□　石器・石製品　　★　土製品　　△　金属製品　　▲　鉄滓

4　土層観察と遺物における色調の判定は，『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著　日本色研事業株式会社）を使用した。

5　遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については，次のとおりである。

(1)　遺跡の全体図は原則として縮尺200分の１，住居跡や土坑は60分の１に縮尺し掲載した。

(2)　遺物は原則として３分の１の縮尺にした。種類や大きさにより異なる場合もあり，それらについては，個々にＳ＝１／○と表示した。

(3)　「主軸方向」は長軸方向とし，その主軸が座標北からみて，どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例　Ｎ－10°－Ｅ，Ｎ－10°－Ｗ）。なお，［　］を付したものは推定である。

(4)　土器の計測値は，Ａ－口径　Ｂ－器高　Ｃ－底径　Ｄ－高台径　Ｅ－高台高　Ｆ－体部径とし，単位

はcmである。なお，現存値は（　）で，推定値は［　］を付して示した。

(5) 遺物観察表の備考の欄は，土器の残存率，実測(P)番号，出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

# 目　　次

序
例言
凡例
第１章　調査経緯 …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査経過 …… 1
第２章　位置と環境 …… 3
　第１節　地理的環境 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　根崎遺跡 …… 7
　第１節　遺跡の概要 …… 7
　第２節　基本層序 …… 8
　第３節　遺構と遺物 …… 9
　　１　竪穴住居跡 …… 9
　　(1)　古墳時代の住居跡 …… 9
　　(2)　奈良時代の住居跡 …… 33
　　(3)　平安時代の住居跡 …… 34
　　２　土坑 …… 40
　　(1)　隠し穴 …… 40
　　(2)　その他の土坑 …… 45
　　３　溝 …… 54
　　４　遺構外出土遺物 …… 55
　第４節　まとめ …… 68
第４章　西栗山遺跡 …… 71
　第１節　遺跡の概要 …… 71
　第２節　基本層序 …… 72
　第３節　遺構と遺物 …… 72
　　１　竪穴住居跡 …… 72
　　２　土坑 …… 168
　　３　溝 …… 173
　　４　遺構外出土遺物 …… 174
　第４節　まとめ …… 179
付章　根崎遺跡出土炭化材の樹種同定分析 …… 181

写真図版

# 挿 図 目 次


第 1 図　調査区呼称概念図
第 2 図　周辺遺跡分布図…… 6
根崎遺跡
第 3 図　根崎遺跡調査区割図…… 7
第 4 図　根崎遺跡基本土層図…… 8
第 5 図　第 1 号住居跡実測図…… 10
第 6 図　第 1 号住居跡出土遺物実測図…… 11
第 7 図　第 2 号住居跡出土遺物実測図…… 12
第 8 図　第 2 号住居跡実測図…… 13
第 9 図　第 3 号住居跡・出土遺物実測図…… 15
第10図　第 7 号住居跡・出土遺物実測図…… 17
第11図　第 8 号住居跡実測図…… 18
第12図　第 8 号住居跡炭化材出土状況実測図…… 20
第13図　第 8 号住居跡出土遺物実測図…… 21
第14図　第 9 号住居跡実測図…… 22
第15図　第 9 号住居跡出土遺物実測図…… 23
第16図　第10号住居跡実測図…… 24
第17図　第10号住居跡出土遺物実測図…… 26
第18図　第11号住居跡実測図…… 28
第19図　第11号住居跡出土遺物実測図…… 29
第20図　第12号住居跡実測図…… 30
第21図　第12号住居跡炭化材出土状況実測図…… 31
第22図　第12号住居跡出土遺物実測図…… 32
第23図　第 4 号住居跡出土遺物実測図…… 33
第24図　第 4 号住居跡実測図…… 34
第25図　第 5 号住居跡実測図…… 35
第26図　第 5 号住居跡出土遺物実測図…… 35
第27図　第 6 号住居跡実測図…… 37
第28図　第 6 号住居跡出土遺物実測図…… 38
第29図　第 4 号土坑・出土遺物実測図…… 41
第30図　第 5 号土坑・出土遺物実測図…… 42
第31図　第10号土坑実測図…… 43
第32図　第19号土坑・出土遺物実測図…… 44
第33図　第22号土坑実測図…… 44
第34図　第24号土坑実測図…… 45
第35図　第 3 号土坑・出土遺物実測図…… 45
第36図　第 7 号土坑・出土遺物実測図…… 46
第37図　第 8 号土坑実測図…… 47
第38図　第 9 号土坑実測図…… 48
第39図　第18号土坑実測図…… 48
第40図　第20号土坑・出土遺物実測図…… 49
第41図　第21号土坑・出土遺物実測図…… 50
第42図　第23号土坑実測図…… 51
第43図　第1・2・6・11・12号土坑・出土遺物実測図… 52
第44図　第13～17号土坑実測図…… 53
第45図　第 1 ～ 3 号溝・出土遺物実測図…… 55
第46図　遺構外出土遺物実測図(1)…… 57
第47図　遺構外出土遺物実測図(2)…… 58
第48図　遺構外出土遺物実測図(3)…… 59
第49図　遺構外出土遺物実測図(4)…… 60
第50図　遺構外出土遺物実測図(5)…… 61
第51図　遺構外出土遺物実測図(6)…… 62
第52図　遺構外出土遺物実測図(7)…… 63
第53図　遺構外出土遺物実測図(8)…… 64
第54図　遺構外出土遺物実測図(9)…… 65
第55図　遺構外出土遺物実測・拓影図(10)…… 66
西栗山遺跡
第56図　西栗山遺跡調査区割図…… 71
第57図　西栗山遺跡基本土層図…… 72
第58図　第 1 号住居跡実測図…… 74
第59図　第 1 号住居跡出土遺物実測図(1)…… 75
第60図　第 1 号住居跡出土遺物実測図(2)…… 76
第61図　第 2 号住居跡実測図…… 78
第62図　第 2 号住居跡出土遺物実測図…… 78
第63図　第 3 号住居跡実測図…… 80
第64図　第 3 号住居跡出土遺物実測図…… 81
第65図　第 4 号住居跡実測図…… 83
第66図　第 4 号住居跡竈実測図…… 84
第67図　第 4 号住居跡出土遺物実測図(1)…… 85
第68図　第 4 号住居跡出土遺物実測図(2)…… 86

第69図　第5号住居跡実測図…… 88
第70図　第5号住居跡竈実測図…… 89
第71図　第5号住居跡出土遺物実測図(1)…… 90
第72図　第5号住居跡出土遺物実測図(2)…… 91
第73図　第6号住居跡実測図…… 93
第74図　第6号住居跡出土遺物実測図…… 94
第75図　第7号住居跡実測図…… 95
第76図　第7号住居跡出土遺物実測図(1)…… 97
第77図　第7号住居跡出土遺物実測図(2)…… 98
第78図　第8号住居跡実測図…… 99
第79図　第8号住居跡出土遺物実測図(1)……101
第80図　第8号住居跡出土遺物実測図(2)……102
第81図　第9号住居跡出土遺物実測図……103
第82図　第9号住居跡実測図……104
第83図　第10号住居跡実測図……105
第84図　第10号住居跡竈実測図……106
第85図　第10号住居跡出土遺物実測図……107
第86図　第11号住居跡実測図……110
第87図　第11号住居跡出土遺物実測図(1)……111
第88図　第11号住居跡出土遺物実測図(2)……112
第89図　第12号住居跡実測図……114
第90図　第12号住居跡出土遺物実測図……116
第91図　第13号住居跡・炭化材出土状況実測図…118
第92図　第13号住居跡出土遺物実測図……119
第93図　第14号住居跡実測図……121
第94図　第14号住居跡出土遺物実測図(1)……122
第95図　第14号住居跡出土遺物実測図(2)……123
第96図　第15号住居跡実測図……124
第97図　第15号住居跡出土遺物実測図……125
第98図　第16号住居跡実測図……126
第99図　第16号住居跡出土遺物実測図……126
第100図　第17号住居跡実測図……128
第101図　第17号住居跡出土遺物実測図……129
第102図　第18号住居跡実測図……131
第103図　第18号住居跡竈実測図……132
第104図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)……133
第105図　第18号住居跡出土遺物実測図(2)……134
第106図　第19号住居跡実測図……137
第107図　第19号住居跡出土遺物実測図……138
第108図　第20号住居跡実測図……140
第109図　第20号住居跡出土遺物実測図……141
第110図　第21号住居跡実測図……143
第111図　第21号住居跡出土遺物実測図……143
第112図　第22号住居跡実測図……145
第113図　第22号住居跡出土遺物実測図(1)……146
第114図　第22号住居跡出土遺物実測図(2)……147
第115図　第22号住居跡出土遺物実測図(3)……148
第116図　第23号住居跡実測図……150
第117図　第23号住居跡竈実測図……151
第118図　第23号住居跡出土遺物実測図……151
第119図　第24号住居跡実測図……153
第120図　第24号住居跡出土遺物実測図……154
第121図　第25号住居跡実測図……155
第122図　第25号住居跡竈実測図……156
第123図　第25号住居跡出土遺物実測図……157
第124図　第26号住居跡実測図……158
第125図　第26号住居跡出土遺物実測図……160
第126図　第27号住居跡実測図……162
第127図　第27号住居跡出土遺物実測図……163
第128図　第28号住居跡実測図……164
第129図　第28号住居跡出土遺物実測図……166
第130図　第1・5・10・13号土坑・出土遺物実測図……170
第131図　第2～4・6～8号土坑実測図……171
第132図　第9・11・12号土坑実測図……172
第133図　第1～3号溝実測図……174
第134図　遺構外出土遺物実測図(1)……176
第135図　遺構外出土遺物実測図(2)……177
第136図　遺構外出土遺物実測図(3)……178

付図目次

付図1　根崎遺跡全体図
付図2　西栗山遺跡全体図

# 表 目 次

表1　根崎遺跡・西栗山遺跡周辺遺跡一覧表…… 5
表2　根崎遺跡住居跡一覧表…… 39
表3　根崎遺跡土坑一覧表…… 54
表4　根崎遺跡溝一覧表…… 55
表5　西栗山遺跡住居跡一覧表……167
表6　西栗山遺跡土坑一覧表……173
表7　西栗山遺跡溝一覧表……174
表8　西栗山遺跡出土常総甕一覧表……180

# 写真図版目次

根崎遺跡

ＰＬ１　第１号住居跡完掘，第１号住居跡遺物出土状況，第２号住居跡完掘

ＰＬ２　第２号住居跡遺物出土状況，第５号住居跡完掘，第５号住居跡遺物出土状況

ＰＬ３　第６号住居跡完掘，第６号住居跡遺物出土状況，第８号住居跡完掘

ＰＬ４　第８号住居跡炭化材出土状況，第10号住居跡完掘，第10号住居跡遺物出土状況

ＰＬ５　第11号住居跡完掘，第11号住居跡遺物出土状況，第12号住居跡完掘

ＰＬ６　第12号住居跡遺物出土状況，第４号土坑完掘，第７号土坑遺物出土状況

ＰＬ７　第５号土坑完掘，１区全景，４区全景

ＰＬ８　第１・６・８～11号住居跡出土遺物

ＰＬ９　第11・12号住居跡，第４・７号土坑，遺構外出土遺物

ＰＬ10　第４・５号土坑，遺構外出土遺物

ＰＬ11　第２・８・10・12号住居跡，第12号土坑，遺構外出土遺物

ＰＬ12　第１・２号住居跡出土遺物

西栗山遺跡

ＰＬ13　第１号住居跡完掘，第１号住居跡遺物出土状況，第１号住居跡遺物出土状況

ＰＬ14　第２号住居跡完掘，第２号住居跡遺物出土状況，第３号住居跡完掘

ＰＬ15　第３号住居跡遺物出土状況，第３号住居跡竈灰出土状況，第４号住居跡完掘

ＰＬ16　第４号住居跡遺物出土状況，第５号住居跡完掘，第５号住居跡遺物出土状況

ＰＬ17　第５号住居跡遺物出土状況，第７号住居跡完掘，第７号住居跡遺物出土状況

ＰＬ18　第７号住居跡遺物出土状況，第８号住居跡完掘，第８号住居跡遺物出土状況

ＰＬ19　第８号住居跡遺物出土状況，第８号住居跡遺物出土状況，第８号住居跡遺物出土状況

ＰＬ20　第10号住居跡完掘，第10号住居跡遺物出土状況，第11号住居跡完掘

ＰＬ21　第11号住居跡遺物出土状況，第11号住居跡竈灰出土状況，第12号住居跡完掘

ＰＬ22　第12号住居跡遺物出土状況，第13号住居跡完掘，第13号住居跡遺物出土状況

ＰＬ23　第13号住居跡遺物出土状況，第14号住居跡完掘，第14号住居跡遺物出土状況

ＰＬ24　第14号住居跡遺物出土状況，第15号住居跡完掘，第18号住居跡完掘

ＰＬ25　第18号住居跡遺物出土状況，第18号住居跡竈灰出土状況，第19号住居跡完掘

ＰＬ26　第19号住居跡遺物出土状況，第19号住居跡遺物出土状況，第20号住居跡完掘

ＰＬ27　第22号住居跡完掘，第22号住居跡遺物出土状況，第23号住居跡完掘

ＰＬ28　第23号住居跡遺物出土状況，第25号住居跡完掘，第25号住居跡遺物出土状況
ＰＬ29　第25号住居跡竈灰出土状況，第26号住居跡完掘，第26号住居跡遺物出土状況
ＰＬ30　第26号住居跡竈灰出土状況，第27号住居跡完掘，第27号住居跡遺物出土状況
ＰＬ31　第28号住居跡完掘，第28号住居跡遺物出土状況，第28号住居跡遺物出土状況
ＰＬ32　第28号住居跡遺物出土状況，第１号土坑完掘，第１号土坑遺物出土状況
ＰＬ33　第１・３・４号住居跡出土遺物
ＰＬ34　第４・５・７号住居跡出土遺物
ＰＬ35　第５～８号住居跡出土遺物
ＰＬ36　第８号住居跡出土遺物
ＰＬ37　第８・10～13号住居跡出土遺物
ＰＬ38　第11・13・14号住居跡出土遺物
ＰＬ39　第14～16号住居跡出土遺物
ＰＬ40　第14・16・18・19号住居跡出土遺物
ＰＬ41　第18～20・22号住居跡出土遺物
ＰＬ42　第20・22号住居跡出土遺物
ＰＬ43　第22・25号住居跡出土遺物
ＰＬ44　第25・26・28号住居跡出土遺物
ＰＬ45　第４・５・７・９・11・12・18・20・28号住居跡出土遺物
ＰＬ46　第１・３・５～８・11・12・17・19・20号住居跡出土遺物
ＰＬ47　第８・25・26・28号住居跡，遺構外出土遺物
ＰＬ48　第８・９・19・26号住居跡，第４・26号竈灰中出土遺物

# 第1章　調査経緯

## 第1節　調査に至る経過

茨城県では，西暦2000年開通をめざし，常磐新線の建設とそれに伴う沿線開発に取り組んでいる。当遺跡のある萱丸地区については，平成6年8月18日，茨城県知事は茨城県教育委員会に対し，常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これに対して茨城県教育委員会は，平成6年9月19日から27日にかけて現地踏査を行った。平成7年3月8日，茨城県教育委員会から茨城県知事あてに，常磐新線沿線地域の土地区画整理事業地域内に西栗山・根崎遺跡（萱丸地区）が所在する旨回答した。同日，茨城県知事から茨城県教育委員会あてに，萱丸特定土地区画整理事業に係わる西栗山遺跡（16,896㎡）・根崎遺跡（13,185㎡）の取扱いについて協議があり，文化財保護の立場から再三協議を重ねた。その結果，現状保存が困難であることから，平成7年3月9日，茨城県教育委員会から茨城県知事あてに，西栗山遺跡・根崎遺跡について記録保存の措置を講じる旨回答があり，調査機関として，財団法人茨城県教育財団が紹介された。

茨城県教育財団は，茨城県と埋蔵文化財発掘調査に関する業務委託契約を締結し，平成7年4月1日から根崎遺跡・西栗山遺跡の調査を実施することとなった。

## 第2節　調査経過

根崎遺跡・西栗山遺跡の発掘調査を，平成7年4月1日から平成8年3月30日までの1年間にわたって実施した。以下，調査経過について，その概要を月ごとに記述する。

4月　12日から，発掘調査を開始するため，現場倉庫の設置，調査器材の搬入・補助員募集等の諸準備を行った。

5月　11日に発掘調査の円滑な推進と安全を祈願して鍬入れ式を挙行した。
17日に事務所を開設し，18日から補助員を投入して表採・試掘を開始した。
根崎遺跡は30日から試掘を開始した。西栗山遺跡は22日からそれぞれ試掘を開始した。

6月　西栗山遺跡は，16日に業者による伐開を開始し，26日に終了した。

7月　根崎遺跡は，17日から重機による表土除去，及び人力による表土除去ならびに遺構確認作業を実施した。西栗山遺跡は，引き続き試掘を継続し遺構の確認をした。また，人力による伐開を継続して実施した。

8月　根崎遺跡は，1号住居跡のみ調査を行った。西栗山遺跡は，引き続き伐開作業・表土除去・遺構確認作業を実施した。

9月　根崎遺跡は，18日から本格的に調査を開始した。西栗山遺跡の調査は，根崎遺跡の調査終了後に実施することとし，それまで，遺跡の破損を防ぎ，安全を確保するために現場巡視を計画的に実施した。
西栗山遺跡は，25日に業者による基準杭打ちを実施した。

10月　根崎遺跡は，引き続き1区の調査を実施した。30日までに7号住居跡までの調査を終了した。

11月　根崎遺跡は，14日までに，12号までの住居跡及び土坑・溝の調査をほぼ終了した。14・15日に航空

写真撮影のための遺跡内清掃を１区から３区までを対象に実施した。16日に，遺跡の完掘全景を撮影した。17日に，竪穴住居跡12軒，土坑24基，溝３条の調査を終えた。

西栗山遺跡は，17日から１区の１号住居跡から遺構調査を開始した。

12月　１日までに，根崎遺跡から調査器材やテントなどの移動を完了し，根崎遺跡の撤収を終了した。西栗山遺跡は，１区の遺構調査を継続して実施し，26日までに，16号住居跡までの調査をほぼ終了し，27日から翌月４日まで，年末年始の休業に入った。

１月　５日から西栗山遺跡の調査を再開した。31日までに，28号住居跡の遺構調査を終了した。

２月　土坑及び溝の調査を開始した。28日に，委託者に対しての報告会を実施した。29日に，埋蔵文化財の啓蒙普及のための報道公開を実施した。

３月　１日，現地説明会の諸準備をするとともに，調査をほぼ終了した。３日，西栗山遺跡において，埋蔵文化財の啓蒙普及のため，現地説明会を実施した。６日，航空写真撮影のための遺跡内清掃をし，７日に航空写真撮影を実施した。14日に竪穴住居跡28軒，土坑13基，溝３条の調査を終えた。これまでに，作成した図面類の点検，修正，遺物の洗浄及び注記を行い，19日に現地調査を終了し，調査区では安全対策を行い，25日に現場事務所を閉鎖した。

# 第２章　位置と環境

## 第１節　地理的環境

根崎遺跡は，茨城県つくば市大字根崎字新畑196ほかに所在している。西栗山遺跡は，茨城県つくば市大字西栗山字台畑254-9ほかに所在している。

つくば市は，茨城県の南西部に位置し，東は新治郡新治村・土浦市，南は牛久市・稲敷郡茎崎町・筑波郡伊奈町・筑波郡谷和原村，西は水海道市・結城郡石下町・同郡千代川村・下妻市，北は真壁郡明野町・同郡真壁町・新治郡八郷町等に接している。

つくば市域は，地形的には北東は筑波山及びその支脈からなる筑波山塊，西は利根川の支流小貝川，東は霞ヶ浦に流入する桜川によって画されており，南東には土浦市域を挟んで霞ヶ浦が広がる。この地域は，千葉県北部から茨城県南部に広がる，いわゆる常総台地の北端近くに位置しており，小貝川と桜川によって東西が大きく開析されている。中央部はこれら二つの河川に挟まれた平坦な筑波・稲敷台地で，当遺跡での標高は約20mである。桜川の低地は標高約５mで，台地とは約15mの標高差がある。

両遺跡が立地する筑波・稲敷台地の地層は，貝化石を産する見和層（成田層）を基盤層として，その上に砂まじりのローム層から，クロスラミナの顕著な砂ないし砂礫層である竜ヶ崎砂礫層へ漸移する。その上層は所によってさまざまに変化するが，総じてローム層下に火山灰質粘土層である常総粘土層がみられる。上位は，褐色の関東ローム層におおわれており，ローム層の下底より10～20cm上に黄色軽石層が観察される。

根崎遺跡は，つくば市の南西部，筑波台地の南端に位置し，旧谷田部町に所在する。この台地は，南東方向にのびる舌状台地となっている。当遺跡は，この台地の南端部，標高20mほどのところに位置し，東に西谷田川，西に谷津が入り込んで細長い馬の背状になっている。遺跡周辺の土地利用の現状は，主として宅地と畑地，南西側は，林となっており，谷津に向かって崖になっている。西谷田川及び谷津の低地は，水田となっている。

西栗山遺跡は根崎遺跡から約１kmほど北東に離れているが，同一台地上に位置している。遺跡周辺の土地利用の現状は，主として宅地と畑地及び平地林となっている。当遺跡は，舌状台地のほぼ中央部の南西端に位置し，東側は畑地，西側は谷津に向かって崖状になっている。また，冬には谷津から吹きあがる季節風が強く吹き，調査地点に多くの土ぼこりをおこす。こうした季節風の状況は，基本的には古代以来変化していないものと思われる。そのため，覆土は深く，最深では，１mほどの覆土をもつ住居跡もあった。

両遺跡の周辺とも，近年では，ゴルフ場や工場の進出がめざましく，宅地化の波が伊奈町やつくば市周辺に押し寄せている。

## 第２節　歴史的環境

根崎遺跡・西栗山遺跡の周辺に所在する遺跡を，つくば市谷田部を中心として時代ごとに記載し，歴史的変遷について述べることにする。

旧石器時代の遺跡としては，伊奈町の高野台遺跡，谷和原村の筒戸A・B遺跡[1]，前田村遺跡[2]がある。平成４年度に調査した前田村遺跡では，尖頭器が出土している。

縄文時代の遺跡は，根崎遺跡・西栗山遺跡の周辺の遺跡において，最も数多く確認されている。つくば市谷

田部では，早期から後期の遺物が出土した境松遺跡[(3)]<26>，台成井遺跡<5>，福田遺跡<6>，福田前遺跡<7>，福田坪池の台遺跡<8>，東丸山貝塚<15>などの遺跡がある。谷和原村では，苗代山A遺跡<9>，苗代山B遺跡<10>，前田村遺跡などが確認されている。伊奈町では，前久保貝塚<20>，上街道遺跡<23>，鹿島神社遺跡<24>，小張貝塚<30>などが確認されている。茎崎町では，日枝西遺跡，房内貝塚<14>，小山台遺跡<18>，小山台貝塚<19>，上岩崎北遺跡<21>などが確認されている。

弥生時代の遺跡は，当地域では少ない。つくば市谷田部では，中期から後期の遺物の出土した境松遺跡[(4)]<26>，高山遺跡などが確認されているのみである。伊奈町では，勘兵新田遺跡が確認されている。谷和原村では，弥生時代の遺跡は，確認されていない。茎崎町では，九万坪遺跡が確認されている。

古墳時代の遺跡は，当遺跡の周辺においては，縄文時代に次いで多く確認されている。特に，つくば市谷田部は，県下において最も古墳が多い地域である。そのつくば市谷田部では，境松遺跡<26>，台町古墳群[(5)]<4>，羽成古墳群<3>，下横場古墳群，関の台古墳群，面の井古墳群，高山古墳群，下河原崎古墳群，新たに，平成7年度調査された熊の山遺跡などが確認されている。谷和原村では，西ノ脇遺跡において古墳時代後期の住居跡が5軒確認され，土師器（鬼高期），須恵器片などが出土している。また，並木古墳，福岡古墳群，東福戸古墳，茶畑古墳などが確認されている。茎崎町では，駒込遺跡<16>，下岩崎古墳群，宮本古墳群<12>，沼崎城跡，中山鹿島遺跡などが確認されている。伊奈町では，宮後古墳<27>，勘兵衛新田遺跡，野堀古墳<28>，神生古墳群，大房地遺跡<29>などが確認されている。

奈良・平安時代の遺跡は，つくば市谷田部では，平成7年度に当財団によって調査された熊の山遺跡において，確認されているのみである。伊奈町・茎崎町においては，奈良・平安時代の遺跡は確認されていない。谷和原村では，大谷津A遺跡，筒戸A・B遺跡から数軒の竪穴住居跡が確認されている。新たに，平成6年度調査した前田村遺跡から，奈良・平安時代の住居跡が数軒確認されている。従って，今回調査した根崎遺跡の奈良・平安時代の住居跡は，この地域の奈良・平安時代の様子を知る上で貴重であることがわかる。なお，この時代に編纂された『和名抄』に，八部，嶋名ほか七郷の名称が見られ，[(7)]当地域は八部郷に属していたとみられる。

中・近世の遺跡は，つくば市谷田部では，熊の山城跡，高須賀城跡，谷田部城跡<11>，小野崎館跡，古館跡，刈間城跡，面野井城跡などがある。なお，新たに，平成7年度調査の熊の山遺跡においても近世の五輪塔の一部が出土している。伊奈町では，板橋城跡<22>，小張城跡<25>など4遺跡を確認している。谷和原村では，西ノ脇遺跡で地下式壙7基が確認され，土師質土器などが出土している。[(8)]谷和原村では，筒戸城跡，前田村遺跡などにおいて確認がされている。前田村遺跡では，中近世の墓壙が確認されている。[(9)]茎崎町では御城跡<13>，小山城跡<17>などが確認されている。なお，近世末のつくば市谷田部の大部分は，谷田部藩領になっている。[(10)]

＊本文中の<>内の番号は，表1・第2図中の該当番号と同じである。

註

（1）　茨城県教育財団　「水海道都市計画事業・小絹土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」
『茨城県教育財団文化財調査報告第24集』　1984年3月

（2）　茨城県教育財団　「伊那・谷和原丘陵部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書1」
『茨城県教育財団文化財調査報告第87集』　1994年3月

（3）　茨城県教育財団　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財

団調査報告第41集』　1987年３月

（４）　（３）に同じ

（５）　（３）に同じ

（６）　茨城県教育委員会　『遺跡・古墳発掘調査報告書Ⅷ』　1995年３月

（７）　池邊　彌　『和名類聚抄郷里驛名考證』　吉川弘文館　1988年11月

（８）　（６）に同じ

（９）　（６）に同じ

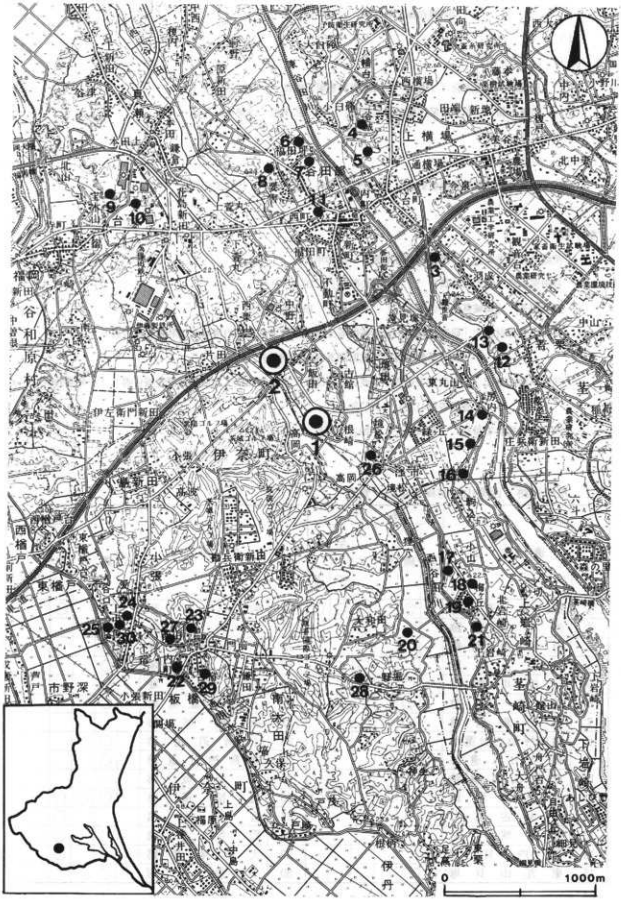
（10）　茨城県史編纂幕末維新史部会　『茨城県史料　維新編』　1972年６月

参考文献

- 茨城県教育委員会　『茨城県遺跡地図』　1990年３月
- 谷田部の歴史編さん委員会　『谷田部の歴史』　1975年９月
- 蜂須紀夫　『茨城県地学のガイド』　コロナ社　1986年11月
- 茨城県教育財団　「研究学園都市計画桜柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）」
  『茨城県教育財団文化財調査報告第93集』　1994年３月
- 茨城県教育財団　「主要地方道取手筑波線道路改良工事地内埋蔵文化財発掘調査報告書」『茨城県教育財団調査報告第41集』　1987年３月
- 茨城県史編集委員会　『茨城県史　原始古代編』　1985年３月

表１　根崎遺跡・西栗山遺跡周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | | 番号 | 遺跡名 | 時代 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 奈平 | 中近 | | | 旧 | 縄 | 弥 | 古 | 奈平 | 中近 |
| ① | 根崎遺跡 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 16 | 駒込遺跡 | | | | ○ | | |
| ② | 西栗山遺跡 | | | | ○ | | | 17 | 小山城跡 | | | | | | ○ |
| 3 | 羽成古墳群 | | | | ○ | | | 18 | 小山台遺跡 | | ○ | | | | |
| 4 | 台町古墳群 | | | | ○ | | | 19 | 小山台貝塚 | | ○ | | | | |
| 5 | 台成井遺跡 | | ○ | | | | | 20 | 前久保貝塚 | | ○ | | | | |
| 6 | 福田遺跡 | | ○ | | | | | 21 | 上岩崎北遺跡 | | ○ | | | | |
| 7 | 福田前遺跡 | | ○ | | | | | 22 | 板橋城跡 | | | | | | ○ |
| 8 | 福田坪池の台遺跡 | | ○ | | | | | 23 | 上街道遺跡 | | ○ | | | | |
| 9 | 苗代山Ａ遺跡 | | ○ | | | | | 24 | 鹿島神社遺跡 | | ○ | | | | |
| 10 | 苗代山Ｂ遺跡 | | ○ | | | | | 25 | 小張城跡 | | | | | | ○ |
| 11 | 谷田部城跡 | | | | | | ○ | 26 | 境松遺跡 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 12 | 宮本古墳群 | | | | ○ | | | 27 | 宮後古墳 | | | | ○ | | |
| 13 | 御城跡 | | | | | | ○ | 28 | 野堀古墳 | | | | ○ | | |
| 14 | 房内貝塚 | | ○ | | | | | 29 | 大房地遺跡 | | | | ○ | | |
| 15 | 東丸山貝塚 | | ○ | | | | | 30 | 小張貝塚 | | ○ | | | | |


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
1000m

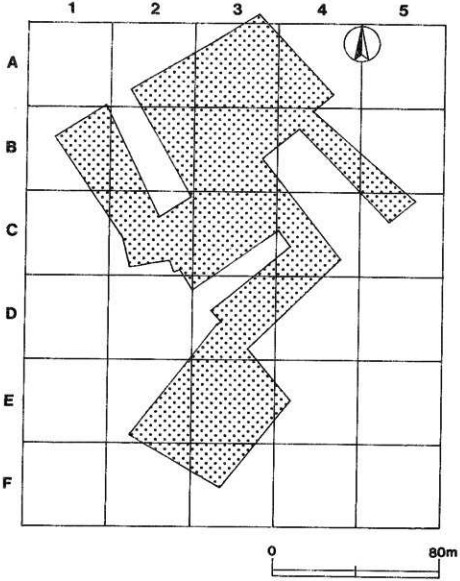
第２図　周辺遺跡分布図

# 第3章　根崎遺跡

## 第1節　遺跡の概要

根崎遺跡は，つくば市の南部，標高21m前後の筑波台地南端に位置している。この台地の南端部は，東に西谷田川が南流し，西に谷津が入り込んで細長い馬の背状になっている。調査面積は13,185㎡である。現況は，畑と山林として利用されている。台地の平坦部からは，縄文土器・土師器片・石器・鉄滓などが採集でき，調査前は縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡であると考えられた。また，当遺跡が所在する場所の小字名は，「金屏」といい，西の谷津に向かう崖下から，鉄滓を採集している。

調査は，1～5区に区分して実施した。今回の調査によって確認された遺構は，竪穴住居跡12軒，土坑24基，




**第3図　根崎遺跡調査区割図**

溝3条である。

縄文時代の遺構は，陥し穴2基が確認された。その他，縄文土器片が集中して出土した地点を，1区で確認している。

古墳時代の遺構は，中期の竪穴住居跡5軒，土坑1基，後期の竪穴住居跡3軒が確認された。住居跡は，1，2，4区から確認され，このうち炉をもつものが4軒，竈をもつものが3軒である。古墳時代後期の竪穴住居跡からは，多くの鉄滓が出土している。なお，時期を特定できないが，竈をもっていることから古墳時代後期以降と思われる竪穴住居跡1軒を確認している。

奈良時代の遺構は，竪穴住居跡1軒である。竈をもっている。

平安時代の遺構は，竪穴住居跡2軒である。いずれも竈をもつ住居跡である。

遺物は，遺物収納箱(60×40×20cm)に23箱出土している。

縄文時代の遺物は，縄文土器（深鉢形土器及びその土器片），石器（石鏃，打製石斧，磨石等）が出土している。

古墳時代の遺物は，土師器（坏，椀，高坏，甕及びその破片等），土製品（土玉，紡錘車，支脚），石器・石製品（臼玉，紡錘車，双孔円板等），鉄製品（刀子）が出土している。

平安時代の遺物は，少量の土師器片が出土しているのみである。

## 第2節　基本層序

調査区内にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った（第4図）。

第1層は，14cm前後の厚さの耕作土層で，黒褐色をしている。

第2層は，10～20cmの厚さで，暗褐色をしたソフトローム層である。ところどころに耕作による攪乱がある。

第3層は，8～20cmの厚さで，褐色をしたハードローム層である。

第4層は，40～50cmの厚さで，スコリア粒子少量と炭化物を微量に含む黒色帯である。

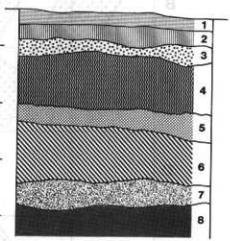
第5層は，20～32cmの厚さで，褐色をしたハードローム層である。

第6層は，32～66cmの厚さで，褐色土層で上層よりやや粘性がある。

第7層は，22～30cmの厚さで，粘性としまりがある黒色帯である。

第8層は，20～36cmの厚さで，粘土層に近いハードローム層である。

住居跡などの遺構は，第2層上面で確認した。



第4図　根崎遺跡基本土層図

## 第3節　遺構と遺物

### 1　竪穴住居跡

今回の調査で古墳時代の竪穴住居跡8軒，奈良時代の竪穴住居跡1軒，平安時代の竪穴住居跡2軒，時期不明の竪穴住居跡1軒が検出されている。住居跡間の重複はなく，遺存状態は比較的良好である。

以下，検出された住居跡の特徴や出土遺物について記述する。

#### (1)　古墳時代の住居跡

**第1号住居跡**（第5図）

**位置**　調査1区南西端部，F2$_{a6}$区。

**規模と平面形**　長軸4.55m，短軸(3.30)mの長方形。

**主軸方向**　N－55°－W

**壁**　壁高は23～78cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。南西側の一部が，調査区域外になっている。

**床**　全体的に平担で，竈の周辺が踏み固められている。

**竈**　北西壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ100cm，幅120cmである。両袖部とも残存しており，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は楕円形で掘りくぼめられていない。煙道は火床から緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
4　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　純い赤褐色　ローム粒子多量，炭化粒子・焼土小ブロック微量，焼土粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量
7　暗 赤 褐 色　ローム粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック微量
8　暗 赤 褐 色　炭化粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，焼土中大ブロック微量

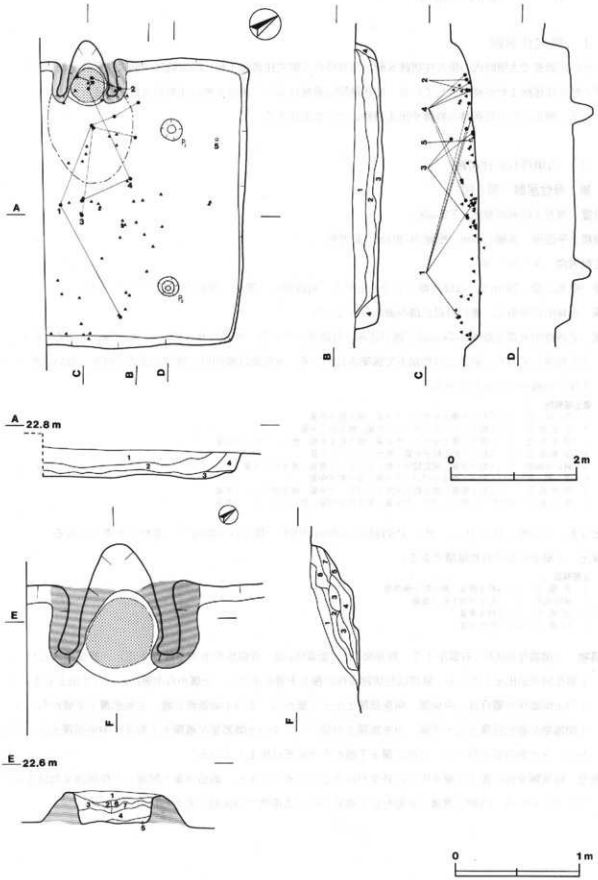
**ピット**　2か所（$P_1$・$P_2$）。$P_1$，$P_2$は径30～35cmの円形，深さ27～33cmで，主柱穴と考えられる。

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

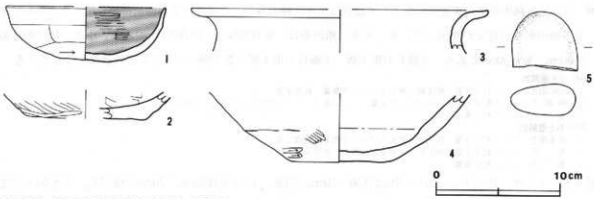
**土層解説**
1　黒 褐 色　ローム粒子微量，焼土粒子極微量
2　極暗褐色　ローム粒子・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量

**遺物**　土師器片469点，石器片1点，鉄滓887点（重量6670g，着磁性を有する鉄滓3点），及び混入した縄文土器片54点が出土している。鉄滓は住居跡全体の覆土下層を中心に，上層から中層にわたって出土している。1の土師器坏が竈付近，中央部，南東部覆土上・下層から，2の土師器甕が竈，左袖部覆土下層から，3の土師器甕が竈付近覆土上・下層，中央部覆土中層から，4の土師器甕が竈覆土下層及び中央部覆土上・中層から，5の敲石が北コーナー付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　住居跡全体の覆土下層を中心に鉄滓が出土していることから，鍛冶作業と関連した住居跡または工房跡とも考えられる。時期は遺構の形態や出土遺物から，古墳時代の後期と考えられる。




**第5図　第1号住居跡実測図**




**第6図　第1号住居跡出土遺物実測図**

第1号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第6図 1 | 坏 土師器 | A[12.8] B 4.4 C 3.2 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・パミス・スコリア，鉄い黄橙色 普通 | P1 50%，竈付近・中央部・南東部覆土上・下層 |
| 2 | 甕 土師器 | B( 2.3) C 9.8 | 底部から体部下位にかけての破片。平底。 | 体部外面，底部ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，橙色 普通 | P117 5%，竈・竈左袖部覆土下層 |
| 3 | 甕 土師器 | A[24.0] B( 3.5) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・石英・雲母・スコリア，橙色，普通 | P2 5%，竈付近・中央部覆土上中下層 |
| 4 | 甕 土師器 | B( 5.6) C 8.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラナデ。体部内面ナデ。体部下位ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・石英・雲母，鈍い褐色 普通 | P3，10%，竈内覆土下層・中央部覆土上中層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 5 | 敲石 | 4.9 | 5.4 | 2.5 | 85 | 砂岩 | 覆土下層 | Q1 |

**第2号住居跡**（第8図）

**位置**　調査1区西端部，E2$_{65}$区。

**規模と平面形**　長軸5.80m，短軸(5.40)mの方形。

**主軸方向**　N－23°－E

**壁**　壁高は40～51cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。西側の一部が，調査区域外になっている。

**壁溝**　幅13～30cm，深さ5～10cmでほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平担で，竈の周辺及び中央部が踏み固められている。

**竈**　北東壁中央部を20cmほど壁外へ掘り込み，付設されている。規模は長さ100cm，幅120cmである。両袖部とも残存しており，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は楕円形で掘りくぼめられていない。煙道は火床から緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，焼土粒子少量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物・焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小中ブロック中量
4　暗赤褐色　炭化粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
5　赤褐色　ローム粒子・ローム小中大ブロック中量，炭化粒子少量
6　暗赤褐色　炭化粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック少量
7　暗赤褐色　炭化粒子微量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
8　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，焼土中ブロック微量

**炉**　炉は住居跡中央部南東寄りにある。平面形は大きな楕円形をした部分とその西側に張り出すような形で小さな楕円形状の部分が突出している。大きな楕円形は，長径190cm，短径90cmである。小さな楕円形は長径60cm，短径40cmである。土層Fの第1層，土層Gの第1層と第2層には，それぞれ鉄滓を含んでいる。

**SP－F土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化物・焼土小ブロック微量，鉄滓少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量

**SP－G土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化物・焼土小ブロック微量，鉄滓少量
2　黒　　色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量，鉄滓少量
3　褐　　色　ローム粒子多量

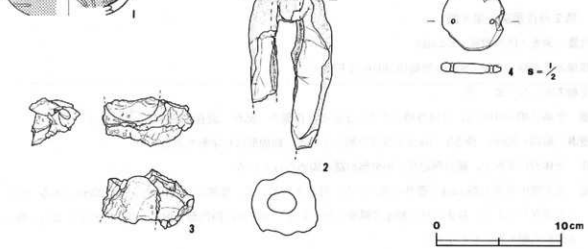
**ピット**　4か所（$P_1$～$P_4$）。$P_1$，$P_2$は径50～70cmの円形，$P_3$は長径50cm，30cmの楕円形，深さ70cmで主柱穴である。$P_4$は径25cmの円形，深さ22cmで，出入り口施設に伴うピットであると考えられる。

**覆土**　6層からなる自然堆積である。

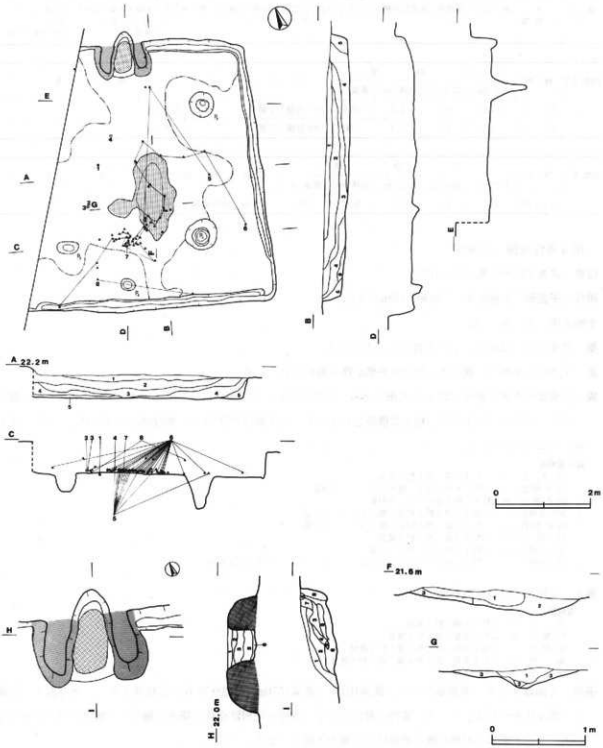
**土層解説**
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
3　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物・焼土粒子微量
6　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量

**遺物**　土師器片6点，羽口2点，土製品4点，須恵器片3点，種子1点，鉄滓893点（重量8350g，着磁性を有する鉄滓31点），双孔円板1点，及び混入した縄文土器片25点が出土している。1の土師器坏，2，3の羽口及び4の双孔円板が中央部覆土下層から，5の椀形滓，6の着磁性をもつ鉄滓，7の海綿状滓，8の流動滓（写真掲載）が覆土上・下層からそれぞれ出土している。

**所見**　住居跡全体の覆土下層から鉄滓と羽口が出土し，炉の火床部からも鉄滓が出土していることから，工房跡とも考えられる。遺物の種類が少ないため時期決定は難しいが，出土遺物や住居跡の主軸線から古墳時代の後期と考えられる。




**第7図　第2号住居跡出土遺物実測図**




第8図　第2号住居跡実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第7図 1 | 甕 土師器 | B(2.4) | 体部片。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，橙色 青通 | P118 5% 中央部覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2 | 羽口 | (13.1) | (6.8) | 2.3 | (234) | 中央部覆土下層 | DP2 |
| 3 | 羽口 | (3.8) | (4.3) | (5.4) | (90) | 中央部覆土下層 | DP3 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 4 | 双孔円板 | 3.4 | (3.4) | 0.5 | 0.47 | (85) | 滑石 | 中央部覆土下層 | Q3 |

### 第3号住居跡（第9図）

**位置**　調査1区中央部，F3$_{g1}$区。

**規模と平面形**　長軸3.80m，短軸3.60mの方形。

**主軸方向**　N－26°－E

**壁**　壁高は25～42cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，竈の周辺及び中央部が踏み固められている。

**竈**　北東壁中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ95cm，幅93cmである。両袖部とも残存しており，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は長径53cm，短径35cmの楕円形で，15cmほど掘りくぼめられている。

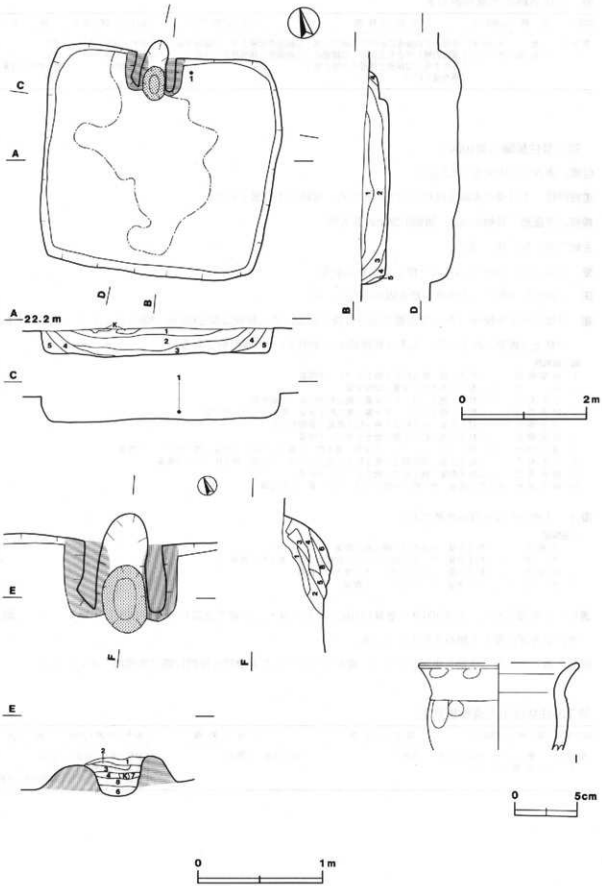
竈土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小中ブロック中量
3　暗 赤 褐 色　焼土粒子・焼土小中ブロック中量
4　鈍い赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土小ブロック少量
5　暗 赤 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック中量
6　暗　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
7　鈍い赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量
8　鈍い赤褐色　ローム粒子・焼土小大ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量

**覆土**　5層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量

**遺物**　土師器片9点，須恵器片4点，鉄滓164点（重量1570g，着磁性を有する鉄滓3点），及び混入した縄文土器片10点が出土している。遺物の数は少なく，鉄滓が住居跡全体の覆土上層から下層にかけて出土している。1の土師器小形甕が竈左袖部付近の覆土下層から出土している。

**所見**　時期は住居跡の主軸線や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。




第9図　第3号住居跡・出土遺物実測図

第３号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第９図<br>1 | 甕<br>土師器 | A(12.8)<br>B(7.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つ。 | 口縁部外面横ナデ。口縁部外面上位に指頭痕。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・パミス・スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P４<br>10%<br>竈左袖部付近覆土下層 |

## 第７号住居跡（第10図）

**位置**　調査１区中央部，E３$_{61}$区。

**重複関係**　１号溝が本跡を掘り込んでいるため，本跡が１号溝より古い。

**規模と平面形**　長軸3.68m，短軸3.28mの長方形。

**主軸方向**　N－19°－E

**壁**　壁高は15～38cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈**　北壁中央部を壁外へ５cmほど掘り込み付設されている。規模は長さ60cm，幅85cmである。袖部は砂まじりの粘土で構築されている。火床は長径40cm，短径30cmの楕円形である。

竈土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子少量，山砂少量
3　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，山砂少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
5　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量，鉄滓を含む
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック中量
7　鈍い赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック微量
8　暗赤褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック微量
9　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック少量
10　暗赤褐色　炭化粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂少量

**覆土**　４層からなる自然堆積である。

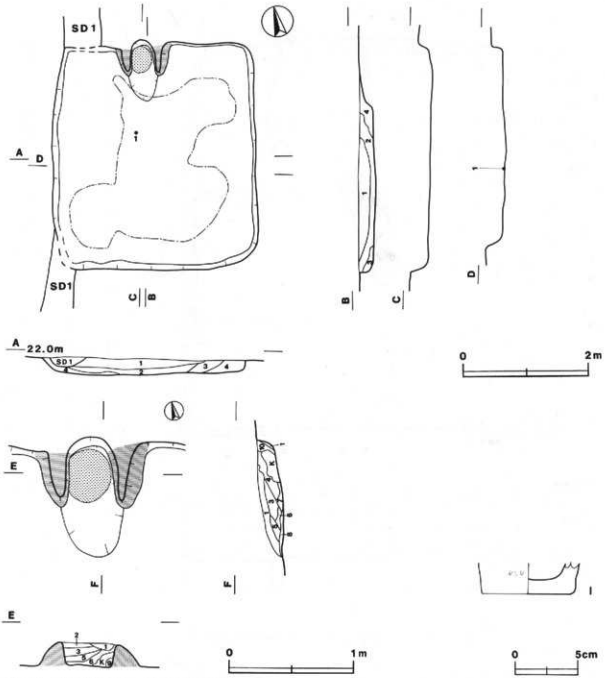
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　黒　　色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片12点，鉄滓300点（重量1710g），及び混入した縄文土器片４点が出土している。１の土師器甕が中央部の覆土下層から出土している。

**所見**　遺物が少なく時期を決定しにくい。竈をもつことから古墳時代後期以降の住居跡と考えられる。

第７号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第10図<br>1 | 甕<br>土師器 | B(2.5)<br>C 7.5 | 底部片。平底。 | 内・外面ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・石英・雲母，鈍い褐色<br>普通 | P22<br>5%<br>中央部覆土下層 |




**第10図　第７号住居跡・出土遺物実測図**

**第８号住居跡**（第11・12図）

**位置**　調査２区北西部，B１㎢区。

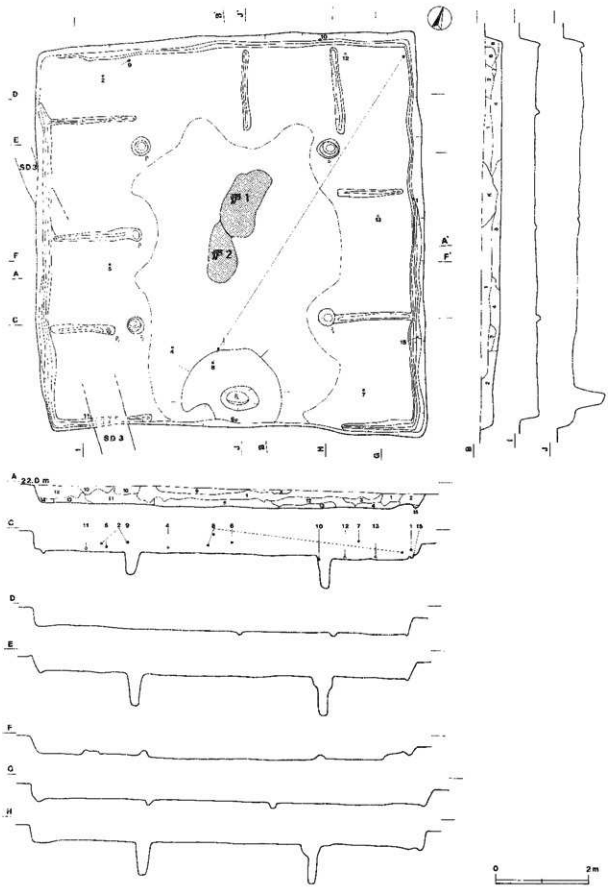
**重複関係**　本跡は第３号溝によって掘り込まれていることから，本跡の方が第３号溝より古い。

**規模と平面形**　長軸8.40m，短軸8.30mの方形。

**主軸方向**　N－20°－W

**壁**　壁高は35～38cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　上幅10～30cm，下幅２～12cm，床面からの深さは４～８cmで，ほぼ全周している。断面形はU字形をしている。




第11図　第８号住居跡実測図

**床**　全体的に平坦で硬く，特に炉の周辺が踏み固められている。間仕切り溝と考えられる溝が，7か所ある。そのうち，3か所は，$P_2$，$P_6$，$P_7$に位置している。

**炉**　2か所。炉1は中央部北寄りにあり，長径150cm，短径70cmの不整楕円形で，床の掘りくぼみはほとんどない。覆土はローム粒子，ローム小中ブロック，焼土粒子，焼土小ブロックを含む暗赤褐色土である。炉2は炉1の南側に隣接してあり，長径140cm，短径60cmの不整楕円形で，床の掘りくぼみはほとんどない。覆土はローム粒子，ローム小ブロック，焼土粒子，焼土小ブロックを含む暗赤褐色土である。

**ピット**　7か所（$P_1$～$P_7$）。$P_1$～$P_4$は径36～48cmの円形，深さ50～83cmで，主柱穴である。$P_5$は長径80cm，短径50cmの楕円形，深さ60cmで，出入り口のピットと考えられる。$P_6$，$P_7$は性格不明である。

**覆土**　15層からなる人為堆積である。

土層解説

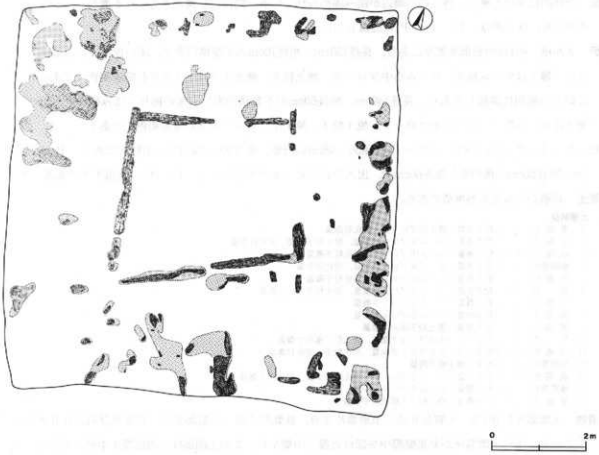
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量，炭化材少量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 4 | 極暗褐色 | ローム粒子多量，ローム大ブロック少量，炭化材中量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，焼土粒子極めて微量 |
| 7 | 黒褐色 | ローム粒子微量，ローム小ブロック微量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 9 | 黒褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子極めて微量 |
| 10 | 黒色 | ローム粒子・ローム小ブロック微量，焼土粒子極めて微量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック少量，炭化粒子・炭化材微量 |
| 12 | 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 |
| 14 | 極暗褐色 | ローム粒子微量，ローム小ブロック少量 |
| 15 | 黒褐色 | ローム粒子微量，焼土粒子・炭化粒子少量 |

**遺物**　土師器片1,101点，土製品9点，須恵器片3点，鉄製品2点，石製品2点，石器及び石器片6点が出土している。1の土師器坏が北東壁際中央部付近覆土中層から，2の土師器坏が西部覆土中層から，3の土師器坏が覆土中から，4の土師器坏が南東部覆土中層から，5の土師器椀が南西部覆土中層から，6の土師器椀が南東壁覆土中層から，7の土師器鉢が東コーナー覆土上層から，8の土師器坩が北コーナー南東部覆土上・中層から，9の土師器甕が西壁際覆土中層から，10の須恵器高坏が北西壁際床面直上から，11の敲石が南コーナー覆土下層から，12の紡錘車が北コーナー付近の床面直上から，13の臼玉が北コーナー付近覆土下層から，14の有孔円板が覆土中から，15の刀子が南東壁際東コーナー寄りの床面直上から，それぞれ出土している。

**所見**　住居跡全体に焼土塊と炭化材が広がっていることから焼失家屋と考えられる。時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代の中期と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図 1 | 坏 土師器 | A 12.8<br>B 4.2 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス・スコリア，内黒・赤褐色外黄・褐色，普通 | P23<br>30%，北東壁際中央部付近覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.6]<br>B( 3.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面磨滅著しく調整不明。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・石英・パミス，明赤褐色普通 | P25<br>25%<br>西部覆土中層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[13.9]<br>B( 3.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・長石・パミス明赤褐色普通 | P26<br>15%<br>覆土中 |
| 4 | 坏 土師器 | A[13.2]<br>B( 4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス・スコリア，赤褐色普通 | P27<br>10%<br>南東部覆土中層 |



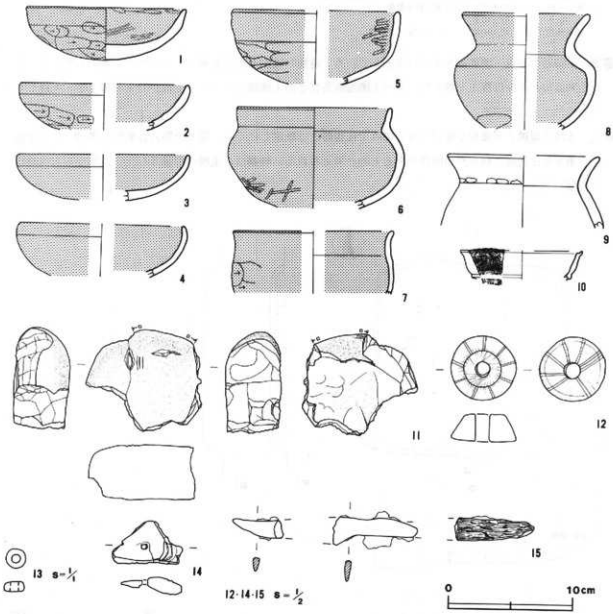

**第12図　第８号住居跡炭化材出土状況実測図**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第13図 5 | 椀 土師器 | A[13.6] B( 6.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラナデ。体部内面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス 赤色 普通 | P24 20% 南西部覆土中層 |
| 6 | 椀 土師器 | A[12.3] B( 8.1) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。体部内面磨滅が著しいため調整不明。 | 砂粒・パミス・スコリア，明赤褐色 普通 | P33 80% 南東壁際覆土中層 |
| 7 | 鉢 土師器 | A[13.0] B( 5.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス 明赤褐色 普通 | P34 10%。東コーナー覆土上層 |
| 8 | 坩 土師器 | A[10.0] B( 9.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内・外面赤彩。体部内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，明赤褐色。普通 | P35 70%。二次焼成 覆土上・中層 |
| 9 | 小形壺 土師器 | A[12.4] B( 5.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位に指頭痕。 | 砂粒・パミス 橙色 普通 | P36 20% 西壁際覆土中層 |
| 10 | 高坏 須恵器 | A[ 9.8] B( 2.3) | 口縁部片。口縁部下位に稜をもつ。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に波状文を施す。 | 砂粒 黄灰色 普通 | P37 5% 北西壁際床面直上 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 11 | 敲石 | (8.1) | (9.4) | (4.5) | ― | (460) | 安山岩 | 南コーナー覆土下層 | Q7 |
| 12 | 紡錘車 | 3.5 | 3.5 | 1.5 | 0.85 | 24 | 泥質片岩 | 北コーナー付近床面 | Q5 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第13図13 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.3 | 0.2 | 0.1 | 滑石 | 覆土下層 | Q6 |
| 14 | 有孔円板 | (3.7) | (2.3) | (0.8) | 0.6 | (4.9) | 滑石 | 覆土中 | Q11 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 15 | 刀子 | [16.3] | (1.6) | (0.3) | (11) | 鉄 | 東コーナー寄り床面 | M1 |




第13図　第8号住居跡出土遺物実測図

**第９号住居跡**（第14図）

**位置**　調査２区中央部，Ｂ１g区。

**規模と平面形**　長軸3.30m，短軸3.20mの方形である。

**主軸方向**　Ｎ－３°－Ｗ

**壁**　壁高は25～33cmで，外傾して立ち上がる。

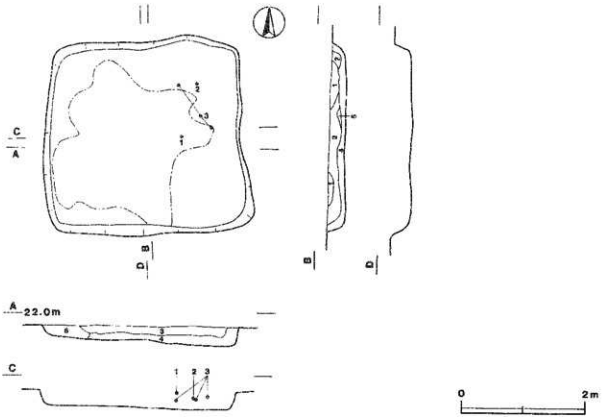
**床**　全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

**覆土**　６層からなる人為堆積である。

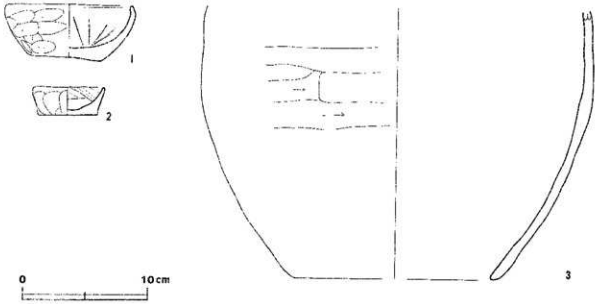
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム小大ブロック・焼土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子中量
6　黒暗褐色　ローム粒子中量，ローム大ブロック微量

**遺物**　土師器片36点，須恵器片１点が出土している。遺物のほとんどは北東コーナー付近に集中している。１の土師器椀が中央部覆土上層から，３の土師器甕及び２の土師器ミニチュア土器が北東部覆土中・下層からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡は規模と平面形が確認できるのみで住居跡とは断定しにくい。第８号竪穴住居跡に隣接しているので，第８号住居跡と何らかの関係があるものと考えられる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代の中期と考えられる。




第14図　第９号住居跡実測図




**第15図　第９号住居跡出土遺物実測図**

第９号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第15図 1 | 椀 土師器 | A 12.8<br>B 4.2<br>C 5.8 | 口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ナデ。 | 砂粒・石英・雲母・パミス・スコリア 鈍い橙色，普通 | P.28<br>98%<br>中央部覆土上層 |
| 2 | ミニチュア器 土師器 | A 5.7<br>B 2.3<br>C 4.7 | 平底。体部はやや外傾して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部外面横ナデ。体部外面ナデ。内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P.41<br>100%<br>北東部覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | B(22.0)<br>C(16.0) | 底部から体部にかけての破片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，鈍い黄橙色，普通 | P.40<br>15%<br>北東部覆土中下層 |

**第10号住居跡**（第16図）

**位置**　調査４区西部，B２㎢区。

**規模と平面形**　長軸4.40m，短軸4.28mの方形である。

**主軸方向**　N－40°－W

**壁**　壁高は28～36cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅８～30cm，深さ５cmでほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

**炉**　２か所。炉１は北西部寄りにある地床炉であり，長径70cm，短径50cmの楕円形である。炉２は炉１の南東側に隣接しており，長径75cm，短径40cmの楕円形である。

**炉1土層解説**

1　極暗赤褐色　ローム粒子少量，焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
2　暗赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

**炉2土層解説**

1　極暗赤褐色　ローム粒子・ローム中ブロック微量，焼土小ブロック・焼土大ブロック少量

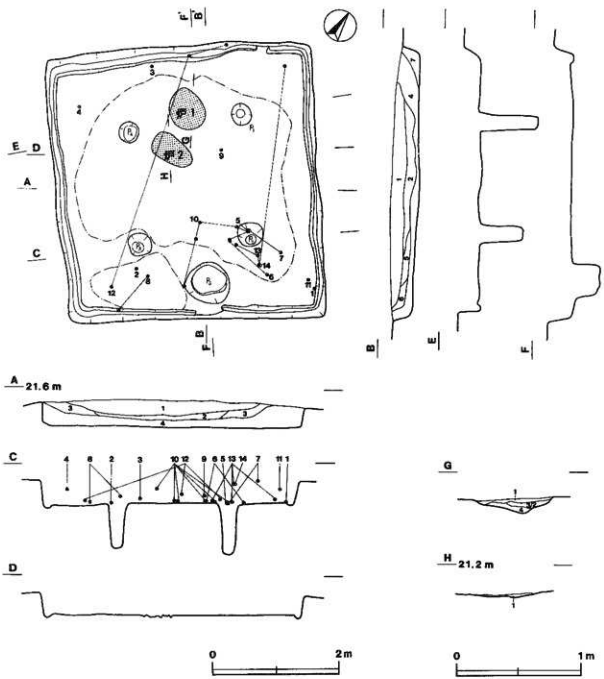
**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$～$P_4$は径35～40cmの円形，深さ70～94cmで，主柱穴である。$P_5$は長径71cm，短径64cmの楕円形で，出入り口のピットと考えられる。

**覆土**　7層からなる自然堆積である。

**土層解説**

1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
7　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量

**遺物**　土師器片1,097点，土製品13点が出土している。1の土師器坏が北東壁際の床面直上から，2の土師器坏




**第16図　第10号住居跡実測図**

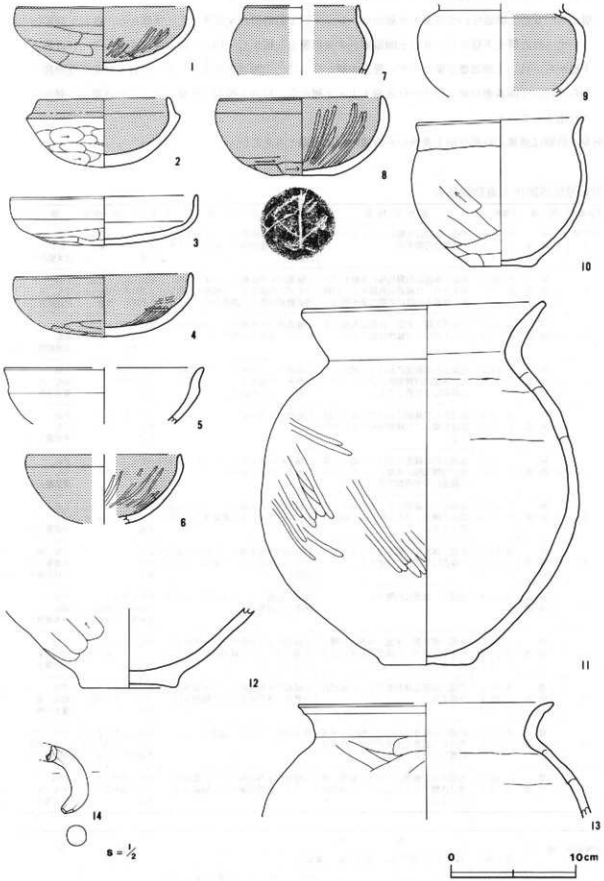
が南コーナー付近の床面直上から，3の土師器坏が北西部覆土下層から，4の土師器坏が西コーナー覆土中層から，5の土師器坏が東部覆土下層から，6，7の土師器椀が東部覆土上・下層から，8の土師器椀が南コーナー付近覆土下層から，9の土師器壺が中央部覆土下層から，10の土師器甕が東コーナー付近覆土中・下層から，11の土師器甕が東コーナー覆土中層から，12の土師器甕が南コーナー付近及び北西壁際覆土下層から，13の土師器甕が東コーナー付近覆土上・下層から，14の土製勾玉が東コーナー付近覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代の中期と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17図 1 | 坏 土師器 | A 13.8<br>B 5.1<br>C 5.5 | 平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，赤褐色<br>普通 | P42<br>100%<br>北東壁際床面直上 |
| 2 | 坏 土師器 | A 10.4<br>B 5.5 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。内面赤彩。口縁部外面赤彩。内面磨滅が著しく調整不明。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，内面赤色<br>外面橙色，普通 | P43<br>98%，南コーナー付近床面直上 |
| 3 | 坏 土師器 | A 15.0<br>B 3.9 | 口縁部欠損。丸底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，鈍い橙色，普通 | P44<br>90%<br>北西部覆土下層 |
| 4 | 坏 土師器 | A[14.2]<br>B 5.0 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部にはほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。体部外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤褐色<br>普通 | P45<br>50%，西コーナー覆土中層 |
| 5 | 坏 土師器 | A[16.0]<br>B( 4.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾し，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，黒色<br>普通 | P46<br>15%<br>東部覆土下層 |
| 6 | 椀 土師器 | A[12.2]<br>B 5.6 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P46<br>20%<br>東部覆土下層 |
| 7 | 椀 土師器 | A[11.0]<br>B( 5.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。内・外面ともに磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，赤褐色<br>普通 | P47<br>20%<br>東部覆土下層 |
| 8 | 椀 土師器 | A 13.0<br>B 6.3<br>C 5.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス・雲母<br>赤色<br>普通 | P50，98%，底部木葉痕，南コーナー付近覆土下層 |
| 9 | 小形壺 土師器 | B( 7.0) | 体部片。体部は内彎する。 | 頸部内面横ナデ。内面赤彩。外面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス<br>内面鈍い赤褐色，外面赤褐色，普通 | P51<br>20%<br>中央部覆土下層 |
| 10 | 甕 土師器 | A 13.3<br>B 12.0<br>C 5.0 | 体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面，底部ヘラナデ。口縁部に粘土紐を貼り付けている。 | 砂粒・雲母・パミス<br>スコリア，鈍い黄橙色，普通 | P53<br>70%，東コーナー付近覆土中・下層 |
| 11 | 甕 土師器 | A 19.2<br>B 20.2<br>C 7.0 | 平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，鈍い褐色<br>普通 | P52<br>80%，東コーナー覆土中層 |
| 12 | 甕 土師器 | B( 6.4)<br>C 7.5 | 底部から体部にかけての破片。平底。突出した底部で中央が凹む。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，内茶褐色<br>外褐灰色，普通 | P56，15%，南コーナー付近，北西壁際覆土下層 |
| 13 | 甕 土師器 | A[20.4]<br>B( 9.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア，灰黄褐色<br>普通 | P54<br>10%，東コーナー付近覆土上・下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 14 | 勾玉 | (3.7) | — | 1.0 | — | (6.2) | 東コーナー付近覆土上層 | DP1 |




第17図　第10号住居跡出土遺物実測図

**第11号住居跡**（第18図）

**位置**　調査4区中央部，B3 $d_8$区。

**規模と平面形**　長軸6.70m，短軸6.43mの方形。

**主軸方向**　N－43°－W

**壁**　壁高は40～50cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅15～41cm，深さ3～6cmでほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

**炉**　中央北西部寄りにある地床炉であり，径55cmの円形である。

**炉土層解説**
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック・焼土大ブロック少量，炭化粒子微量

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$～$P_4$は径25～40cmの円形，深さ45～80cmで，主柱穴である。$P_5$は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ30cmほどで，出入り口のピットと考えられる。

**貯蔵穴**　長径90cm，短径78cmの楕円形，深さ45cmほどで，4片の土師器片が出土している。

**貯蔵穴土層解説**
1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量
2　暗赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

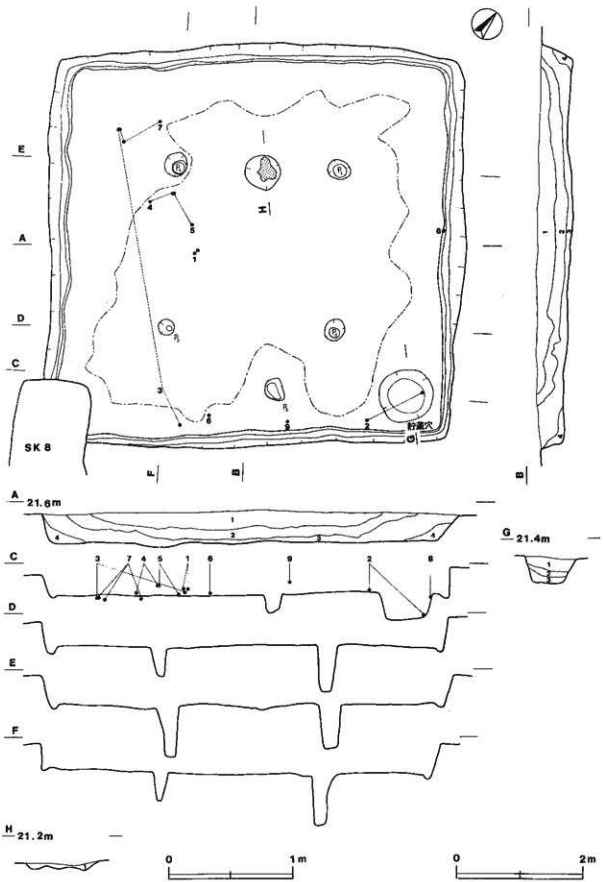
**土層解説**
1　黒　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量

**遺物**　土師器片274点が出土している。1，4の土師器坏が中央部覆土中層から，2の土師器坏が貯蔵穴南隣の床面直上及び貯蔵穴内覆土下層から，3の土師器坏が西コーナー付近及び南東壁際床面直上から，7の土師器坩が西コーナー付近の床面直上から，5の土師器坏が中央部覆土中・下層から，6の土師器椀が南コーナー付近の覆土中層から，8の土師器甕が北東壁付近の覆土下層から，9の土師器甕が南東壁近くの覆土中層からそれぞれ出土している。

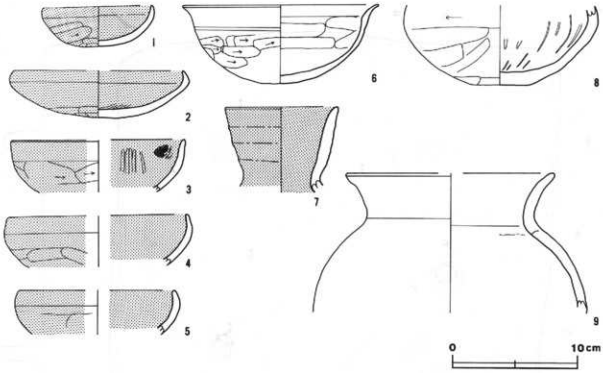
**所見**　時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代の中期と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図 1 | 坏 土師器 | A 8.8 B 3.3 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い赤褐色 普通 | P59 80% 中央部覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.6] B 3.9 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。体部内面へラ磨き。底部へラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色 普通 | P60，40%，貯蔵穴南隣床面直上，貯蔵穴内覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[14.0] B( 4.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。体部内面へラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・パミス 赤褐色 普通 | P61，15%，口縁部内面酸化鉄，西コーナー付近床面 |
| 4 | 坏 土師器 | A[14.4] B( 4.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・パミス 赤褐色 普通 | P62 15% 中央部覆土中層 |
| 5 | 坏 土師器 | A'[12.6] B( 3.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い褐色 普通 | P63 10% 中央部覆土中下層 |




第18図　第11号住居跡実測図




**第19図　第11号住居跡出土遺物実測図**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第19図<br>6 | 椀<br>土師器 | A 15.8<br>B 6.2 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に稜を持つ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，鈍い黄橙色，普通 | P68<br>100%，南コーナー付近覆土中層 |
| 7 | 坩<br>土師器 | A 9.0<br>B(7.0) | 口縁部片。口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・スコリア<br>赤色<br>普通 | P76<br>15%，西コーナー付近床面直上 |
| 8 | 壺<br>土師器 | B(6.5)<br>C[4.4] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内・外面ヘラナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，鈍い褐色，普通 | P70<br>20%，北東壁付近覆土下層 |
| 9 | 甕<br>土師器 | A[16.6]<br>B(11.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面とも磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス・スコリア，橙色<br>普通 | P71<br>15%，南東壁付近覆土中層 |

## 第12号住居跡（第20・21図）

**位置**　調査4区北部，A1hs区。

**規模と平面形**　長軸7.00m，短軸6.43mの方形。

**主軸方向**　N－44°－W

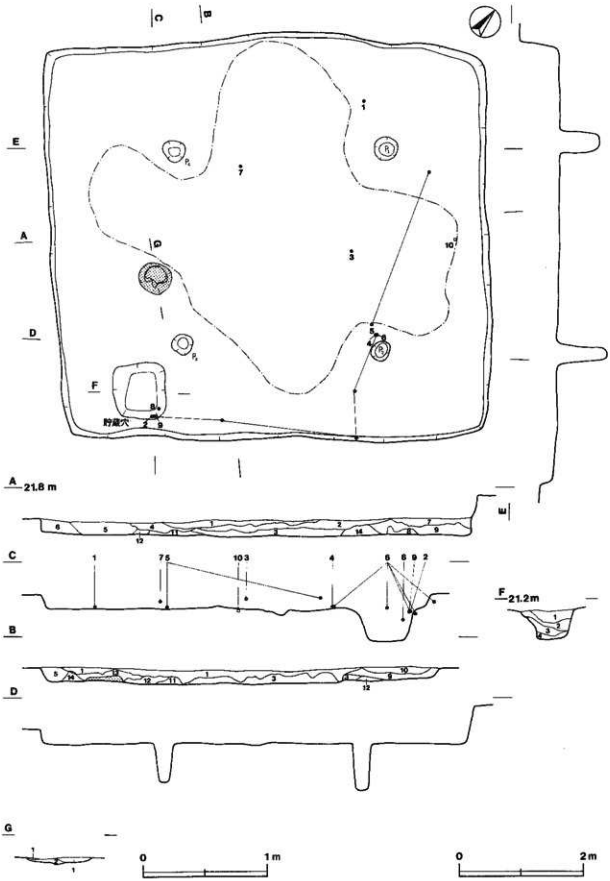
**壁**　壁高は20～35cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，中央部は硬く踏み固められている。

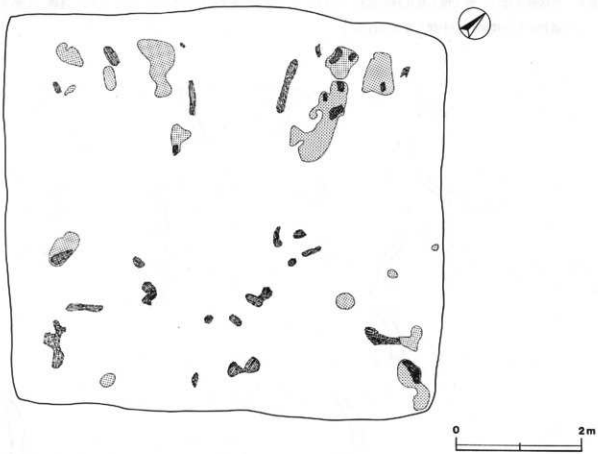
**炉**　中央南西部寄りにあり，径50cmの円形で10cmほど掘り込んだ地床炉である。

**炉土層解説**
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム大ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子多量，焼土中大ブロック中量

**ピット**　4か所（$P_1$～$P_4$）。$P_1$～$P_4$は径25～40cmの円形，深さ65～84cmで，主柱穴である。




第20図　第12号住居跡実測図




**第21図　第12号住居跡炭化材出土状況実測図**

**貯蔵穴**　長軸93cm，短軸85cmの長方形，深さ52cmほどで，数片の土師器片が出土している。

**貯蔵穴土層解説**

1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量，炭化物多量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化物微量

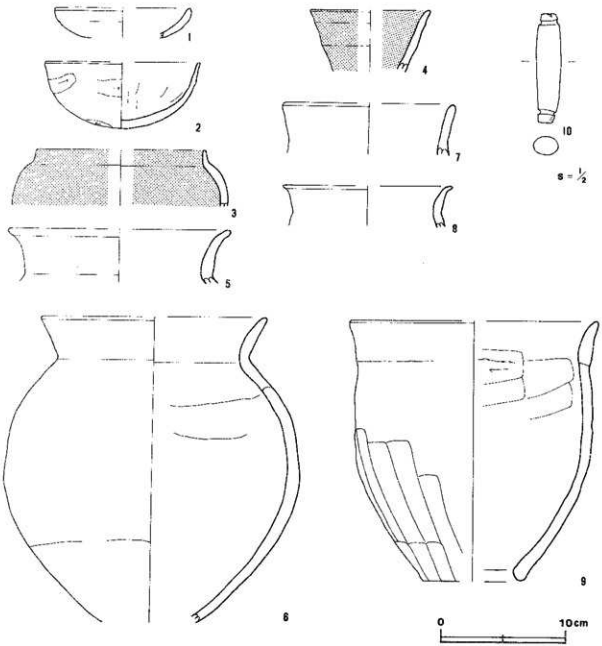
**覆土**　14層からなる人為堆積である。

**土層解説**

1　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量，炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量，ローム中ブロック中量
5　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子少量
6　褐　　色　ローム粒子多量
7　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
8　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化粒子・焼土粒子微量
10　褐　　色　ローム粒子多量
11　暗 赤 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子中量
12　赤　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量
13　暗 赤 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子中量，炭化粒子微量，炭化物少量
14　鈍い赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック中量，炭化粒子微量

**遺物**　土師器片226点，土製品６点，石製品１点が出土している。１の土師器坏が北コーナー付近の覆土下層から，２の土師器坏，９の土師器甑が南コーナー付近の覆土下層から，３の土師器椀が中央部覆土上層から，４の土師器坩，５の土師器甕が東コーナー付近の覆土上・下層から，６の土師器甕が南東部覆土下層から，７の土師器甕が中央部覆土上層から，８の土師器甕が貯蔵穴内覆土中層から，10の不明石製品が北東壁付近の覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　住居跡全体に，焼土塊と炭化材が広がっていることから，焼失家屋と考えられる。時期は遺構の形態や出土遺物から古墳時代の中期と考えられる。




**第22図　第12号住居跡出土遺物実測図**

第12号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図<br>1 | 坏<br>土師器 | A[10.8]<br>B( 2.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P78<br>5%，北コーナー付近覆土下層 |
| 2 | 坏<br>上師器 | A'12.6]<br>B 3.4 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色<br>普通 | P77<br>40%，南コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図 3 | 椀 土師器 | A[13.6] B( 4.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母 赤褐色 普通 | P79 10% 中央部覆土上層 |
| 4 | 坩 土師器 | A[ 9.6] B( 5.0) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い赤褐色 普通 | P81 5%，東コーナー付近覆土下層 |
| 5 | 甕 土師器 | A[17.8] B( 4.3) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P83 5%，東コーナー付近覆土上層 |
| 6 | 甕 土師器 | A[18.2] B(24.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面輪積み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤褐色 普通 | P82 40%，南東部覆土下層 |
| 7 | 甕 土師器 | A[13.4] B( 4.1) | 口縁部片。口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・雲母 橙色 普通 | P84 5% 中央部覆土上層 |
| 8 | 甕 土師器 | A[13.8] B( 3.2) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通 | P86 5% 貯蔵穴内覆土中層 |
| 9 | 甑 土師器 | A[20.0] B 20.9 C[ 8.0] | 底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。口縁部下位内・外面に輪積み痕。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P91 40%，南コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 不明石製品 | 5.8 | 1.3 | 1.0 | 14 | 泥質片岩 | 北東壁付近覆土下層 | Q13 |

### (2) 奈良時代の住居跡

**第4号住居跡**（第24図）

**位置**　調査1区南部，F3 d4区。

**規模と平面形**　長軸3.78m，短軸3.31mの長方形。

**主軸方向**　N－22°－E

**壁**　耕作による攪乱で，北壁のみ残存している。壁高は12～24cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

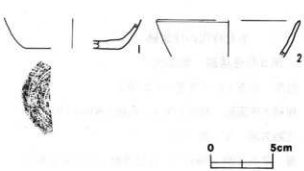
**床**　全体的に平坦である。硬化面は，攪乱のため確認できなかった。

**竈**　耕作により削平され，位置と平面形のみが確認されている。北東壁西寄りに付設されている。規模は長さ70cm，幅110cmである。

**覆土**　7層からなる人為堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック微量，炭化粒子極めて少ない
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量
4　黒褐色　ローム粒子少量
5　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小大ブロック少量
7　暗褐色　ローム粒子・ローム大ブロック中量，ローム小中ブロック少量

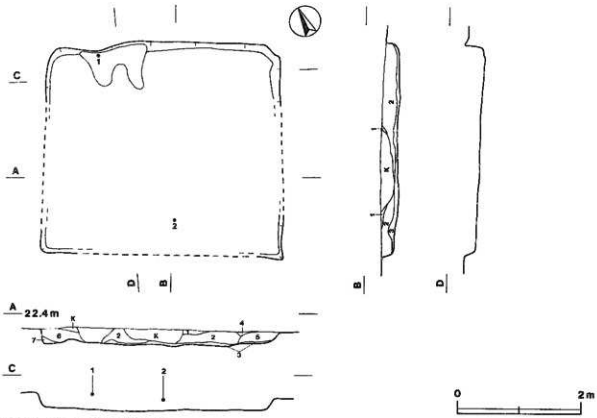
**遺物**　土師器片22点，鉄滓115点（重量1310g），須恵器片2点，及び混入した縄文土器片115点が出土している。1の須恵器坏が竈覆土上層から，2の須恵器坏が中央部南寄りの覆土上層からそれ




第23図　第4号住居跡出土遺物実測図

ぞれ出土している。鉄滓のほとんどが覆土上層から出土している。

**所見**　住居跡全体の覆土が耕作による撹乱をうけている。時期は遺構の形態や出土遺物から奈良時代と考えられる。




**第24図　第4号住居跡実測図**

第4号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第23図 1 | 坏 須恵器 | B( 2.4) C' 7.6] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 | 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。 | 砂粒・長石・石英・パミス，鈍い黄橙色 普通 | P116 15% 覆土上層 |
| 2 | 坏 須恵器 | A' 11.6] B( 2.9) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部外面ロクロナデ。 | 砂粒・長石・パミス 黄橙色 普通 | P115 5%，中央部南寄 覆土上層 |

(3)　平安時代の住居跡

**第5号住居跡**（第25図）

**位置**　調査1区中央部，E3 $_{17}$区。

**規模と平面形**　長軸3.00m，短軸2.80mの方形。

**主軸方向**　N－90°－E

**壁**　壁高は20～38cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，特に竈の周辺が踏み固められている。

**竈**　東部コーナーに付設されている。規模は，長さ75cm，幅80cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。火床は長径45cm，短径25cmの楕円形で掘りくぼめられていない。

**竈土層解説**

1　黒　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，山砂少量
2　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中ブロック微量，焼土大ブロック・炭化物少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小中ブロック中量，炭化物微量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量
5　暗赤褐色　焼　　土

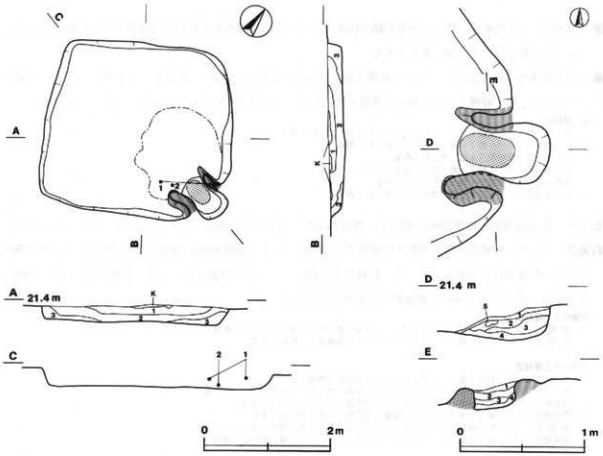
**覆土**　3層からなる自然堆積である。

**土層解説**

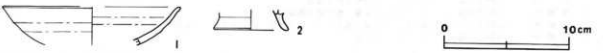
1　黒　　色　ローム粒子少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
3　赤 褐 色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

**遺物**　土師器片45点，鉄滓1点（重量150g）が出土している。遺物は少なく，ほとんどが東竈付近に集中している。1の土師器坏が竈右袖部及び竈付近覆土中層から，2の土師器高台付坏が竈焚口部覆土下層から出土している。

**所見**　時期は，竈が東コーナーに付設されていることや出土遺物から平安時代（10世紀初め）と考えられる。




第25図　第5号住居跡実測図




第26図　第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26図 1 | 坏 土師器 | A'14.3 B(3.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。口縁端部は外反する。 | 内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・パミス・スコリア・雲母，純い橙色，普通 | P5 10%，竈右袖部及び竈付近覆土中層 |
| 2 | 高台付坏 土師器 | D. 6.0 E(1.5) | 高台部片。高台部はハの字状に開く。 | 高台部内・外面横ナデ。 | 砂粒・パミス・スコリア，純い黄橙色 普通 | P6 5%，竈袖口部覆土下層 |

**第6号住居跡**（第27図）

**位置**　調査1区北東部，E3 $e_7$区。

**規模と平面形**　長軸4.05m，短軸3.20mの長方形。

**主軸方向**　N－58°－E

**壁**　壁高は20～43cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　上幅20～35cm，下幅5～20cm，床面からの深さは2～5cmで，ほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で硬く，特に中央部が踏み固められている。竈周辺及び住居跡南東部から南西部にかけて，山砂，炭が散乱し，中央部に焼土がある。

**竈**　北東壁東寄りに付設されている。規模は長さ105cm，幅77cmである。両袖部とも壁際の一部しか残存していないが，砂・砕礫まじりの粘土で構築されている。火床は円形に10cmほど掘りくぼめられている。

竈土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物・焼土粒子微量
2　赤　黒　色　ローム粒子少量，炭化粒子・焼土粒子微量
3　黒　褐　色　炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小大ブロック少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土中大ブロック少量
6　純い赤褐色　ローム粒子中量，炭化粒子・焼土粒子微量

**ピット**　$P_1$は長径34～短径20cmの楕円形，深さ25cmで，出入り口の施設にともなうものであると考えられる。

**貯蔵穴**　2か所。貯蔵穴1は北東壁下中央部に付設されている。長径58cm，短径54cmの楕円形で，深さ55cmである。断面形はU字形をしている。貯蔵穴2は西コーナー部に付設されている。長径95cm，短径84cmの楕円形で，深さ45cmである。断面形はU字形をしている。

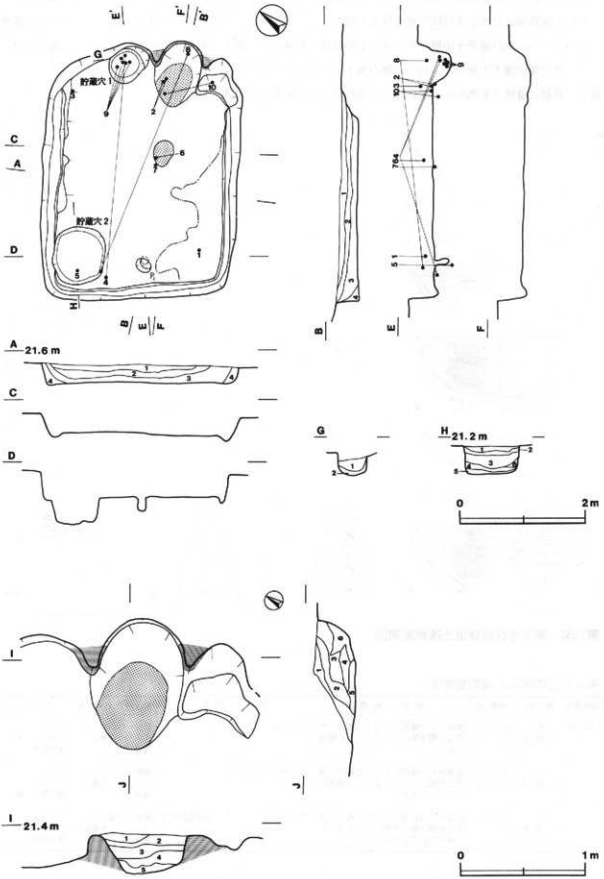
貯蔵穴1土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・焼土大ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量，炭化粒子少量

貯蔵穴2土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
3　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック少量
4　暗赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック微量，炭化粒子中量，焼土粒子多量
5　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック・炭化粒子・焼土粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック中量，炭化粒子微量

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量，焼土小ブロック微量，焼土大ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

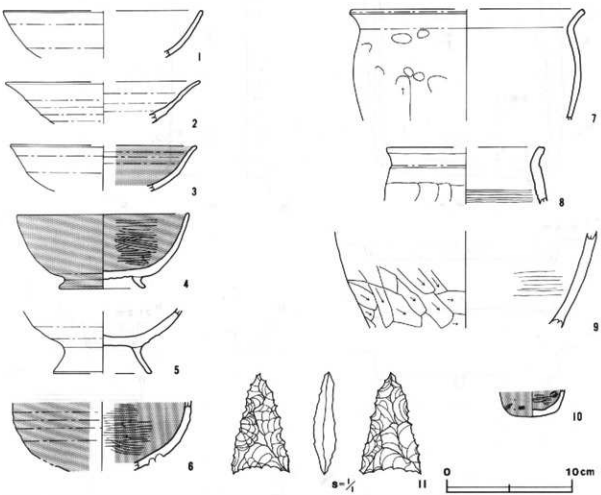
**遺物**　土師器片154点及び混入した縄文土器片2点，石鏃1点が出土している。1の土師器坏が南コーナー覆土中層から，2の土師器坏が竈内覆土下層から，3の土師器坏が北コーナーの覆土中層から，4の土師器高台




第27図　第６号住居跡実測図

付椀が貯蔵穴１覆土中層及び西コーナー付近床面直上から，５の土師器高台付椀が貯蔵穴２の覆土中層から，６の土師器高台付椀が住居跡中央部覆土中層から，７の土師器小形甕が中央部覆土下層から，８の土師器甕が西コーナー及び竈覆土中層から，９の土師器甕が貯蔵穴１の覆土下層から，10のミニチュア土器が東コーナー及び竈の覆土下層から，11の石鏃が覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は遺構の形態や出土遺物から平安時代（10世紀初め）と考えられる。




**第28図　第６号住居跡出土遺物実測図**

第６号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第28図 1 | 坏 土師器 | A[16.0] B(3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。 | 内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・パミス・スコリア，浅黄橙色 普通 | P７ 10%，南コーナー 覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[15.6] B(3.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | 内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・パミス・スコリア，鈍い黄褐色 普通 | P８ 10% 竈内覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[15.0] B(3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はわずかに外反する。 | 内・外面ロクロナデ。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母・パミススコリア，浅黄橙色 普通 | P９ 15%，北コーナー 覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | | 手法の特徴 | | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第28図 4 | 高台付椀 土師器 | A(13.8)<br>B 6.0<br>D 6.9<br>E 1.0 | 底部から口縁部にかけての破片。高台部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。 | | 口縁部・体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。 | | 砂粒・バミス・スコリア，外面，純い黄橙色<br>普通 | P11<br>40%<br>貯蔵穴1覆土中層及び東面床土 |
| 5 | 高台付椀 土師器 | B(5.2)<br>D[8.0]<br>E 1.7 | 底部から体部にかけての破片。高台部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。 | | 体部外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り。高台貼り付け。 | | 砂粒・長石・雲母<br>橙色<br>普通 | P12<br>15%<br>貯蔵穴2覆土中層 |
| 6 | 高台付椀 土師器 | B(5.4) | 底部から体部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。 | | 体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。 | | 砂粒・バミス・スコリア，外面純い黄橙色，普通 | P13<br>10%，高台部剥離中央部覆土中層 |
| 7 | 小形壺 土師器 | A.18.7)<br>B(9.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。体部外面上位に沿頸痕。 | | 砂粒・石英・雲母・バミス・スコリア<br>純い橙色，普通 | P14<br>10%<br>中央部覆土下層 |
| 8 | 小形壺 土師器 | A[13.7]<br>B(4.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。 | | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | | 砂粒・雲母・スコリア，純い橙色<br>普通 | P16<br>5%，西コーナー及び竈覆土中層 |
| 9 | 壺 土師器 | B(7.8) | 体部片。体部は内彎する。 | | 体部外面ヘラ削り後，ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。 | | 砂粒・スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P17<br>10%<br>貯蔵穴1覆土下層 |
| 10 | ミニチュア椀 土師器 | B(2.2) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は外傾して立ち上がる。 | | 体部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。 | | 砂粒・バミス<br>純い黄橙色<br>普通 | P21，40%，体部内面剥離数箇，東コーナー及び竈覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 11 | 石鏃 | 2.7 | 1.5 | 0.6 | 9.1 | チャート | 覆土中 | Q4 |

## 表2　根崎遺跡住居跡一覧表

| 住居跡番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模(m)(長軸×短軸) | 壁高(cm) | 床面 | 内部施設 | | | | | | 覆土 | 出土遺物 | 備考<br>新旧関係（古→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 竈 | 炉 | 主柱穴 | 貯蔵穴 | ピット | 入口 | 炉・竈 | | |
| 1 | F2d | N-55°-W | (長方形) | 4.35×(3.3) | 20~28 | 平坦 | — | 2 | — | 2 | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕),石器(凝石),鉄滓 | 古墳時代後期 |
| 2 | E2a | N-22°-E | (方形) | 5.8×(5.4) | 40~51 | 平坦 | 全周 | 3 | — | 4 | 有 | 炉・竈 | 自然 | 土師器(器台),石製品(須恵円錘),鉄滓 | 古墳時代後期 |
| 3 | E2g | N-26°-E | 方形 | 3.8×3.6 | 25~42 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 自然 | 土師器(甕),鉄滓 | 古墳時代後期 |
| 4 | F3a | N-22°-E | [長方形] | 3.28×3.31 | 12~24 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 人為 | 須恵器(坏),鉄滓 | 奈良時代 |
| 5 | E3c | N-90°-E | 方形 | 3.0×2.8 | 20~38 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,高台付坏) | 平安時代（10世紀初め） |
| 6 | E3d | N-58°-E | 長方形 | 4.25×3.2 | 20~43 | 平坦 | 全周 | — | 2 | 1 | 有 | 炉・竈 | 自然 | 土師器(坏,高台付坏,壺,ミニチュア土器),石器(石錘) | 平安時代（10世紀初め） |
| 7 | E3e | N-19°-E | 長方形 | 3.08×3.28 | 15~38 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 自然 | 土師器(甕),鉄滓 | SI7 →SI3，古墳時代後期以降 |
| 8 | E1r | N-30°-W | 方形 | 8.4×8.3 | 35~38 | 平坦 | 全周 | 4 | — | 7 | 有 | 炉 | 人為 | 土師器(坏,鉢,甕,壺),石製品(軽石製品,円石)<br>須恵器(坏),石器(凝石,滑石未製品),鉄製品(万子) | SI8→SI10<br>古墳時代中期 |
| 9 | E1q | N-3°-W | 方形 | 3.3×3.2 | 25~33 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 人為 | 土師器(坏,高坏,鉢,手捏) | 古墳時代中期 |
| 10 | E2m | N-46°-W | 方形 | 4.4×4.28 | 28~36 | 平坦 | 全周 | 4 | — | 5 | 有 | 炉2 | 自然 | 土師器(坏,鉢,甕,壺),土製品(勾玉) | 古墳時代中期 |
| 11 | E3m | N-42°-W | 方形 | 6.7×6.43 | 40~50 | 平坦 | 全周 | 4 | 1 | 5 | 有 | 炉 | 自然 | 土師器(坏,鉢,甕,壺,壺) | SI11 →SI10古墳時代中期 |
| 12 | A1m | N-44°-W | 方形 | 7.0×6.43 | 20~35 | 平坦 | — | 4 | 1 | 4 | — | 炉 | 人為 | 土師器(坏,鉢,高坏,壺,壺,器),石製(水琴石製品) | 古墳時代中期 |

## 2　土坑

当遺跡からは陥し穴と思われる土坑６基，炭化材の小片が多量に確認された土坑６基，性格不明土坑12基の計24基の土坑が検出されている。それぞれの土坑からの遺物は少なく，時期や性格について不明なものが多い。形状及び出土遺物に特徴のある14基の土坑について，ここに解説を加え，その他については一覧表に記載した。

### (1)　陥し穴

**第４号土坑**（第29図）

**位置**　調査１区南部，Ｆ３$_{b4}$区。

**規模と平面形**　長径2.35m，短径1.65mの楕円形で，深さは205cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－43°－Ｅ

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　皿状である。

**覆土**　14層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説

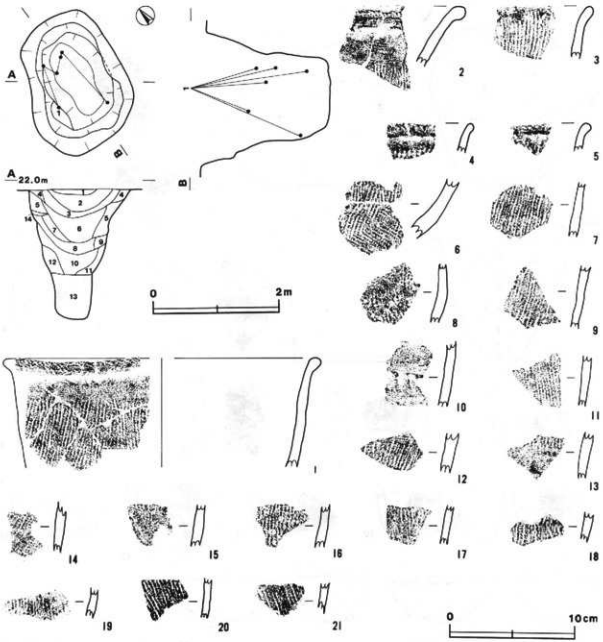
| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒　色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒　色 | ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量 |
| 5 | 褐　色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 7 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 8 | 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 9 | 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 10 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 11 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量 |
| 12 | 褐　色 | ローム粒子・ローム小ブロック多量 |
| 13 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 14 | 黒　色 | 黒色土 |

**遺物**　縄文土器片38点が出土している。１の深鉢形土器が覆土中層及び下層から出土している。第29図２～21は，本跡から出土した縄文土器の拓影図である。２～５は，口縁部は肥厚し，撚糸文を施した井草式土器の口縁部片である。６～９，11～21は，井草式土器の胴部片である。10は，阿玉台式土器の胴部片と思われる。５が底面近くから，11は覆土下層から，13は覆土中層から，その他の縄文土器片は覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡は，形態及び出土遺物から縄文時代の陥し穴と思われる。時期は，出土した撚糸文系の縄文土器片が下層から中層にわたって出土しているので，井草式期に近い時期と考えられる。

第４号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第29図 1 | 深鉢 縄文土器 | A（25.7） B（8.6） | 胴部上位からロ縁部片。胴部はやや外傾して立ち上がりロ縁部に至る。口唇部は肥厚する。口唇部に斜位の縄文を施し，ロ縁部外面は無文帯で，以下撚糸文を縦位に施している。 | 砂粒・雲母 明黄褐色 普通 | P93 10% 覆土中下層 |




**第29図　第４号土坑・出土遺物実測図**

**第５号土坑**（第30図）

**位置**　調査１区南部，Ｆ３ｃｌ区。

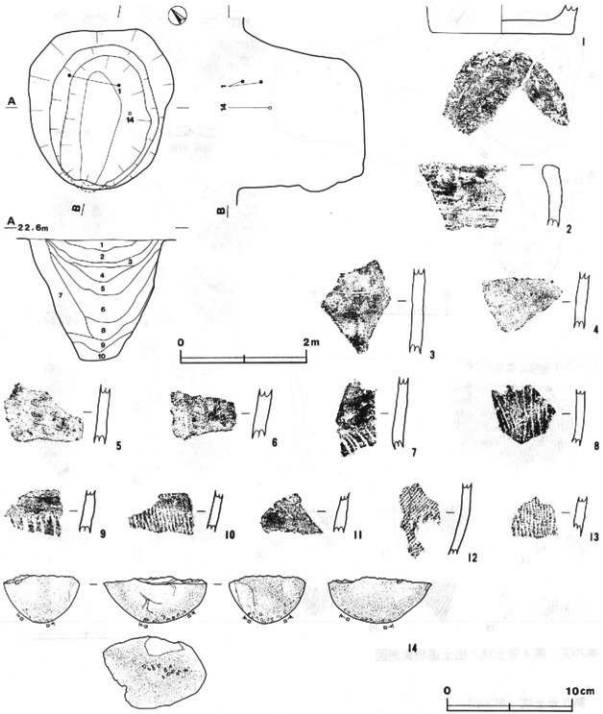
**規模と平面形**　長径2.60m，短径2.15mの楕円形で，深さは200cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－30°－Ｅ

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　10層からなり，自然堆積とみられる。




**第30図　第5号土坑・出土遺物実測図**

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・炭化物微量
5　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　色　ローム粒子中量
7　褐　色　ローム粒子多量
8　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9　暗褐色　ローム粒子中量
10　褐　色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック微量

**遺物**　縄文土器片12点，土師器片21点，石器及び石器片2点が出土している。1の深鉢形土器，14の敲石が覆土上層からそれぞれ出土している。第30図2～13は，本跡から出土した縄文土器片の拓影図である。2は，短い条線文を施す興津式土器の口縁部片である。3，4，7，9，11は，興津式土器の胴部片である。5，6は阿玉台式土器の胴部片である。8，10，12，13は撚糸文を施す井草式土器の胴部片である。いずれも覆土上層から出土している。

**所見**　本跡は，形態及び出土遺物から縄文時代の陥し穴と思われる。

第5号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第30図 1 | 深鉢 縄文土器 | B(2.2) C[11.3] | 底部片。平底。器厚は厚い。 | 砂粒・石英・スコリア，内面黄橙色，外面橙色，普通 | P94 5%，底部網代痕 覆土上層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 14 | 敲石 | (3.8) | (3.5) | (5.9) | (188) | 安山岩 | 覆土上層 | Q14 |

**第10号土坑（第31図）**

**位置**　調査3区南部，B3es区。

**規模と平面形**　長径2.00m，短径1.16mの楕円形で，深さは123cmほどである。

**長軸方向**　N－30°－W

**壁面**　外傾して立ち上がる。

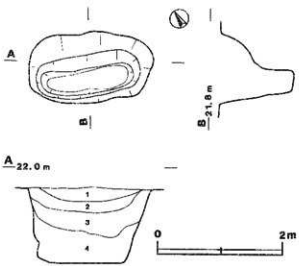
**底面**　平坦である。

**覆土**　4層からなり，自然堆積とみられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡の時期は不明である。形態から陥し穴と考えられる。




第31図　第10号土坑実測図

**第19号土坑（第32図）**

**位置**　調査2区中央部，C2ad区。

**規模と平面形**　長径2.41m，短径2.14mの楕円形で，深さは125cmほどである。

**長軸方向**　N－52°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

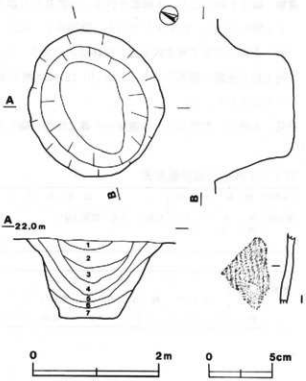
**覆土**　7層からなり，自然堆積とみられる。

土層解説

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小大ブロック少量 |
| 4 | 極暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小大ブロック少量 |
| 5 | 極暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量 |
| 7 | 褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中大ブロック中量 |

**遺物**　縄文土器片1点が出土している。第32図1は，本跡から出土した縄文土器片の拓影図である。縦位の撚糸文を施す井草式土器の胴部片で，覆土中層から出土している。

**所見**　本跡は，形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。




第32図　第19号土坑・出土遺物実測図

**第22号土坑**（第33図）

**位置**　調査1区東部，E3$_{e9}$区。

**規模と平面形**　長径1.50m，短径1.20mの楕円形で，深さは151cmほどである。

**長軸方向**　N－46°－W

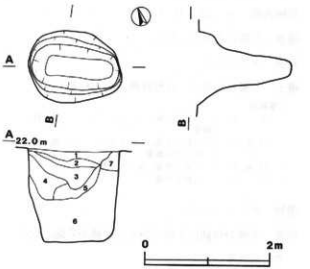
**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　7層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック微量，炭化粒子極微量 |
| 2 | 極暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 3 | 極暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子極微量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム大ブロック少量 |
| 5 | 黒褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子極微量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |




第33図　第22号土坑実測図

**遺物**　縄文土器片1点が出土している。

**所見**　本跡は，形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。

**第24号土坑**（第34図）

**位置**　調査５区中央部，Ｂ４$_{hs}$区。

**規模と平面形**　長径2.08m，短径1.25mの楕円形で，深さは145cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－49°－Ｗ

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

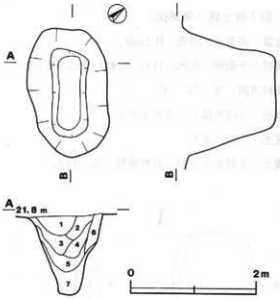
**覆土**　７層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 黒　色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量 |
| 7 | 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量 |

**遺物**　出土していない。

**所見**　調査５区における遺構は，本跡のみである。本跡は，形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。




**第34図　第24号土坑実測図**

(2)　その他の土坑

**第３号土坑**（第35図）

**位置**　調査１区南西部，Ｆ３$_{al}$区。

**規模と平面形**　長軸3.58m，短軸1.30mの長方形で，深さは35cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－56°－Ｅ

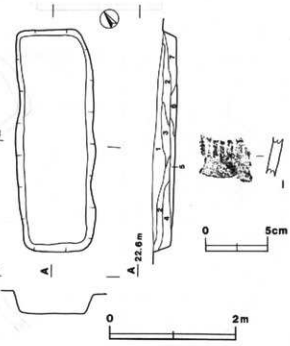
**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　７層からなり，人為堆積とみられる。第７層は炭化材の小片を主体とした層である。

土層解説

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小中ブロック・炭化物中量，炭化材の破片少量。 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子・炭化物中量，ローム小中ブロック少量，焼土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子・ローム小中ブロック・炭化物中量，炭化材の破片少量 |
| 4 | 褐　色 | ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物多量，焼土粒子少量 |
| 5 | 暗褐色 | ローム粒子・炭化物中量，ローム小ブロック微量，焼土粒子微量 |
| 6 | 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム大ブロック微量，炭化物多量 |
| 7 | 黒　色 | 炭化材の小片 |




**第35図　第３号土坑・出土遺物実測図**

**遺物**　縄文土器片７点，土師器片13点，鉄滓２点（重量160g）が出土している。第35図１は，本跡の覆土中から出土した縄文土器の拓影図である。興津式

土器の胴部片である。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。

**第７号土坑**（第36図）

**位置**　調査４区西部，Ｂ２aa区。

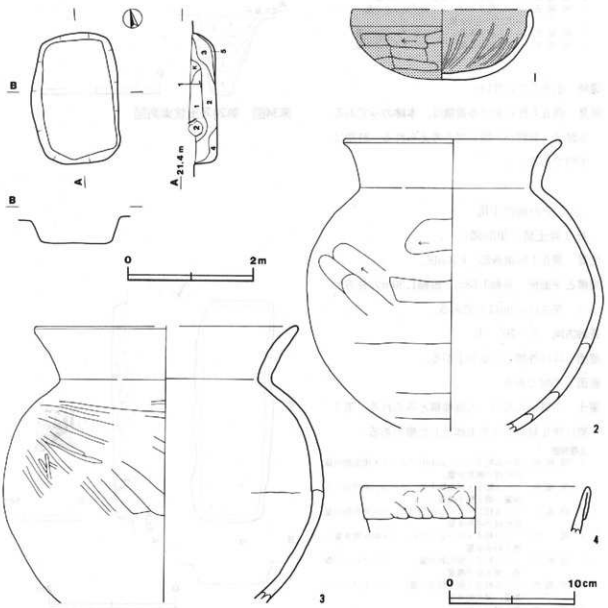
**規模と平面形**　長軸2.11m，短軸1.38mの長方形で，深さは41cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－74°－Ｅ

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　５層からなり，自然堆積とみられる。




**第36図　第７号土坑・出土遺物実測図**

土層解説
1 黒 褐 色 ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小中ブロック中量
3 暗褐色 ローム粒子・ローム小中ブロック少量
4 褐 色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子多量

**遺物** 土師器片18点が出土している。1の土師器坏が覆土中層から，2，3，4の土師器甕が覆土上層からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の時期は，底面直上から1の土師器坏が出土していることから，古墳時代の中期と考えられる。性格は不明である。

第7号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36図 1 | 坏 土師器 | A[14.4] B 5.7 C 7.5 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色 普通 | P95 60% 覆土中層 |
| 2 | 甕 土師器 | A 17.4 B(23.5) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部外面下位に輪積み痕。内面丁寧減著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い黄橙色 普通 | P96 85% 覆土上層 |
| 3 | 甕 土師器 | A[21.0] B(22.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面輪積み痕。内面磨減著しく調整不明。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア・微 灰黄褐色，普通 | P97 30% 覆土上層 |
| 4 | 甕 土師器 | A[18.1] B( 3.8) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，口縁端部折り返す。 | 口縁部外面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い褐色 普通 | P98 5% 覆土上層 |

## 第8号土坑（第37図）

**位置** 調査4区南部，B3 es区。

**重複関係** 本跡は第11号住居跡を掘り込んでいることから，本跡の方が第11号住居跡より新しい。

**規模と平面形** 長軸3.96m，短軸1.30mの長方形で，深さは56cmほどである。

**長軸方向** N－57°－W

**壁面** 緩やかに立ち上がる。

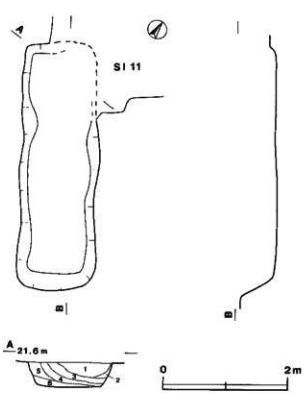
**底面** 平坦である。

**覆土** 6層からなり，自然堆積とみられる。第6層は炭化材の小片を主体とした層である。

土層解説
1 黒 色 炭化物多量
2 暗 褐 色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化物中量，ローム小中ブロック少量
4 黒 褐 色 ローム粒子中量，炭化物多量，ローム小ブロック少量
5 褐 色 ローム粒子多量，焼土粒子・焼土小ブロック微量，炭化物中量
6 黒 色 炭化材の小片多量

**遺物** 出土していない。

**所見** 本跡の時期，性格は不明である。




第37図 第8号土坑実測図

**第９号土坑**（第38図）

**位置**　調査４区西部，Ｂ３ec区。

**規模と平面形**　長軸3.85m，短軸1.37mの長方形で，深さは52cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－32°－Ｅ

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

**底面**　平坦である。

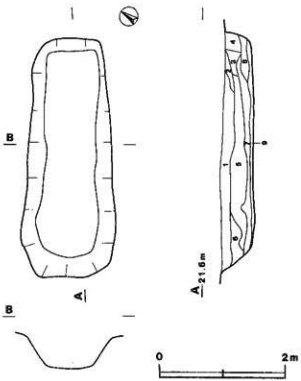
**覆土**　９層からなり，人為堆積とみられる。第８層は炭化材の小片を主体とした層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化物少量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子多量，炭化物中量
3　黒　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，炭化粒子・炭化物中量
4　褐　色　ローム粒子・炭化粒子中量，炭化物少量
5　暗　褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子・炭化物少量
6　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
7　極暗赤褐色　ローム粒子微量，ローム小ブロック少量，焼土小ブロック中量，炭化粒子・炭化物多量
8　黒　色　炭化材の小片
9　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化物多量

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。




**第38図　第９号土坑実測図**

**第18号土坑**（第39図）

**位置**　調査２区中央部，Ｂ１hg区。

**規模と平面形**　長軸3.84m，短軸1.33mの長方形で，深さは48cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－81°－Ｅ

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

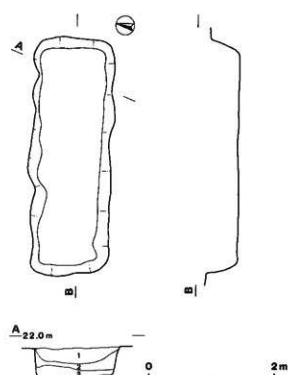
**覆土**　３層からなり，人為堆積とみられる。第３層は炭化材の小片を主体とした層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中大ブロック・炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，炭化粒子・炭化物少量
3　黒　色　炭化材の小片

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。




**第39図　第18号土坑実測図**

**第20号土坑**（第40図）

**位置**　調査２区南部，Ｃ２ｒｌ区。

**規模と平面形**　長軸3.38m，短軸1.54mの長方形で，深さは30cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－62°－Ｅ

**壁面**　緩やかに立ち上がる。

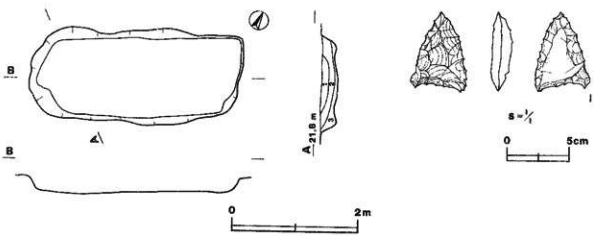
**底面**　平坦である。

**覆土**　３層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物少量，焼土小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム中ブロック微量，焼土粒子・焼土小ブロック少量，炭化物多量

**遺物**　縄文土器片１点，土師器片11点，石器１点が出土している。１の石鏃が中央部覆土下層から出土している。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。




**第40図　第20号土坑・出土遺物実測図**

第20号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第40図１ | 石鏃 | 2.1 | 1.5 | 0.6 | 1.28 | チャート | 中央部覆土下層 | Q17 |

**第21号土坑**（第41図）

**位置**　調査１区中央部，Ｅ３ｊｏ区。

**規模と平面形**　長径3.34m，短径1.79mの楕円形で，深さは58cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－51°－Ｅ

**壁面**　外傾して立ち上がる。

**底面**　皿状である。中央部に斜方向に入る径35cm，深さ30cmほどのピットがある。

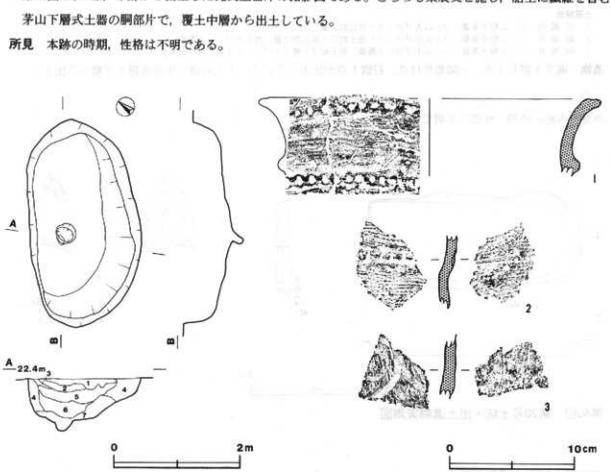
**覆土**　7層からなり，人為堆積とみられる。

**土層解説**

1　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
5　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
6　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量
7　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**遺物**　縄文土器片28点，土師器片13点が出土している。1の深鉢形土器が南東壁中・下層から出土している。第41図2，3は，本跡から出土した縄文土器片の拓影図である。どちらも条痕文を施し，胎土に繊維を含む茅山下層式土器の胴部片で，覆土中層から出土している。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。




**第41図　第21号土坑・出土遺物実測図**

第21号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第41図<br>1 | 深　鉢<br>縄文土器 | A〔27.7〕<br>B( 6.2) | 口縁部片。口縁部は二段で外反する。胎土に繊維を含み，口将部に刻み目を施している。口縁部下位に隆帯を貼り付け，刻み目を施している。内・外面ともに横位の条痕文を施している。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P102<br>5%<br>南東壁中下層 |

**第23号土坑**（第42図）

**位置**　調査1区中央部，E3ds区。

**規模と平面形**　長軸3.50m，短軸1.20mの長方形で深さは50cmほどである。

**長軸方向**　N－46°－E

**壁面**　外傾して立ち上がる。

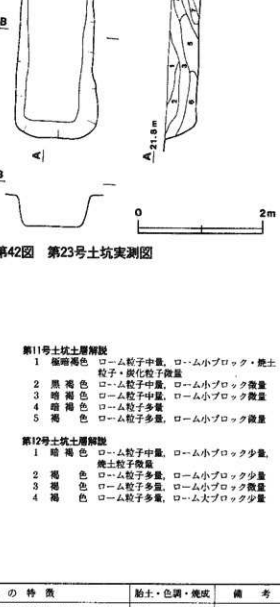
**底面**　平坦である。

**覆土**　9層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，炭化材少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック微量，炭化物少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化物多量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック・炭化物中量
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・炭化物中量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子・ローム小中ブロック・炭化物多量，焼土粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック・炭化物多量
8　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化材の小片多量
9　黒　色　炭化材の小片極多量

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡の時期，性格は不明である。




**第42図　第23号土坑実測図**

## 土坑土層解説

**第1号土坑土層解説**
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，焼土粒子微量，炭化物少量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック多量，炭化物少量
3　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小中ブロック中量

**第2号土坑土層解説**
1　黒褐色　ローム小中ブロック中量，炭化粒子微量

**第6号土坑土層解説**
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック微量

**第11号土坑土層解説**
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子多量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

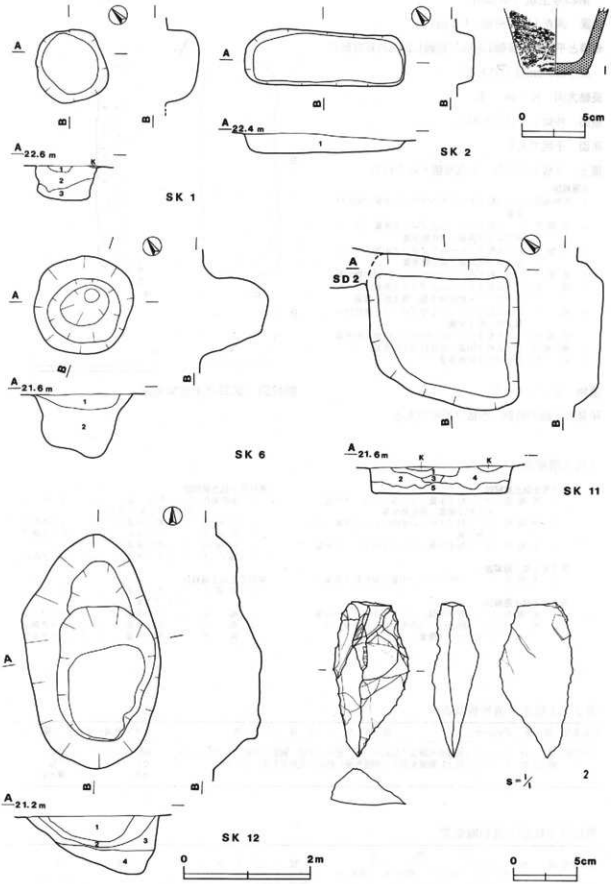
**第12号土坑土層解説**
1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

## 第2号土坑出土遺物観察表

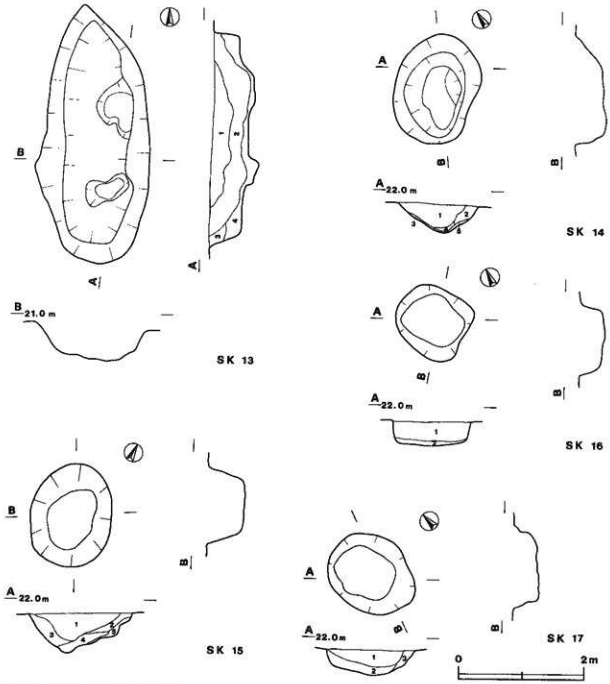
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第43図1 | 深鉢<br>縄文土器 | B (5.3)<br>C [5.0] | 底部から胴部下位にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。胎土に繊維を含み，胴部外面に斜位の条痕文を施している。 | 砂粒・スコリア<br>橙色<br>普通 | P92<br>5%<br>覆土中 |

## 第12号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第43図2 | ナイフ | 4.2 | 2.0 | 1.2 | 6.85 | 瑪瑙 | 覆土中 | Q16 |




第43図　第1・2・6・11・12号土坑・出土遺物実測図




**第44図　第13～17号土坑実測図**

## 土坑土層解説

**第13号土坑土層解説**

1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化物微量
2　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量

**第14号土坑土層解説**

1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
3　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量

**第15号土坑土層解説**

1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・炭化物微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量

第16号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
2 褐　　色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，炭化粒子微量

第17号土坑土層解説
1 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
2 暗 褐 色 ローム粒子・ローム小中大ブロック中量，炭化物微量
3 褐　　色 ローム粒子・ローム小ブロック中量

表3　根崎遺跡土坑一覧表

| 土坑番号 | 位置 | 長径方向(長軸方向) | 平面形 | 規模 長径(軸)×短径(軸)(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係（古→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F2a1 | N-45°-E | 円　形 | 1.15×1.10 | 55 | 垂直 | 皿状 | 自然 | 縄文土器片6，土師器片6，鉄滓23(重量300g) | 時期不明 |
| 2 | F2a4 | N-40°-W | 長方形 | 2.55×0.85 | 32 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器片8 | 時期不明 |
| 3 | F3a1 | N-56°-E | 長方形 | 3.58×1.30 | 35 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器片7，土師器片13，鉄滓2(重量160g) | 時期不明 |
| 4 | F3a4 | N-42°-E | 楕円形 | 2.35×1.65 | 205 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器片38 | 陥し穴，縄文時代 |
| 5 | F3a1 | N-30°-E | 楕円形 | 2.60×2.15 | 200 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片12，土師器片21，石器・石器片2 | 陥し穴，縄文時代 |
| 6 | B4g1 | N-45°-E | 円　形 | 1.57×1.57 | 105 | 外傾 | 皿状 | 人為 | | 時期不明 |
| 7 | B2a4 | N-74°-E | 長方形 | 2.11×1.38 | 41 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片18 | 古墳時代 |
| 8 | B3a1 | N-57°-W | 長方形 | 3.96×1.30 | 56 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | SB11→SK8，時期不明 |
| 9 | B3a4 | N-32°-E | 長方形 | 3.85×1.37 | 52 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | | 時期不明 |
| 10 | B3a5 | N-30°-W | 楕円形 | 2.00×1.16 | 123 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | 陥し穴，時期不明 |
| 11 | B3b1 | N-45°-E | 不整方形 | 2.43×2.40 | 45 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | SK11→SD2，時期不明 |
| 12 | C3a1 | N-6°-E | 楕円形 | 3.78×2.14 | 74 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | 石器1 | 時期不明 |
| 13 | C1a5 | N-67°-E | 楕円形 | 4.19×1.86 | 52 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | 時期不明 |
| 14 | C2a1 | N-50°-E | 楕円形 | 1.77×1.29 | 49 | 緩斜 | 皿状 | 自然 | | 時期不明 |
| 15 | C2a4 | N-25°-W | 楕円形 | 1.65×1.30 | 54 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 時期不明 |
| 16 | C3a1 | N-44°-E | 長方形 | 1.15×1.05 | 37 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片1 | 時期不明 |
| 17 | C3a4 | N-17°-W | 楕円形 | 1.49×1.22 | 41 | 外傾 | 凹凸 | 自然 | | 時期不明 |
| 18 | B1a1 | N-61°-E | 長方形 | 3.84×1.33 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 時期不明 |
| 19 | C2a4 | N-52°-E | 楕円形 | 2.41×2.14 | 125 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片1 | 陥し穴，時期不明 |
| 20 | C2b1 | N-62°-E | 長方形 | 3.38×1.54 | 30 | 緩斜 | 平坦 | 人為 | 縄文土器片1，土師器片11，石器1 | 時期不明 |
| 21 | E3g1 | N-51°-E | 楕円形 | 3.34×1.79 | 58 | 外傾 | 皿状 | 人為 | 縄文土器片28，土師器片13 | 時期不明 |
| 22 | E3a1 | N-46°-W | 楕円形 | 1.50×1.20 | 151 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 縄文土器片1 | 陥し穴，時期不明 |
| 23 | E3a1 | N-46°-E | 長方形 | 3.50×1.20 | 50 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 時期不明 |
| 24 | B4a1 | N-49°-W | 楕円形 | 2.08×1.25 | 145 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 陥し穴，時期不明 |

## 3　溝

当遺跡からは，3条の溝が検出されている。いずれの溝も出土遺物が少なく，時期，性格とも不明である。それぞれの溝の解説は一覧表において掲載する。

### 第1号溝（第45図・付図1）

土層解説
SP－A　1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
SP－D　1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
SP－F　1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
　　2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**第2号溝**（第45図・付図1）

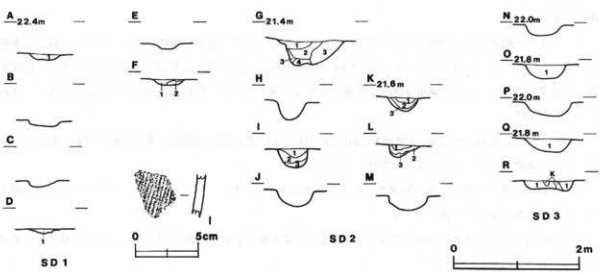
**土層解説**

SP－G　1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
　　2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
　　3　褐　色　ローム粒子多量
　　4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック微量
SP－I　1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
　　2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
　　3　褐　色　ローム粒子多量
SP－K　1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
　　2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
　　3　褐　色　ローム粒子多量
SP－L　1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
　　2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
　　3　褐　色　ローム粒子多量

**第3号溝**（第45図・付図1）

**土層解説**

SP－O　1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
SP－Q　1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
SP－R　1　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量




**第45図　第1～3号溝・出土遺物実測図**

表4　根崎遺跡溝一覧表

| 溝番号 | 位置 | 主軸方向 | 断面 | 規模（m） | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係（古→新） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 確認長 | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | |
| 1 | D8d | N-23°-E | U字状 | 56.8 | 0.5 | 0.45 | 0.09 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 石1点，縄文土器片1点 | SI7→SD1，時期不明 |
| 2 | C4d | N-25°-E | U字状 | 49.2 | 0.4～1.0 | 0.08～0.43 | 0.31 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片2点 | SK11→SD2，時期不明 |
| 3 | B1d | N-38°-W | U字状 | 43.6 | 0.7 | 0.3～0.6 | 0.25 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片29点 | SI8→SD3，時期不明 |

第45図1は，第1号溝から出土した縄文土器片の拓影図である。縦位に撚糸文を施す井草式土器の胴部片である。

## 4　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は，試掘・表土除去・遺構確認の調査で出土した遺物である。それらの遺物を土器・石器・金属製品に大別し，それぞれの特徴について解説する。

土器

土器については，その大半が縄文土器である。それらを第Ⅰ～Ⅳ群に分けて記載する。

第Ⅰ群　縄文時代早期前葉の土器群

第Ⅱ群　縄文時代早期後葉の土器群

第Ⅲ群　縄文時代前期後葉の土器群

第Ⅳ群　縄文時代中・後期の土器群

なお，第Ⅰ群と第Ⅱ群の縄文土器片は，調査1区において集中して出土している。

第Ⅰ群土器

3，8，9，42～53，55～62，146～152，163～166，172～182は，井草式土器の口縁部片である。口縁は肥厚し外反している。口唇部には主に斜行縄文を施している。口縁部外面下位には縦位の撚糸文を施している。

63～82，85，99，153～158，167～171，183～187，189～194，196は，井草式土器の胴部片である。胴部外面には縦位の撚糸文を施している。

井草式土器の集中出土地点は，E2区，F2区，F3区である。

第Ⅱ群土器

6は，茅山下層式土器の胴部下位から底部にかけての破片である。胎土に繊維を含み，表裏及び底部に条痕文を施している。1，2，4，5，11，13～18，54，83，84，86～90，92，195，198～200，202，204，205は，茅山下層式土器の口縁部片である。胎土に繊維を含み，表裏に条痕文を施している。口縁部は刺突文，沈線文を施し，2段のくびれがある。

12，19～41，85，91，93～98，100～139，206～210，213，214，216～218，220～226は，茅山下層式土器の胴部片である。胎土に繊維を含み，表裏に条痕文を施している。

140～144は，茅山上層式土器の胴部片である。表裏に条痕文を施している。145は，茅山上層式土器の底部片である。表裏に条痕文を施している。

159～162は，茅山式土器の胴部片である。109は，貝殻条痕文土器の胴部片である。いずれも破片のため具体的な土器型式は断定できない。

茅山式土器の集中出土地点は，E2区，F2区である。

第Ⅲ群土器

10，215，219，227～230は，興津式土器の胴部片である。10がF3区から出土している。

第Ⅳ群土器

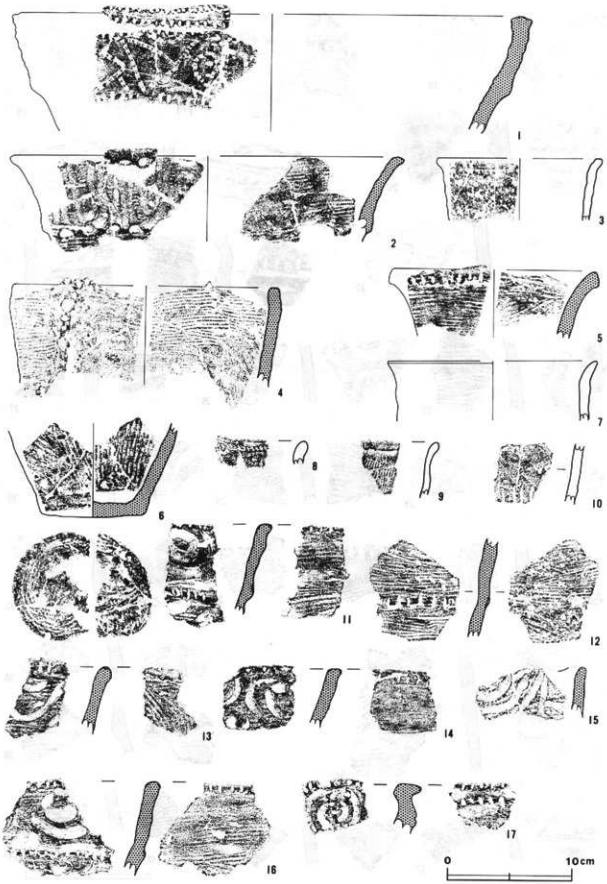
188，203，211，212は，加曽利式土器の胴部片である。197，201は加曽利式土器の口縁部片である。すべて表面採集の遺物である。

石器，石製品

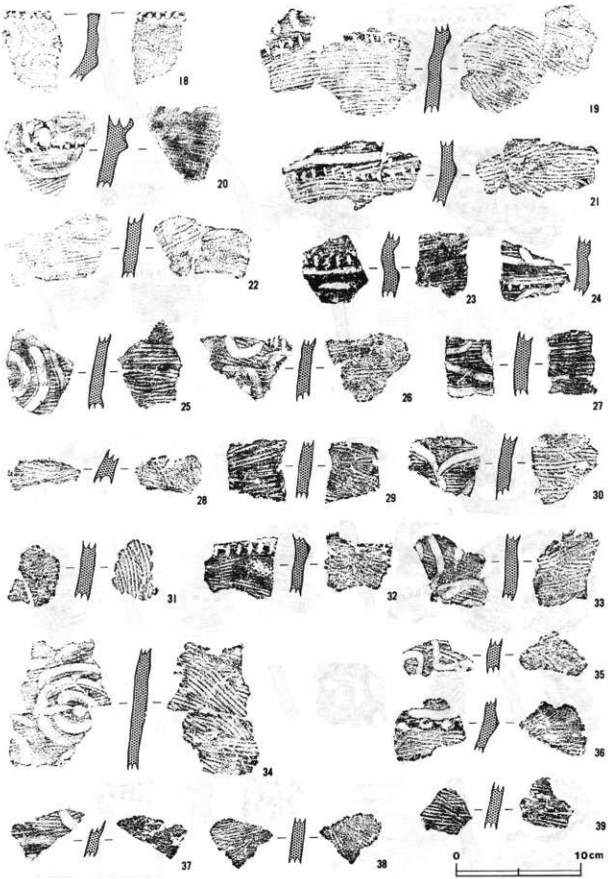
235～238，243～245は，石鏃である。244は，先端部が欠損している。241，242は，石斧である。231は敲石である。232～234，239，240は，磨石である。246は，大型剥片である。

金属製品

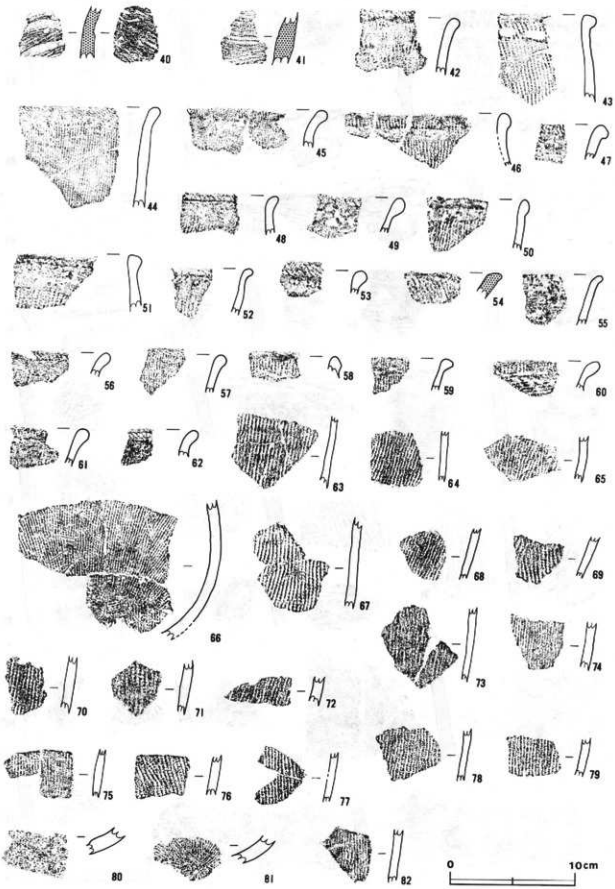
247は，江戸時代の寛永通宝である。248は，大正9年発行の一銭銅貨である。



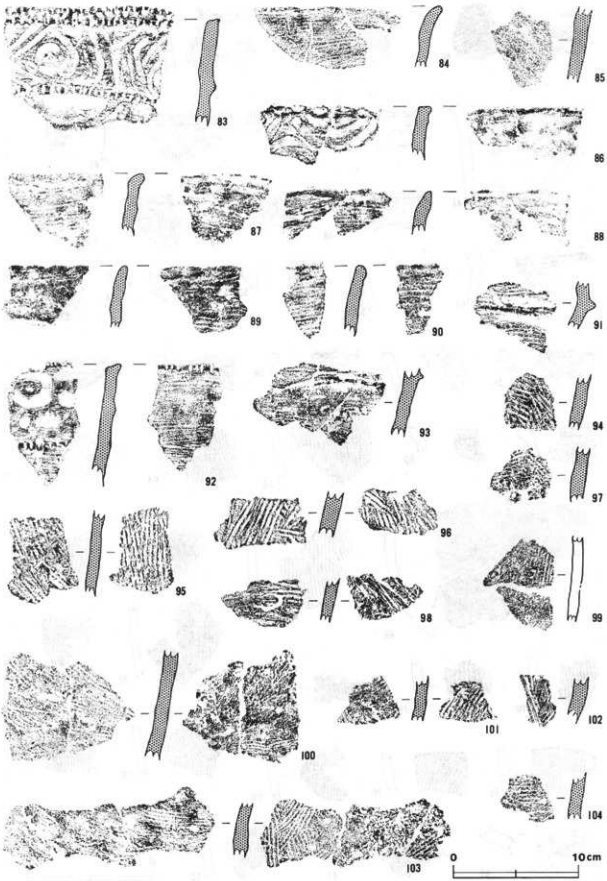

第46図　遺構外出土遺物実測図(1)



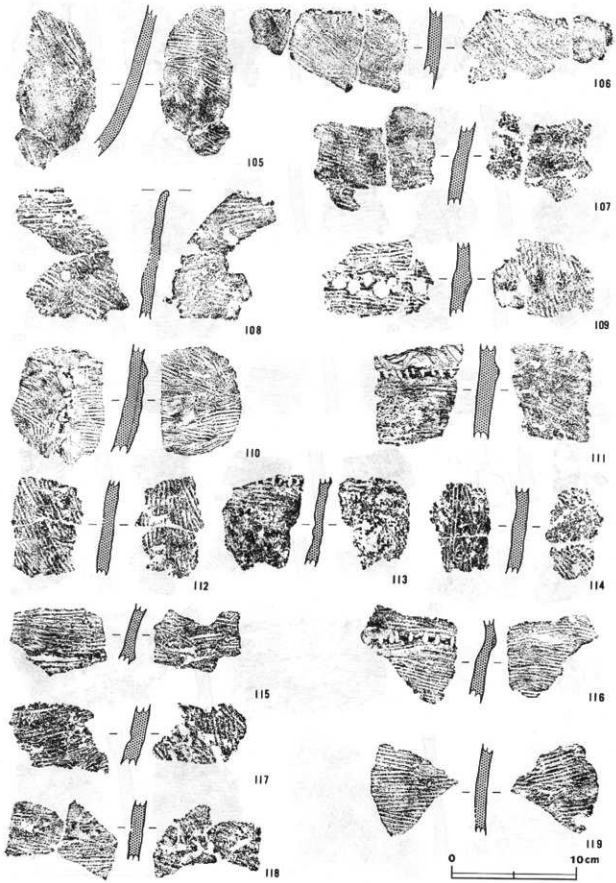

第47図　遺構外出土遺物実測図(2)



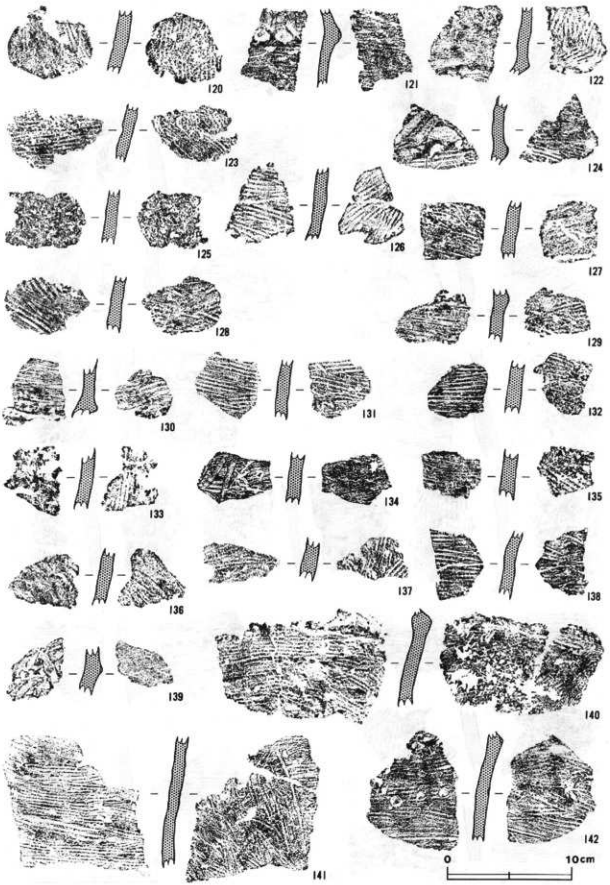

第48図　遺構外出土遺物実測図(3)



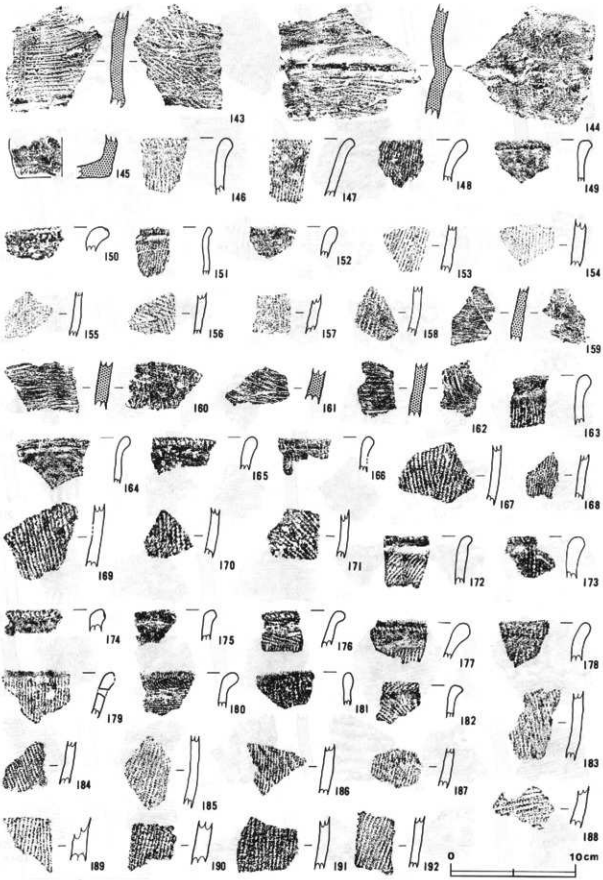

第49図　遺構外出土遺物実測図(4)



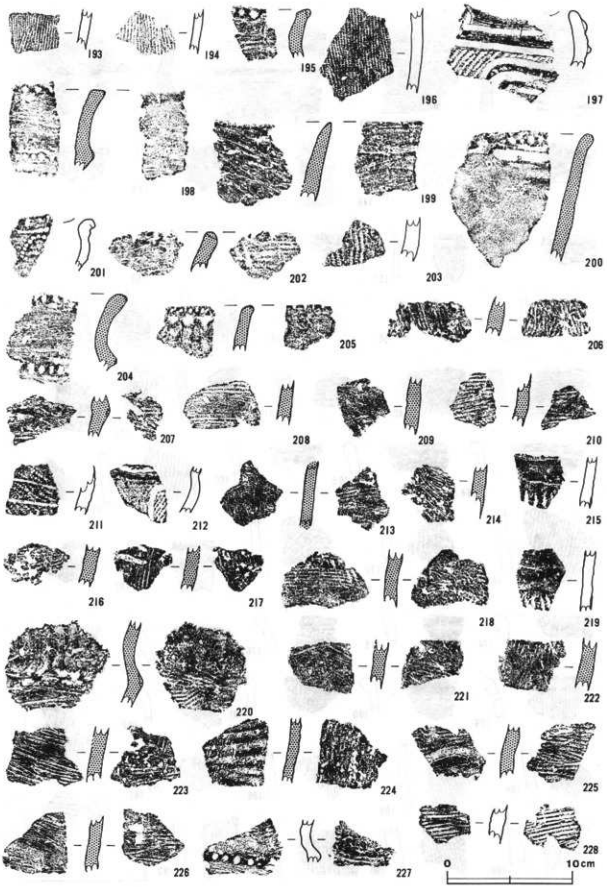

第50図　遺構外出土遺物実測図(5)



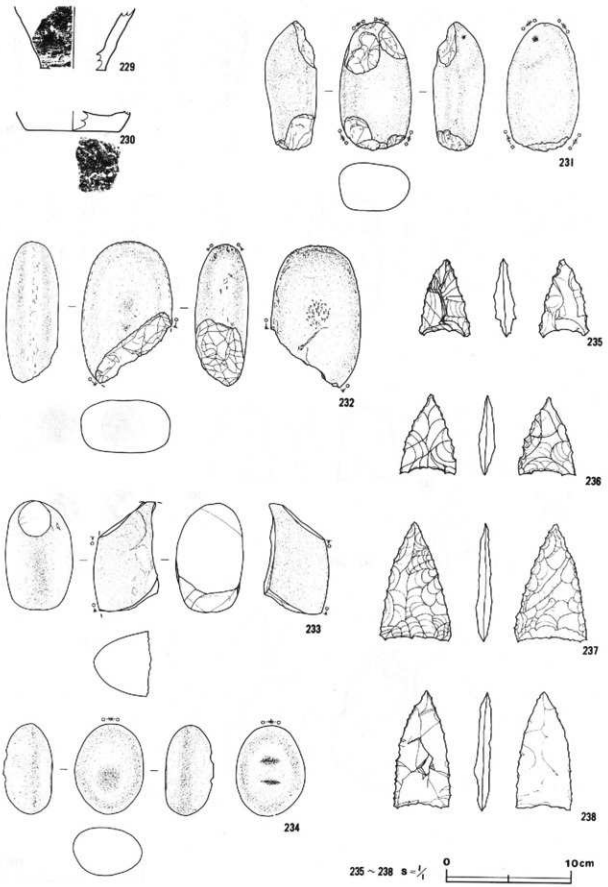

第51図　遺構外出土遺物実測図(6)



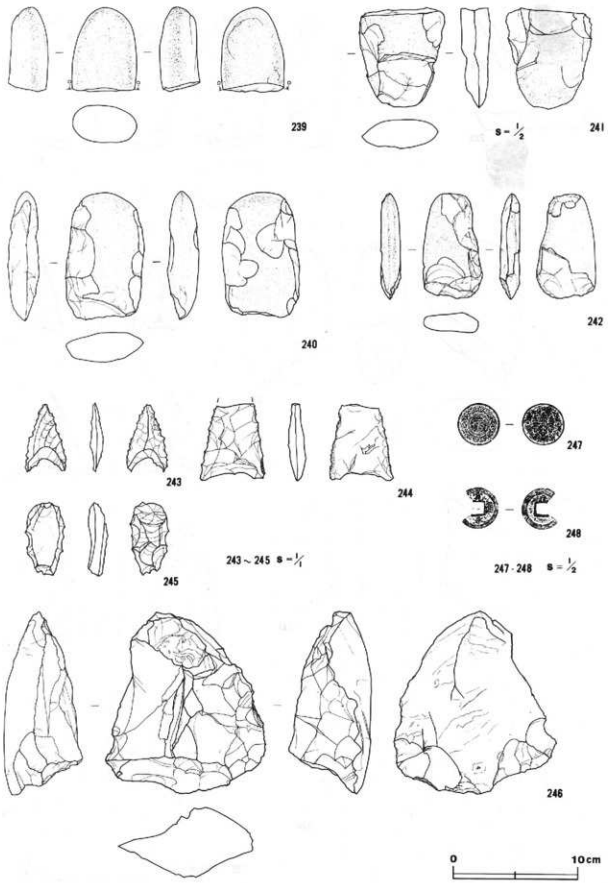

第52図　遺構外出土遺物実測図(7)




第53図　遺構外出土遺物実測図(8)




第54図　遺構外出土遺物実測図(9)




第55図　遺構外出土遺物実測・拓影図(10)

## 遺構外出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第46図 1 | 浅鉢 縄文土器 | A〔42.0〕 B（9.6） | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。緩やかな波状口縁。口唇部と口縁部下位に刻み目を施し，口縁部に連続刺突文を施している。胎土に繊維を含む。 | 砂粒・石英・スコリア，明赤褐色 普通 | P104 10% E2 |
| 2 | 深鉢 縄文土器 | A〔31.0〕 B（6.9） | 口縁部片。口縁部は外反する。口唇部及び口縁部下位に棒状工具による押圧文を連続で施している。口縁部内面は横位の条痕文，外面には棒状工具による浅い沈線が縦位に施してある。胎土に繊維を含む。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄褐色 普通 | P105 5% E2 |
| 3 | 深鉢 縄文土器 | A〔13.0〕 B（5.0） | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，口唇部はやや外反する。胴部外面に撚糸文を施している。器厚は薄い。 | 砂粒・石英・雲母 外面明褐色，内面黒褐色，普通 | P106 5% E2 |
| 4 | 深鉢 縄文土器 | A〔21.0〕 B（8.0） | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。緩やかな波状口縁。口唇部に刻み目を施している。口縁部には縦位の隆帯を貼り付け，押圧文を施している。口縁部内・外面に横位の条痕文を施している。胎土に繊維を含む。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い赤褐色 普通 | P107 5% E2a |
| 5 | 深鉢 縄文土器 | A〔16.3〕 B（5.5） | 口縁部片。口縁部は段を有し，外反する。胎土に繊維を含み，内・外面ともに横位の条痕文を施している。口縁部中位に隆帯を張り付け，刻み目を施している。 | 砂粒・雲母 明褐色 普通 | P103 5% E2a |
| 6 | 深鉢 縄文土器 | B（7.6） C 8.4 | 底部から胴部下位にかけての破片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。底部に条痕文を施し，胴部内・外面に横位の条痕文を施す。胎土に繊維を含む。 | 砂粒・雲母・スコリア，黒褐色 普通 | P108 10% E2 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 甕 土師器 | A〔16.6〕 B（4.8） | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い黄褐色 普通 | P112 2区確認面 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第54図231 | 敲石 | 10.5 | 5.9 | 4.2 | 356.0 | 安山岩 | 表採 | Q27 |
| 232 | 磨石 | (11.4) | 7.3 | 4.3 | (492.0) | 安山岩 | 表採 | Q28 |
| 233 | 磨石 | (8.9) | (5.3) | (5.4) | (295.0) | 砂岩 | 1区表採 | Q29 |
| 234 | 磨石 | 7.3 | 5.6 | 3.9 | 206.0 | 安山岩 | 1区確認面表採 | Q30 |
| 235 | 石鏃 | 2.1 | 1.4 | 0.55 | 0.83 | チャート | F 2区表採 | Q18 |
| 236 | 石鏃 | 2.1 | 1.6 | 0.45 | 0.84 | 黒曜石 | 3区表採 | Q23 |
| 237 | 石鏃 | 3.2 | 2.0 | 0.4 | 2.0 | チャート | 1区表採 | Q20 |
| 238 | 石鏃 | 3.2 | 1.6 | 0.4 | 1.58 | 安山岩 | 5区表採 | Q21 |
| 第55図239 | 磨石 | 6.8 | 5.2 | 3.2 | 172.0 | 砂岩 | 4区表採 | Q31 |
| 240 | 磨石 | 6.9 | 4.1 | 1.7 | 64.0 | 砂岩 | 4区表採 | Q32 |
| 241 | 石斧 | 5.4 | 4.5 | 1.55 | 48.0 | 安山岩 | F 2区表採 | Q19 |
| 242 | 石斧 | 8.5 | 4.9 | 1.8 | 88.0 | 頁岩 | 1区表採 | Q26 |
| 243 | 石鏃 | 1.8 | 1.1 | 0.4 | 0.33 | チャート | 表採 | Q24 |
| 244 | 石鏃 | (2.0) | 1.8 | 0.5 | (1.32) | チャート | 4区確認面表採 | Q22 |
| 245 | 石鏃 | 2.0 | 1.05 | 0.5 | 1.0 | チャート | 1区表採 | Q25 |
| 246 | 大形剥片 | 14.7 | 12.9 | 5.6 | 1020.0 | 頁岩 | 2区表採 | Q42 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 247 | 古銭 | 2.2 | 2.2 | 0.1 | 3.42 | 銅 | 1区表採 | M2，大正9年発行1銭銅貨 |
| 248 | 古銭 | 2.6 | (2.6) | 0.1 | (1.3) | 銅 | 3区確認面 | M3，寛永通宝 |

## 第4節　まとめ

当遺跡から検出された遺構は，竪穴住居跡12軒，土坑24基，溝3条である。ここでは，時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ，まとめとする。

### 1　旧石器時代

旧石器時代の遺物は，大型剥片とナイフ形石器の2点のみであり，ユニット等は確認されていない。大型剥片は，2区の遺構確認段階で出土したものである。ナイフ形石器は，第12号土坑覆土中から出土している。

### 2　縄文時代

縄文時代の遺構は，陥し穴2基である。陥し穴は，2基とも調査1区，F3区に位置しており，動物の捕殺・捕獲を目的としたものと思われる。

第4号土坑（陥し穴）は，井草式土器が覆土中・下層から出土しているところから，縄文時代早期に構築されたものと考えられる。第5号土坑（陥し穴）は，茅山式土器が覆土上層から出土しているところから，縄文時代と考えられるが，さらに時期を特定することは難しい。

当遺跡からは，ほかに第4，5号土坑付近のE2区，F2区などの台地の縁辺部から縄文土器片が出土している。縄文土器片は，55.1%が茅山下層式土器群で，38.1%が井草式土器群である。井草式土器片は，E2$_{jg}$，E2$_{ii}$，E2$_{jj}$から多く出土している。茅山下層式土器片は，E2$_{hg}$，E2$_{jg}$，E2$_{ig}$から多く出土している。

このように，縄文時代早期の土器片が認められるが，該期の住居跡は確認されていないので，狩り場やキャンプサイト的な性格が考えられる。

### 3　古墳時代

当遺跡の中心となる時期である。2期に分けることができる。

第1期（5世紀末～6世紀はじめ）

第8～12号住居跡の5軒及び第7号土坑1基が該当する。第8，9号住居跡は，調査2区の中央部から検出されている。第10～12号住居跡は，調査4区中央部から検出されている。住居跡の平面形は方形で，第9号住居跡のみ炉及び主柱穴を確認できなかった。第8号住居跡は，焼失家屋で，多くの炭化材と焼土を検出している。炭化材は分析の結果，コナラであることがわかった。住居跡の分布状況から，第10～12号住居跡と第8，9号住居跡は別のグループであるとみられるが，調査区域外にも住居跡の存在が考えられる。第7号土坑は，第10号住居跡の北西部に位置している。

遺物は，坏，椀，坩，鉢，壺，甕，甑が出土し，古墳時代後期の様相をもった遺物も出土しているが，坏・椀類のほとんどが赤彩されているなど和泉式土器の様相が強いため，古墳時代中期とした。

第2期（6世紀後半～7世紀前半）

第1～3号住居跡の3軒が該当する。いずれも調査1区の西部で台地の縁辺部から検出されている。住居跡の平面形は，1号が長方形で，2，3号は方形である。いずれも竈をもち，主柱穴は3号住居跡のみ確認できなかった。1，2号住居跡は，いずれも調査区域外に延びている。第2号住居跡は，竈とともに炉をもっている。

遺物は坏・甕とともに，多くの鉄滓が出土している。特に，1，2号住居跡からは，多量の鉄滓が出土して

おり，2号住居跡からは，羽口が出土している。また，遺跡西側の崖下から重量9190gの大形鉄滓が採集されていることから，近くに製鉄炉が存在したと思われる。(1)

鉄滓は，その他の遺構からも出土しており，調査1区に集中して出土している。鉄滓の中には，着磁性のあるものも一部含まれるが，点数は少ない。鍛造剥片等は確認できなかった。

## 4　奈良時代（8世紀）

第4号住居跡の1軒のみが該当する。第4号住居跡は調査1区の南部に位置している。覆土上層は耕作による撹乱を受け，残存していない。竈の痕跡が認められるだけで，竈は残存していない。調査区域外に同時期の住居跡が存在するか，離れ国分的な住居跡かは不明である。

## 5　平安時代（10世紀初め）

第5，6号住居跡の2軒が該当する。いずれも竈をもっており，調査1区の中央部に位置している。6号住居跡のみピットと貯蔵穴及び炉を有している。5号住居跡は，東コーナー部に竈を有しているが，それ以外の内部施設を確認できなかった。

註・参考文献

(1) 鉄滓については，茨城県立歴史館の阿久津久氏の助言を得た。


・財団法人　千葉県文化財センター　「No14遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』　1983年2月

・財団法人　千葉県文化財センター　「No7遺跡」『埋蔵文化財発掘調査報告書』　1983年2月

・潮見　浩　『図解　技術の考古学』　有斐閣　1994年4月

・芹沢長介　『旧石器の知識』　東京美術　1986年6月

・窪田蔵郎　『製鉄遺跡』　ニューサイエンス社　1986年7月

・たたら研究会　『日本古代の鉄生産』　六興出版　1991年5月

・財団法人千葉県文化財センター　『房総考古学ライブラリー2　縄文時代（1）』　1985年3月

・財団法人勝田市文化振興公社　『（財）勝田市文化振興公社文化財報告第1集　武田Ⅱ』　1989年3月

・櫻村宣行　「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート2号』　財団法人　茨城県教育財団　1992年4月

・浅井哲也　「茨城県内における奈良・平安時代の土器（Ⅱ）」『研究ノート2号』財団法人　茨城県教育財団　1992年4月

・斎藤弘道　「茨城の縄文時代草創期・早期の土器群について（四）」『年報7』財団法人　茨城県教育財団　1987年3月

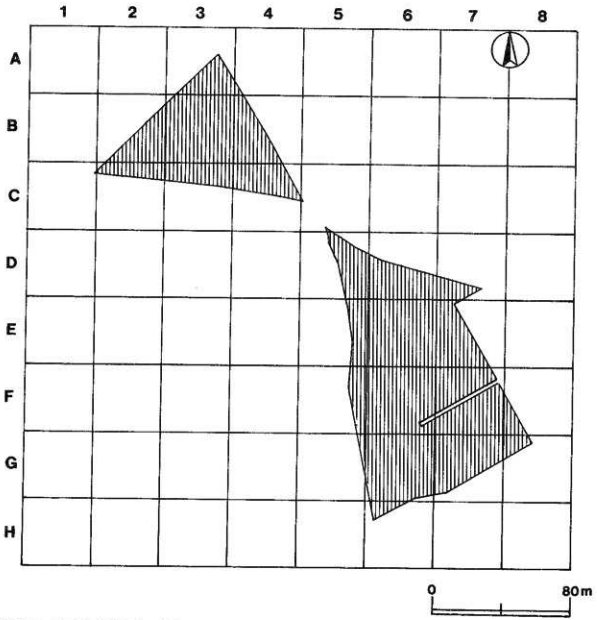
作業風景（根崎遺跡）

# 第4章　西栗山遺跡

## 第1節　遺跡の概要

西栗山遺跡は，根崎遺跡の北へ約1kmほどの所に所在し，同一台地上にある。調査面積は，16,896m²である。調査前の現況は，畑と山林である。台地の平坦部からは，縄文土器・土師器片などが採集でき，縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡である。

調査は，調査区域を1，2区に区分して実施した。今回の調査によって確認された遺構は，竪穴住居跡28軒，土坑13基，溝3条である。




第56図　西栗山遺跡調査区割図

古墳時代の遺構は，中期の竪穴住居跡６軒，後期の竪穴住居跡21軒，時期を特定できない竪穴住居跡１軒，土坑１基が検出された。住居跡は，１，２区から検出され，このうち炉をもつものが３軒，竈をもつものが18軒，炉も竈もないものが４軒，炉や竈を検出できない竪穴住居跡が３軒である。古墳時代の竪穴住居跡８軒の竈からは，貝の小片まじりの灰白色の灰が出土している。

遺物は，遺物収納箱(60×40×20cm)に，53箱出土している。

縄文時代の遺物は，縄文土器（土器片），石器（石鏃，局部磨製石斧，磨石等）が出土している。古墳時代の遺物は，土師器（坏，椀，高坏，甕，壺及びその破片等），土製品（土玉，紡錘車，支脚），石器・石製品（臼玉，紡錘車，双孔円板等），鉄製品（鎌）が出土している。

## 第２節　基本層序

調査区内にテストピットを掘り，基本土層の観察を行った（第57図）。

第１層は，32cm前後の厚さの耕作土層で，暗褐色をしている。

第２層は，22～32cmの厚さで，褐色をしたソフトローム層である。

第３層は，28～42cmの厚さで，暗褐色の黒色帯である。

第４層は，32～40cmの厚さで，褐色のハードローム層である。

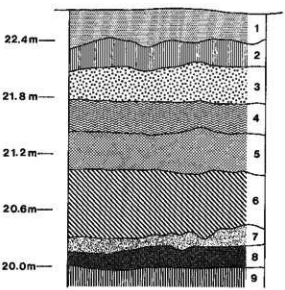
第５層は，36～50cmの厚さで，褐色のハードローム層で上層よりやや粘性がある。

第６層は，54～72cmの厚さで，褐色のハードローム層でやや粘性としまりがある。

第７層は，10～22cmの厚さで，橙色の粘土層である。

第８層は，14～24cmの厚さで，褐色の粘土層への漸移層である。

第９層は，10～14cmの厚さで，明褐色の粘土層である。



第57図　西栗山遺跡基本土層図

住居跡などの遺構は，第２層上面で確認した。

## 第３節　遺構と遺物

### １　竪穴住居跡

今回の調査で，古墳時代の竪穴住居跡28軒が検出されている。住居跡間の重複はなく，遺存状態は比較的良好である。

以下，検出された住居跡の特徴や出土遺物について記述する。

### 第1号住居跡（第58図）

**位置**　調査1区南部，G6 g5区。

**規模と平面形**　長軸4.60m，短軸4.10mの長方形。

**主軸方向**　N－24°－W

**壁**　壁高は54～80cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅15～20cm，深さ4～5cm。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平担で，中央部が踏み固められている。

**竈**　北西壁の東寄りを壁外へ40cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ110cm，幅92cmである。両袖部とも残存しており，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は楕円形で10cmほど掘りくぼめている。煙道は確認できなかった。支脚の下部から貝の小片を含む灰白色の灰が出土している。

**竈土層解説**

1　純い黄褐色　ローム粒子微量，山砂中量
2　褐　　色　炭化粒子微量，焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，山砂中量
3　灰　褐　色　焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，山砂中量
4　純い赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂少量
5　暗 赤 褐 色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，炭化粒子・焼土粒子微量
7　純い赤褐色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，山砂・小石微量
8　灰　白　色　灰

**ピット**　2か所（$P_1$・$P_2$）。$P_1$，$P_2$は径15～30cmの円形，深さ33～38cmで，性格は不明である。

**覆土**　5層からなる自然堆積である。

**土層解説**

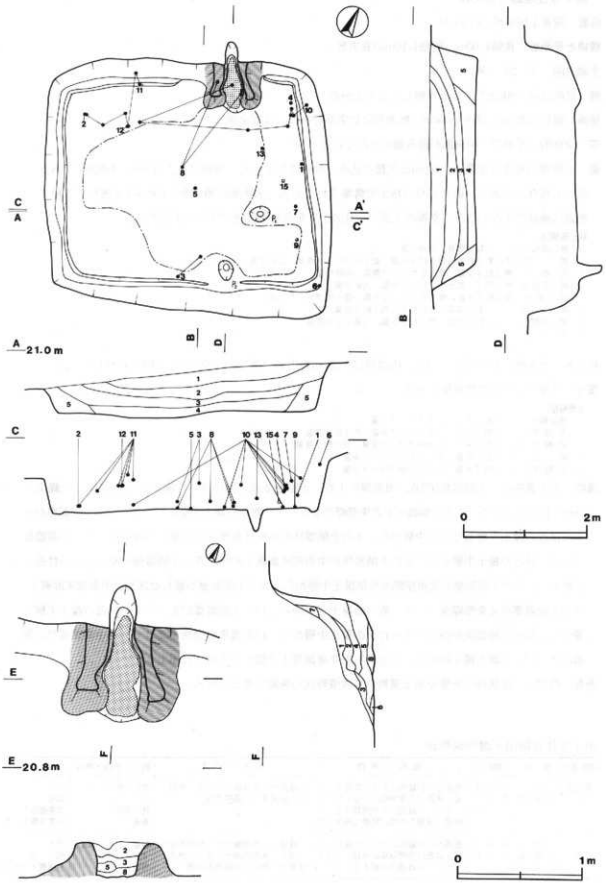
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小中ブロック少量，炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック少量

**遺物**　出土遺物は，土師器片560点，須恵器片1点，土製品2点，歯10点，石器2点，及び混入した縄文土器片18点が出土している。1の土師器坏が北東壁際の北コーナー寄りの覆土中層から，2，11の土師器甕が西コーナー付近の覆土下層及び上・中層から，3の土師器坏が中央部南東寄りの覆土中層から，4の土師器甕が北コーナー付近の覆土中層から，5の土師器坏が中央部床面直上から，6の土師器椀が東コーナー付近の覆土上層から，7の土師器甕が北東壁際中央部覆土中層から，8の土師器甕が竈右袖部及び中央部床面直上から，9の土師器甕が北東壁際東コーナー寄りの覆土下層から，10の土師器甕が北コーナー付近の覆土下層及び中層から，12の土師器甑が西コーナー付近の覆土中層から，13の須恵器提瓶が北コーナー中央部寄りの覆土下層から，14の石鏃が覆土中から，15の磨石が北東部覆土下層からそれぞれ出土している。

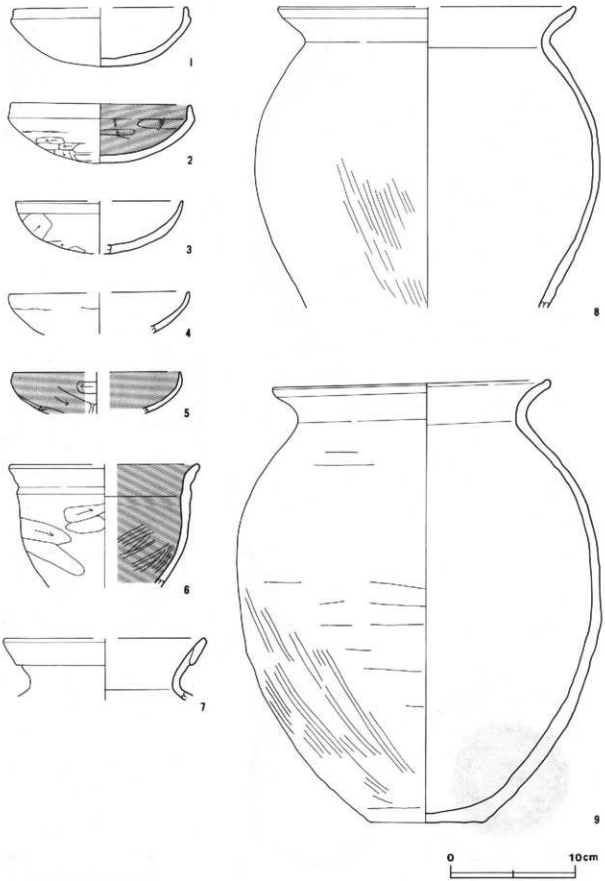
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

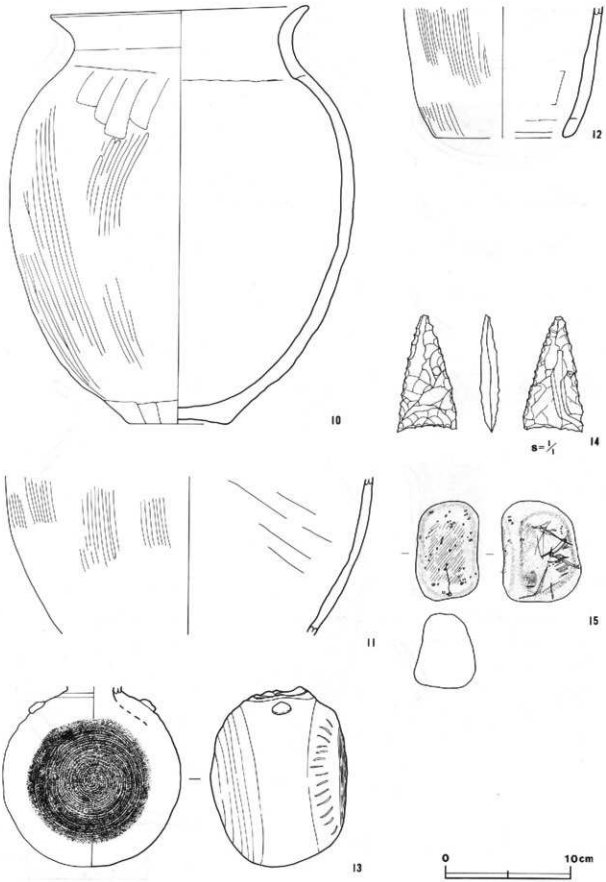
| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図 1 | 坏 土師器 | A 13.8 B (4.7) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面ともに磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P 1<br>65%<br>北東壁際北コーナー寄り覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A 14.4 B 4.8 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ後ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内面黒色処理。 | 砂粒・石英・雲母<br>オリーブ黒色<br>普通 | P 2<br>60%，西コーナー付近覆土上中下層 |




第58図　第１号住居跡実測図




第59図　第１号住居跡出土遺物実測図(1)




第60図　第１号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図 3 | 坏 土師器 | A[13.4] B( 4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。口縁部と体部との境に弱い稜を持つ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 | P 3 20% 中央部南東寄り覆土中層 |
| 4 | 坏 土師器 | A[14.4] B( 3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外烈する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位に輪積み痕。 | 砂粒・雲母・スコリア。鈍い橙色 普通 | P 4 15%, 北コーナー付近覆土中層 |
| 5 | 坏 土師器 | A[13.4] B( 3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・パミス 鈍い黄橙色 普通 | P 6 10% 中央部床面直上 |
| 6 | 椀 土師器 | A[15.0] B(10.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。 | 砂粒・雲母 外面鈍い褐色 普通 | P11 15% 東コーナー付近覆土上層 |
| 7 | 甕 土師器 | A[16.0] B( 5.0) | 口縁部片。口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・スコリア，浅黄橙色 良通 | P16 5%, 北東壁際中央部覆土中層 |
| 8 | 甕 土師器 | A[24.0] B(24.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部つまみ上げ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P14 20%, 竈右袖部及び中央部床面直上 |
| 9 | 甕 土師器 | A 22.1 B 35.9 C 9.2 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き，輪積み痕。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P12, 85%, 北東壁際第二コーナー寄り覆土下層 |
| 第60図 10 | 甕 土師器 | A 20.7 B 33.8 C 8.0 | 中央がややくぼんだ平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラナデ。 | 砂粒・石英・スコリア・礫，橙色 普通 | P13 90%, 北コーナー付近覆土中・下層 |
| 11 | 甕 土師器 | B(12.7) | 体部片。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い黄橙色。普通 | P15, 15%, 西コーナー付近覆土上・中・下層 |
| 12 | 甑 土師器 | B(10.6) C[11.0] | 体部下位から底部にかけての破片。無底式。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・スコリア，鈍い黄橙色 普通 | P17 10%, 西コーナー付近覆土中層 |
| 13 | 提瓶 須恵器 | B(14.6) | 口縁部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，類部でくびれる。口縁部は外反する。 | 類部に沈線のヘラ描きを施す。把手は，ボタン状である。体部外面ロクロナデ。 | 砂粒・石英 灰色 普通 | P18, 85%, 北コーナー中央部寄り覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 石錘 | 3.15 | 1.5 | 0.5 | 2.1 | 頁岩 | 覆土中 | Q 1 |
| 15 | 磨石 | 8.1 | 5.1 | 6.4 | 386.0 | 安山岩 | 北東部覆土下層 | Q 2 |

### 第2号住居跡（第61図）

**位置**　調査1区南東部，F 7 ia区。

**規模と平面形**　長軸3.86m，短軸3.00mの長方形。

**主軸方向**　N－59°－E

**壁**　壁高は33～39cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平担で，全体が踏み固められている。

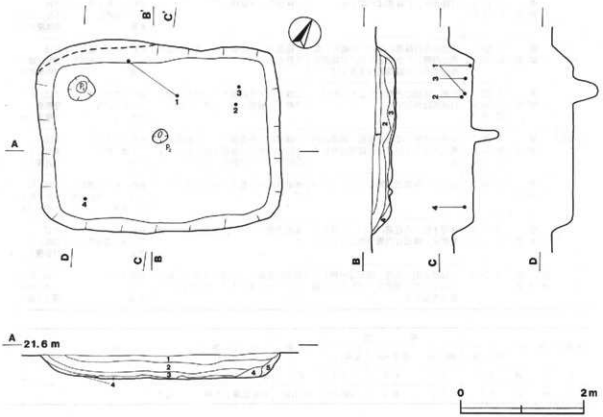
**ピット**　2か所（$P_1$・$P_2$）。$P_1$，$P_2$は径21～40cmの円形，深さ38～43cmで，性格は不明である。

**覆土**　5層からなる自然堆積である。

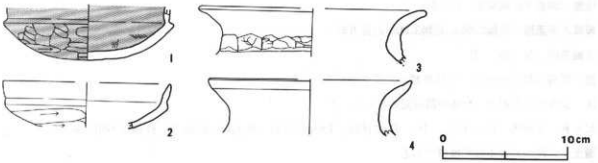
土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子少量
3　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

**遺物**　出土遺物は，土師器片133点が出土している。1の土師器坏が北西壁際西コーナー寄りの覆土下層及び中央部覆土中層から，2の土師器坏，3の土師器甕が北コーナー付近の覆土中層から，4の土師器甕が南コーナー付近の覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡は，位置関係から，第3号住居跡と何らかの関係がある住居と考えられる。時期は住居跡の形態や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。




第61図　第2号住居跡実測図




第62図　第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第62図 1 | 坏 土師器 | B(4.5) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は哀立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 純い黄橙色 普通 | P19,20%,北西壁際西コーナー寄り中央部覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.4] B(3.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P20 30% 北コーナー付近覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | A(18.0) B(3.9) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。独部に粘土塊を貼り付けている。 | 砂粒・石英・雲母 明赤褐色 普通 | P21 5%，北コーナー付近覆土中層 |
| 4 | 甕 上師器 | A[16.2] B(4.4) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，橙色 普通 | P22 5%，南コーナー付近覆土中層 |

### 第3号住居跡（第63図）

**位置**　調査1区南東部，F7$_{h3}$区。

**規模と平面形**　長軸6.15m，短軸6.00mの方形。

**主軸方向**　N－27°－W

**壁**　壁高は58～72cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅3～15cm。断面はU字形である。住居跡西半分を半周している。

**床**　全体的に平担で，竈の周辺及び中央部が踏み固められている。

**竈**　北東壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ120cm，幅130cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。火床は確認できなかった。煙道は緩やかに立ち上がる。竈内に灰を確認している。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，山砂少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量，焼土小ブロック少量，山砂多量
3　暗赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量，焼土小ブロック少量，山砂多量
4　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子微量，山砂中量
5　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子多量，焼土中大ブロック中量，山砂多量
6　灰　赤　色　ローム中ブロック・焼土粒子・焼土中ブロック中量
7　赤　褐　色　焼土粒子・焼土小中ブロック中量
8　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量

**ピット**　4か所。$P_1$～$P_4$は径30～45cmの円形，深さ30～33cmである。位置から主柱穴と考えられる。

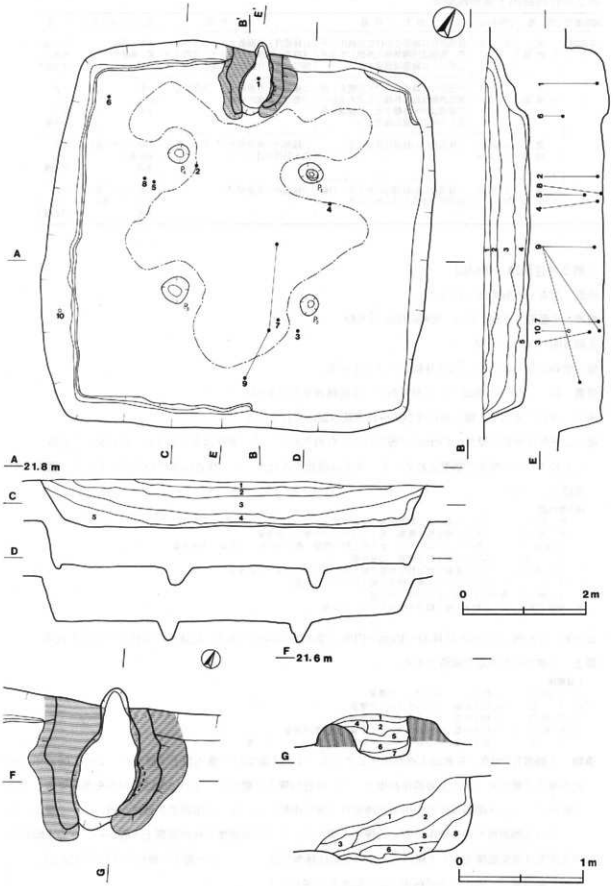
**覆土**　5層からなる自然堆積である。

土層解説

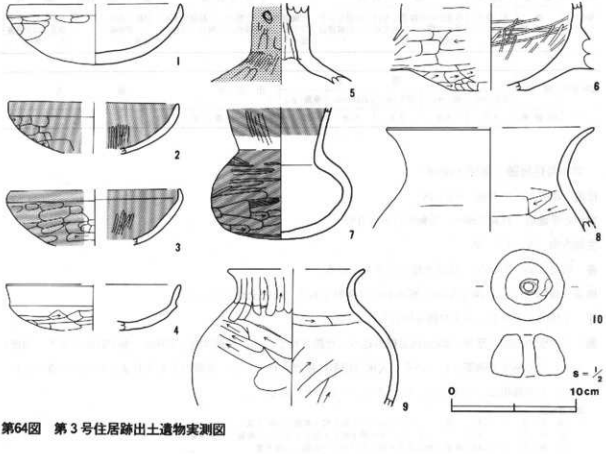
1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
2　黒　　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量

**遺物**　土師器片580点，石製品1点が出土している。1の土師器坏が竈内覆土下層から，2の土師器坏が竈付近の覆土下層から，3の土師器坏が東コーナー付近の覆土下層から，4の土師器坏が中央部北東寄りの覆土下層から，5の土師器高坏が中央部北西寄りの覆土中層から，6の土師器把手付鉢が西コーナー覆土上層から，7の土師器坩が中央部南東寄りの覆土下層から，8の土師器甕が南西部覆土下層から，9の土師器甕が中央部及び南東部覆土中・下層から，10の土製紡錘車が南コーナー付近覆土上層からそれぞれ出土している。8の土師器甕は，第4号住居跡出土の土師器片と接合できた。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。




第63図　第３号住居跡実測図




**第64図　第３号住居跡出土遺物実測図**

第３号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図 1 | 坏 土師器 | A[13.8] B( 4.8) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P23 50% 竈内覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.6] B( 4.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，内面赤色，外面橙色，普通 | P24 40% 竈付近覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[13.6] B( 4.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 黒色 普通 | P25 10%，東コーナー付近覆土下層 |
| 4 | 坏 土師器 | A[14.0] B( 3.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は外傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 鈍い橙色 普通 | P26 10% 中央部北東寄りの覆土下層 |
| 5 | 高坏 土師器 | E( 6.5) | 裾部から脚部にかけての破片。裾部はラッパ状に開く。脚部は中空でやや膨らみをもつ。 | 外面ヘラ削り。外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア・礫，鈍い黄褐色，普通 | P27 15%，中央部北西寄り覆土中層 |
| 6 | 把手付鉢 土師器 | B( 7.0) C[ 6.0] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，体部下位に把手をもつ。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P31 10%，西コーナー覆土上層 |
| 7 | 坩 土師器 | B(10.7) | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内面横ナデ，外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り後，ヘラ磨き。底部ヘラ削り。口縁部内・外面，体部外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 黒色 普通 | P28 70% 中央部南東寄り覆土下層 |
| 8 | 甕 土師器 | A[16.8] B( 8.4) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面下位ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P30 5% 南西部覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第64図 9 | 壺 土師器 | A(10.9) B(11.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部外面へラ削り。口縁部内面へラナデ。体部外面へラ削り。体部内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P29，20%，中央部及び南東部覆土中・下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 10 | 勘錘車 | 3.9 | 3.9 | 2.3 | 0.9 | 37.0 | 南コーナー付近覆土上層 | DP1 |

### 第4号住居跡（第65・66図）

**位置**　調査1区中央部，F6eo区。

**規模と平面形**　長軸5.88m，短軸5.77mの方形。

**主軸方向**　N－45°－W

**壁**　壁高は55～70cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅10～12cm，深さ5cm。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北西壁中央部を竈外へ25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ150cm，幅120cmである。袖部は砂まじりの粘土で構築されている。火床は円形に確認されている。支脚の下から貝まじりの灰が確認されている。貝の種類は，アカニシ，ハマグリ，ウミニナである。

竈土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，山砂少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック微量，山砂多量
3　暗　褐　色　ローム粒子微量，焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂多量
4　黄い赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック少量
6　褐　色　ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小中ブロック微量，山砂少量
7　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
8　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
9　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，山砂少量
10　灰　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量，山砂多量
11　黄い赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック微量，焼土中ブロック少量，山砂多量
12　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
13　黄い赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック微量，山砂少量
14　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，山砂少量
15　灰　白　色　灰

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$～$P_4$は径53～80cmの円形，深さ40～50cmである。位置から主柱穴と考えられる。$P_5$は長径30cmの楕円形，深さ26cmである。出入り口にともなう施設であると考えられる。

**貯蔵穴**　北西壁北コーナー寄りから確認されている。平面形は，長軸80cm，短軸70cmの長方形を呈し，深さは26cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説

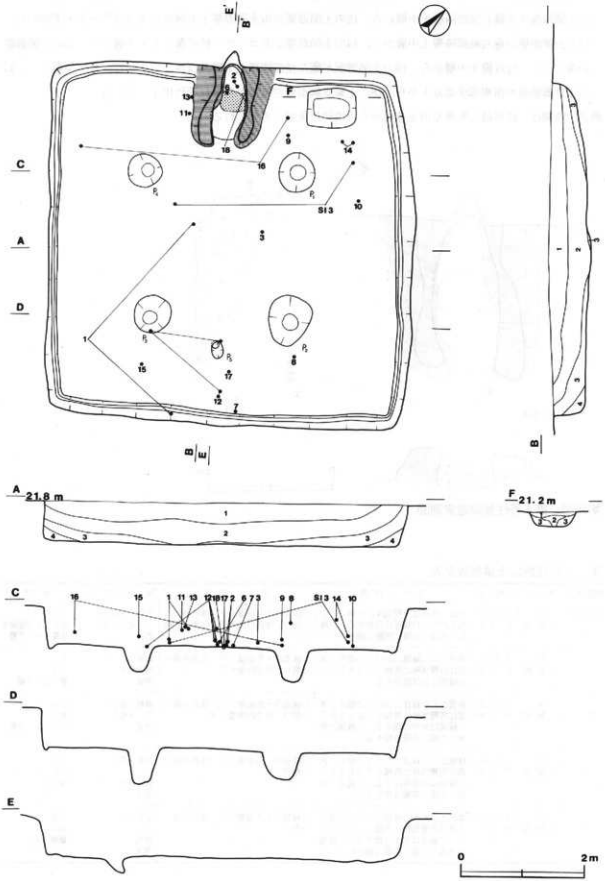
1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小中大ブロック少量
2　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

土層解説

1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小中大ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中大ブロック・炭化物・焼土粒子・焼土小ブロック微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム中大ブロック少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量，焼土粒子微量

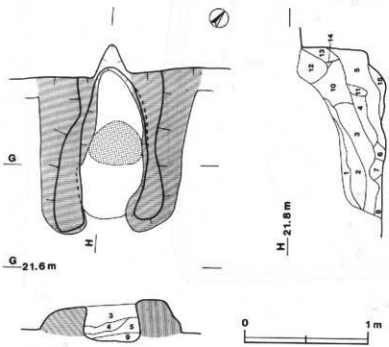
**遺物**　土師器片475点，須恵器片1点，支脚1点が出土している。1の土師器坏が中央部覆土及び南東壁覆土中・下層から，2，6の土師器坏が竈内覆土下層から，3の土師器坏が中央部覆土下層から，4の土師器坏が覆土中から，5の土師器坏が竈覆土中から，7の土師器坏が南東壁際床面直上から，8の土師器坏が東コーナー




第65図　第４号住居跡実測図

付近覆土上層から，9の土師器坏が竈付近覆土中層から，10の土師器坏が北コーナー付近覆土下層から，11の土師器高坏が竈右袖部隣覆土中層から，12の土師器甕が南東壁際覆土下層及び南西部覆土中・下層から，13の土師器甕が竈右袖部隣覆土中層から，14の土師器甕が北コーナー付近覆土上・下層から，15の土師器甑が南コーナー付近覆土中層から，16の土師器甑が竈左袖部隣覆土下層及び西コーナー付近覆土中層から，17の須恵器横瓶が南東部床面直上から，18の土製支脚が竈左袖部からそれぞれ出土している。

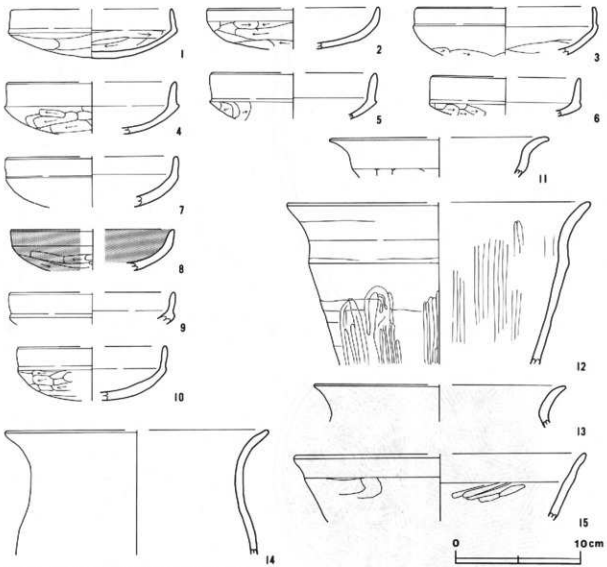
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第66図　第4号住居跡竈実測図**

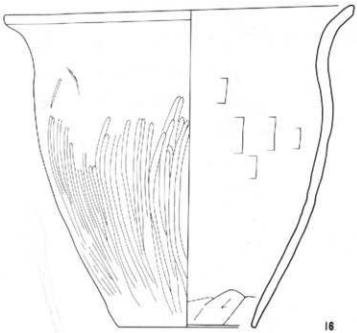
第4号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図 1 | 坏 土師器 | A[12.8] B(3.9) | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い赤褐色 普通 | P32 60%，中央部南東壁覆土中・下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.6] B(3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。 | 砂粒・スコリア 明黄褐色 普通 | P33 30%，竈内覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[14.2] B(3.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや内傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤褐色 普通 | P34 20%，中央部覆土下層 |
| 4 | 坏 土師器 | A[13.6] B(4.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア 純い橙色 普通 | P35 10%，覆土中 |
| 5 | 坏 土師器 | A[13.2] B(3.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 | P36 10%，竈覆土中 |

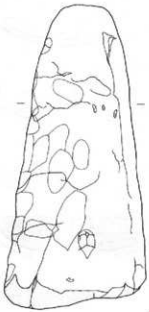



**第67図　第４号住居跡出土遺物実測図(1)**

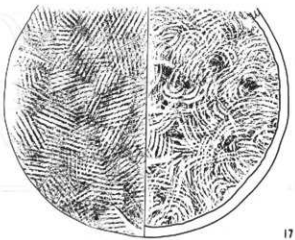
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図<br>6 | 坏<br>土師器 | A[11.8]<br>B( 3.1) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>明赤褐色<br>普通 | P37<br>10%<br>竈内覆土下層 |
| 7 | 坏<br>土師器 | A[13.6]<br>B( 4.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P38<br>10%<br>南東壁際床面直上 |
| 8 | 坏<br>土師器 | A[13.0]<br>B( 3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>黒色<br>普通 | P39<br>20%，東コーナー付近覆土上層 |
| 9 | 坏<br>土師器 | A[13.2]<br>B( 2.6) | 口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>灰黄褐色<br>普通 | P40<br>10%<br>竈付近覆土中層 |



16



18



17

0　10cm

**第68図　第4号住居跡出土遺物実測図(2)**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図<br>10 | 坏<br>土師器 | A[11.8]<br>B( 4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>橙色<br>普通 | P41<br>20%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 11 | 高坏<br>土師器 | A[17.0]<br>B( 3.2) | 口縁部片。口縁部は強く外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色<br>普通 | P42<br>10%，竈右袖部隣付近覆土中層 |
| 12 | 甕<br>土師器 | A[24.4]<br>B(13.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・スコリア，橙色<br>普通 | P46<br>20%，南東隅及び南西部覆土中・下層 |
| 13 | 甕<br>土師器 | A[20.2]<br>B( 3.0) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒<br>黄橙色<br>普通 | P48<br>5%，竈右袖部隣覆土中層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第67図 14 | 甕 土師器 | A(20.8) B(10.0) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・スコリア 明黄褐色 普通 | P47 5%，北コーナー付近覆土上・下層 |
| 15 | 甕 土師器 | A(23.4) B(5.4) | 口縁部片。口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位外面ヘラ削り，内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア，内面明褐色，外面明黄褐色，普通 | P49 10%，南コーナー付近覆土中層 |
| 第68図 16 | 甕 土師器 | A 28.0 B 26.0 C 11.0 | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア 鈍い黄橙色 普通 | P50，90%，竪穴袖部隅及び西コーナー付近覆土中・下層 |
| 17 | 横瓶 須恵器 | B(18.5) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。 | 外面に平行タタキ，内面に同心円の当て具痕がある。 | 砂粒・石英・雲母 褐灰色 普通 | P51 25% 南東部床面直上 |

| 図版番号 | 機別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 18 | 支脚 | 24.6 | 14.5 | 11.2 | 2400 | 竪穴袖部 | DP2 |

## 第5号住居跡（第69・70図）

**位置** 調査1区東部，E7$_{e4}$区。

**規模と平面形** 長軸6.25m，短軸6.10mの方形。

**主軸方向** N－20°－W

**壁** 壁高は60～70cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝** 幅は5～20cm，深さ5～10cm。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床** 全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈** 北壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ135cm，幅135cmである。袖部は砂まじりの粘土で構築されている。煙道部は確認できなかった。火床部の支脚の下から貝の小片を含む灰が確認されている。

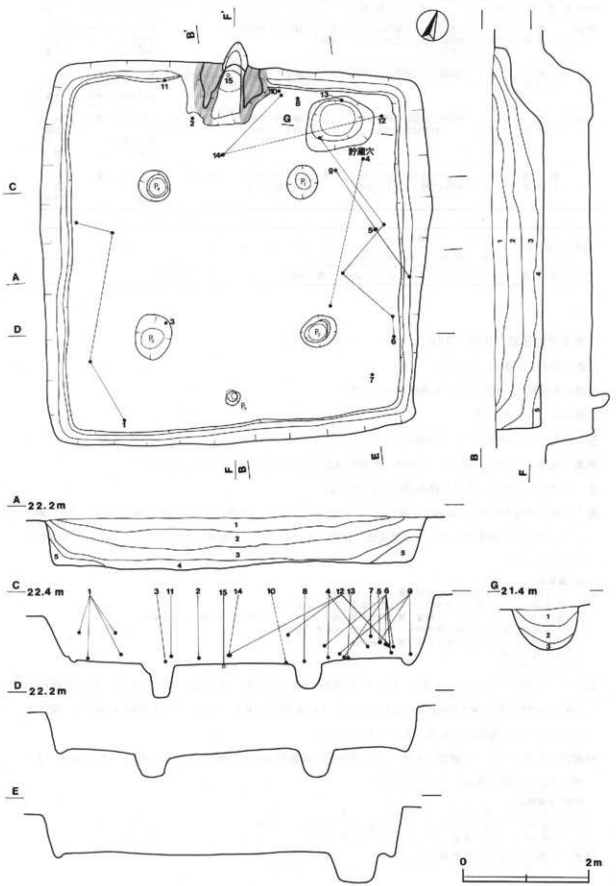
竈土層解説
1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，小石・山砂少量
2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，小石・山砂少量
3 鈍い赤褐色 ローム大ブロック微量，焼土粒子中量，焼土中大ブロック・炭化粒子少量，山砂少量
4 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土中大ブロック中量，炭化粒子少量
5 鈍い赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量，山砂少量
6 暗赤褐色 焼土
7 灰白色 灰

**ピット** 5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$，$P_2$，$P_4$は径50～55cmの円形，深さ40～52cmである。$P_3$は長径75cm，短径67cmの楕円形，深さ35cmで，これらのピットは主柱穴と考えられる。$P_5$は径20cmの円形，深さ31cmほどで出入り口の施設にともなうものと考えられる。

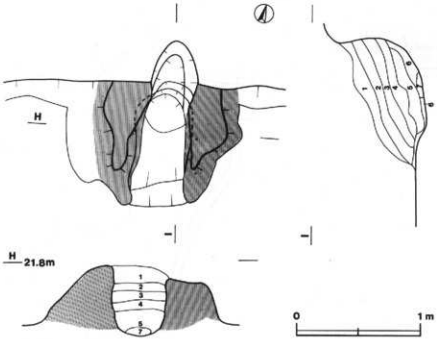
**貯蔵穴** 北東コーナーに確認されている。平面形は長軸105cm，短軸85cmの長方形で，深さ49cmである。底部は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中大ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小大ブロック少量

**覆土** 5層からなる自然堆積である。




第69図　第５号住居跡実測図




**第70図　第5号住居跡竈実測図**

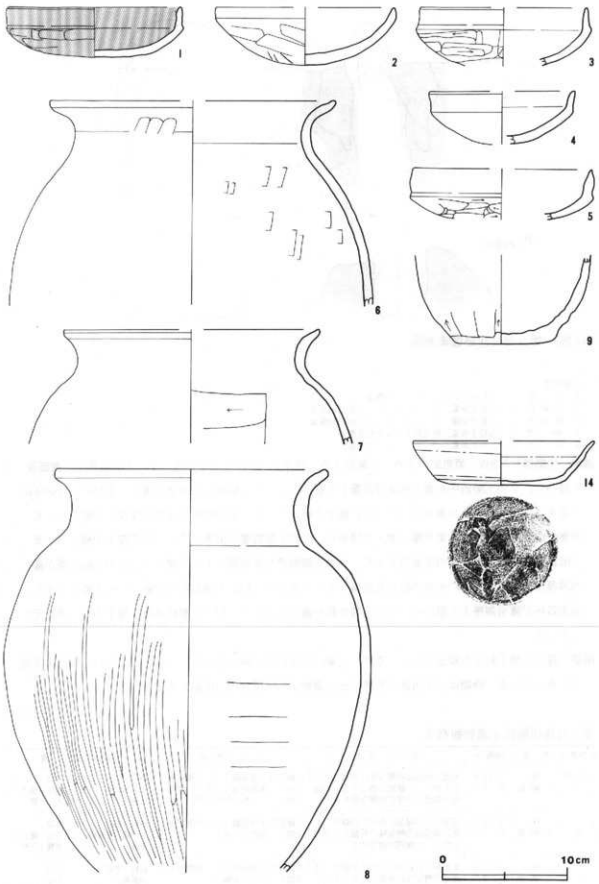
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・ローム小ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量
3　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片519点，須恵器片4点，土製品7点，鉄滓1点が出土している。1の土師器坏が南西部覆土中・下層から，2の土師器坏が竈右袖部付近覆土下層から，3の土師器坏が中央部覆土下層から，4の土師器坏が北東コーナー付近及び南東コーナー付近覆土下層から，5の土師器坏が北東壁際覆土中層から，6の土師器甕が貯蔵穴付近及び北東部覆土中・下層から，7の土師器甕が南東コーナー付近覆土中層から，8，10の土師器甕が竈左袖部東隣の床面直上から，9の土師器甕が東部覆土中・下層から，11の土師器甕が竈右袖部西隣覆土下層から，12の土師器甑が北部覆土中・下層から，13の土師器甑が貯蔵穴付近床面直上から，14の須恵器坏が竈南側覆土下層から，15の土製支脚が竈火床部から，16の土製紡錘車が覆土中からそれぞれ出土している。

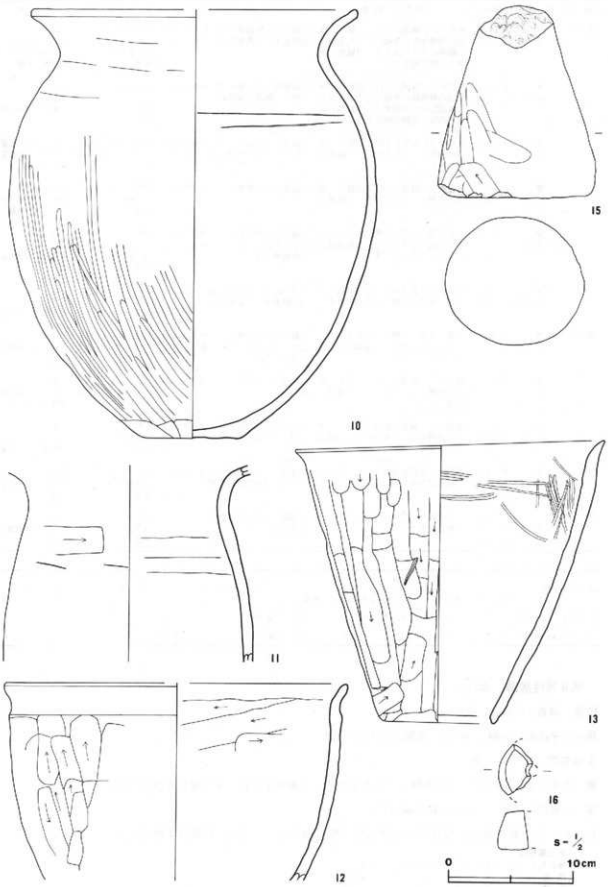
**所見**　覆土に焼土粒子が検出されているが，下層に炭化材等が検出されていないので，流れ込みによる焼土粒子と考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図 1 | 坏 土師器 | A 13.8 B 4.0 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヨコナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，黒褐色 普通 | P52 70%，南西部覆土中・下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[14.4] B 4.7 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い黄褐色 普通 | P53 50%，竈右袖部付近覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[13.4] B(4.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母 明黄褐色 普通 | P54 10% 中央部覆土下層 |




第71図　第５号住居跡出土遺物実測図(1)




第72図　第５号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器 種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図 4 | 坏 土師器 | A[11.6] B 4.2 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面悪減著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア 黄い黄橙色 普通 | P55 30%，北東コーナー，南東コーナー付近覆土下層 |
| 5 | 坏 土師器 | A[14.2] B 4.1 | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 | P56 10% 北東明瞭覆土中層 |
| 6 | 甕 土師器 | A[23.0] B(16.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラナデ。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，黄い褐色 普通 | P61，10%，貯蔵穴付近，北東部覆土中・下層 |
| 7 | 甕 土師器 | A[20.6] B(6.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・スコリア，橙色 普通 | P63 10%，南東コーナー付近覆土中層 |
| 8 | 甕 土師器 | A 21.6 B 32.6 | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面輪積み痕。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア 黄い黄橙色 普通 | P59 80% 竪穴袖部東隅床面直上 |
| 9 | 甕 土師器 | B(7.2) C 7.5 | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。内面悪減著しく調整不明。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P65 15% 東部覆土中・下層 |
| 第72図 10 | 甕 土師器 | A[26.1] B 34.7 C 7.8 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げられている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，黄い黄褐色 普通 | P60 50%，竪穴袖部東隅床面直上 |
| 11 | 甕 土師器 | B(15.9) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，黄い黄褐色 普通 | P62 10%，竪穴袖部西隅覆土下層 |
| 12 | 鉢 土師器 | A[27.2] B(16.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・スコリア 明赤褐色 普通 | P67 10% 北部覆土中・下層 |
| 13 | 鉢 土師器 | A 23.8 B 23.0 C 9.0 | 無底式。体部は外傾して立ち上がる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・スコリア 明赤褐色 普通 | P66 95%，貯蔵穴付近床面直上 |
| 第71図 14 | 坏 須恵器 | A 14.6 B 3.5 C 8.2 | 平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部，体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 灰色 普通 | P68 60%，竪穴袖部覆土下層 |

| 図版番号 | 種 類 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第72図15 | 支 脚 | (15.5) | 12.8 | 12.5 | — | (1610) | 竪穴床部 | DP3 |
| 16 | 紡錘車 | (2.8) | (1.8) | (2.1) | [0.8] | (9.9) | 覆土中 | DP4 |

## 第6号住居跡（第73図）

**位置** 調査1区南部，G6ba区。

**規模と平面形** 長軸[3.82]m，短軸[3.50]mの方形。

**主軸方向** N－34°－E

**壁** 壁高は25～30cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。北東部半分近くまで攪乱を受け，残存していない。

**床** 全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**ピット** P1は長径42cm，短径50cmの楕円形，深さ42cmほどである。性格は不明である。

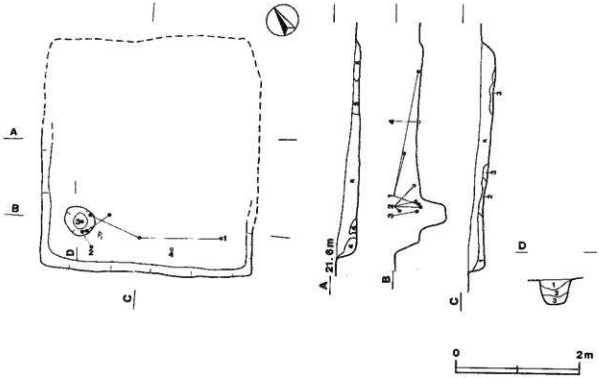
ピット土層解説
1 暗褐色 ローム粒子・ローム小大ブロック少量
2 明褐色 ローム粒子・ローム小中大ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小大ブロック少量

**覆土**　5層からなる人為堆積である。

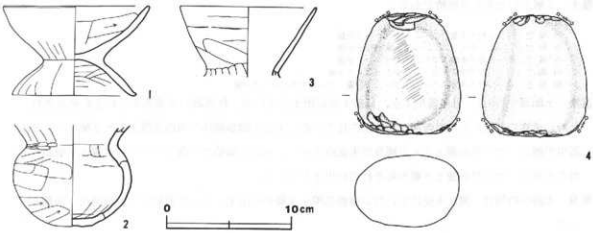
**土層解説**
1　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
2　暗褐色　ローム小中大ブロック少量，焼土粒子多量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック少量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中大ブロック少量
5　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中大ブロック中量

**遺物**　土師器片173点，須恵器片1点，石器1点が出土している。住居跡の北東部半分以上が撹乱されているため，遺物のほとんどは南西部から検出されている。1の土師器高坏が南西部覆土中・下層から，2の土師器坩が西コーナー付近覆土上・下層及び床面直上から，3の土師器坩が西コーナー付近覆土下層から，4の磨石が南コーナー付近覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡の時期は，撹乱を受けていない南西部覆土下層から出土していた遺物から古墳時代の中期と考えられる。




**第73図　第6号住居跡実測図**




**第74図　第６号住居跡出土遺物実測図**

第６号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第74図 1 | 高　坏<br>土師器 | A 13.6<br>B 7.3<br>D 11.8<br>E 2.8 | 脚部はハの字状に開く。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 坏部外面下位ヘラ削り，内面ヘラナデ。脚部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P69<br>90%<br>南西部覆土中・下層 |
| 2 | 坩<br>土師器 | B ( 8.2)<br>C 3.2 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は球形を呈し，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い黄橙色<br>普通 | P71，50%，西コーナー付近覆土上下層，床面直上 |
| 3 | 坩<br>土師器 | A 11.0<br>B ( 5.7) | 口縁部片。口縁部は外傾する。 | 口縁部上位内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P70<br>40%<br>西コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 4 | 磨石 | 9.9 | 8.4 | 5.8 | 773 | 安山岩 | 覆土下層 | Q3 |

**第７号住居跡**（第75図）

**位置**　調査１区南部，G6$_{68}$区の斜面部。

**規模と平面形**　長軸3.70m，短軸3.47mの方形。

**主軸方向**　N－50°－W

**壁**　壁高は66～105cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

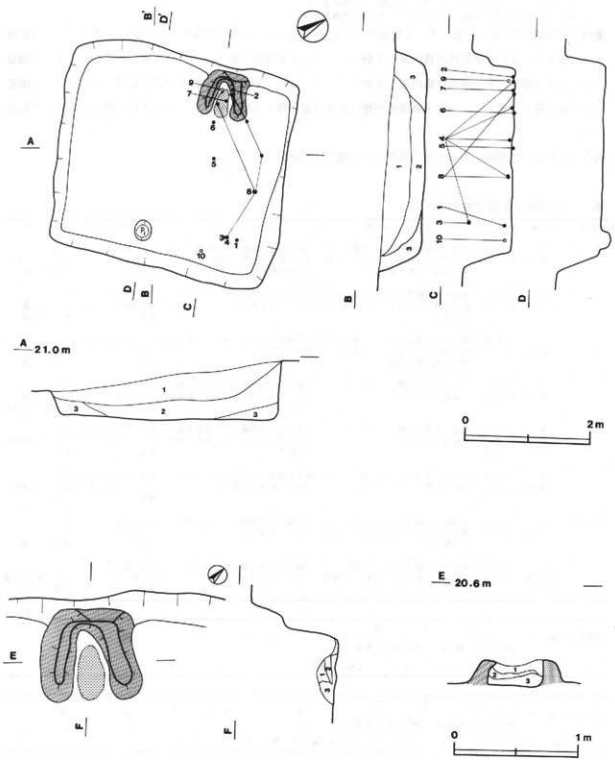
**床**　全体的に平担で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北西壁北コーナー寄りに付設されている。規模は長さ75cm，幅75cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。火床は楕円形である。

**竈土層解説**

1　純い赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量，山砂少量
2　赤　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック微量，山砂少量
3　赤　褐　色　焼土粒子中量，焼土小中ブロック少量，焼土大ブロック微量，山砂中量

**ピット**　$P_1$は径30cmほどの円形で，深さ15cmである。性格は不明である。




第75図　第７号住居跡実測図

**覆土**　3層からなる自然堆積である。

土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物微量

**遺物**　土師器片279点，石器1点，土製品9点が出土している。1の土師器坏，10の砥石が東コーナー付近覆土下層から，2の土師器椀が竈内覆土下層から，3の土師器壺が東コーナー付近覆土上層から，4の土師器壺が北東部覆土上・下層及び竈内覆土下層から，5，6の土師器甕が中央部付近床面直上から，7の土師器甑が竈内覆土下層から，8の土師器甑が竈付近及び竈内覆土下層から，9の土製支脚が竈内からそれぞれ出土している。

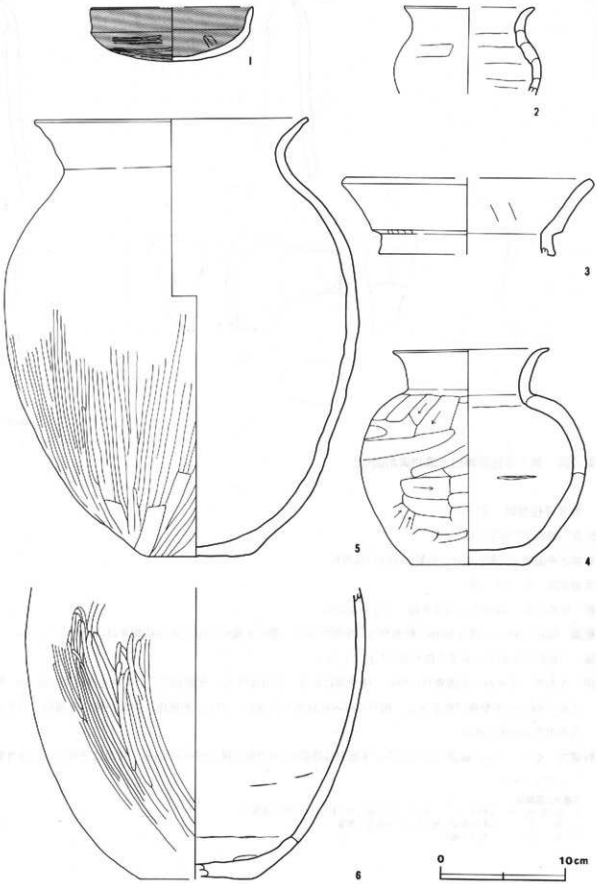
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代の後期と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

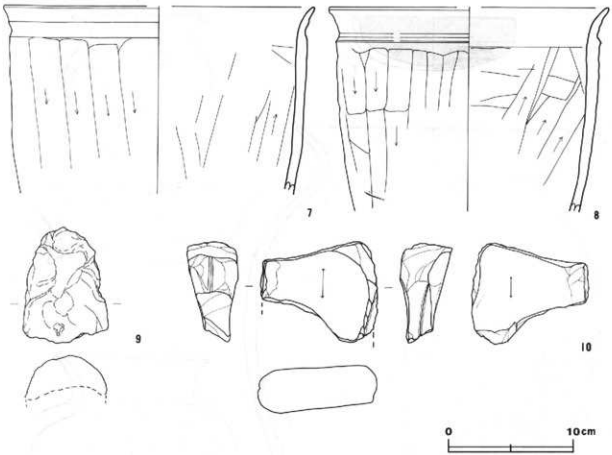
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第76図 1 | 坏 土師器 | A 13.0<br>B 4.4 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，黒褐色<br>普通 | P73<br>70%，東コーナー付近覆土下層 |
| 2 | 椀 土師器 | A[10.4]<br>B(7.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス<br>純い赤褐色<br>普通 | P74<br>30%，竈内覆土下層，二次焼成 |
| 3 | 壺 土師器 | A[19.8]<br>B(5.2) | 頸部から口縁部にかけての破片。頸部は垂直に立ち上がり，口縁部は外反して開く複合口縁。 | 頸部外面横ナデ。口縁部内・外面剥離著しく調整不明。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，橙色<br>普通 | P76<br>10%，東コーナー付近覆土上層 |
| 4 | 壺 土師器 | A 12.6<br>B 17.3<br>C 9.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面輪積み痕。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，浅黄橙色<br>普通 | P75<br>80%，北東部上下層，竈内覆土下層 |
| 5 | 甕 土師器 | A 22.0<br>B 35.4<br>C 8.8 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，純い黄色<br>普通 | P79<br>70%，中央部付近床面直上 |
| 6 | 甕 土師器 | B(23.6)<br>C[9.0] | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，純い橙色<br>普通 | P80<br>20%，中央部付近床面直上 |
| 第77図 7 | 甑 土師器 | A[25.0]<br>B(15.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は直立気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，茨褐色<br>普通 | P77<br>10%<br>竈内覆土下層 |
| 8 | 甑 土師器 | A[22.4]<br>B(16.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は直立気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い褐色<br>普通 | P78<br>10%，竈付近・竈内覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | |
| 9 | 支脚 | (9.4) | (7.0) | (4.7) | (189) | 竈内 | DP5 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 10 | 砥石 | (8.1) | (9.5) | (3.8) | (299) | 凝灰岩 | 覆土下層 | Q4 |




第76図　第７号住居跡出土遺物実測図(1)




**第77図　第７号住居跡出土遺物実測図(2)**

**第８号住居跡**（第78図）

**位置**　調査１区南部，G６a7区。

**規模と平面形**　長軸7.82m，短軸6.30mの長方形。

**主軸方向**　N－40°－W

**壁**　壁高は25～35cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅15～20cm，深さ５cm。断面形はU字形である。壁の下端から10～45cm内側をほぼ全周している。

**床**　全体的に平担で，あまり踏み固められていない。

**炉**　３か所。中央から北西寄りに炉１，中央部に炉２，炉３がある。平面形は，いずれも長径45～60cm，短径35～40cmの不整楕円形を呈し，掘りくぼみはほとんどない。炉１が赤褐色，炉２が鈍い赤褐色，炉３が暗赤褐色の炉床である。

**貯蔵穴**　東コーナーに確認されている。平面形は径65cmの円形，深さ37cmである。底面は平担で，壁は外傾して立ち上がる。

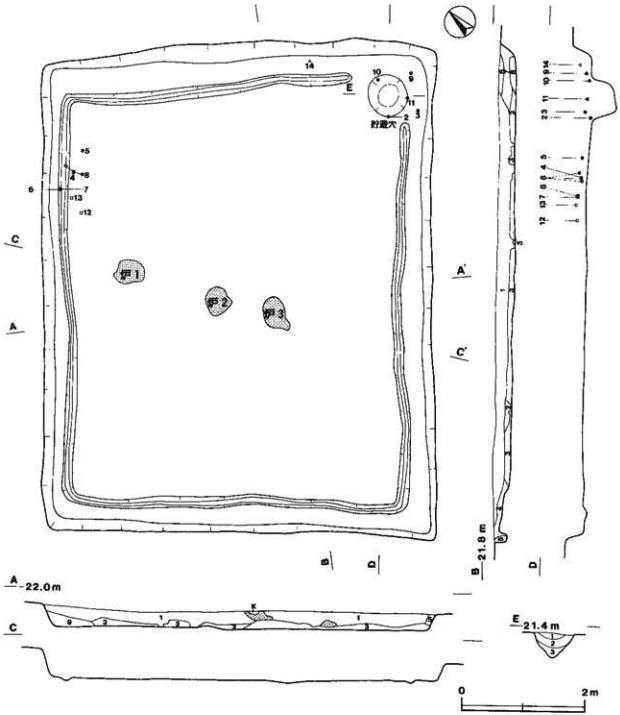
**貯蔵穴土層解説**

1　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子中量

**覆土**　9層からなる人為堆積である。

**土層解説**

1　極暗褐色　ローム粒子少量，ローム小中ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
3　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム中大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　極暗赤褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量，焼土粒子・焼土小ブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子・焼土粒子多量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
7　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小大ブロック・炭化粒子・焼土粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・炭化物・焼土小大ブロック少量，焼土粒子中量，炭化粒子微量
9　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化物微量，ローム大ブロック少量




**第78図　第8号住居跡実測図**

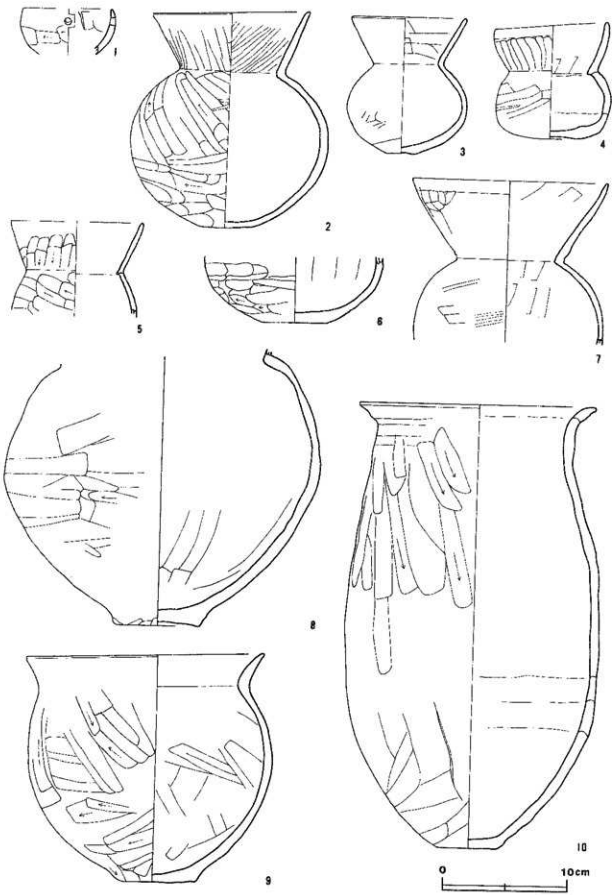
**遺物**　土師器片691点，鉄製品１点，石器２点及び混入した縄文土器片４点が出土している。遺物は東コーナーと北コーナー付近に集中している。１の土師器坏が１・２区間土層ベルト覆土中から，２～７の土師器坩，８～10の土師器甕が北コーナー付近覆土下層から，11の土師器甑が東コーナー覆土下層から，12，13の磨石が北コーナー付近覆土下層から，14の鉄製鎌が北東壁際から，それぞれ出土している。

11の土師器甑は，口縁部を北東に向け，やや底部を下向きにして，横位で出土している。11の土師器甑を中心に，２の土師器坩は口縁部を東に向け，３の土師器坩は口縁部を北に向け，10の土師器甕は口縁部を南に向け，９の土師器甕は口縁部を西に向け，それぞれ横位で，口縁部を甑に向けた状態で出土している。２，３，９，11は和泉式期の初期の土師器である。11の土師器甑は，韓式系模倣の土器であると思われ，底部には12の孔が穿たれている。10は長胴の甕で，和泉式期には出土例がない土器である。これらの土師器類には時期差があるが，出土地点には土坑等の重複は見られず，土器の下から貯蔵穴が検出されているのみである。また，10の甕と11の甑の体部には２次焼成を受けた跡が見られる。従って，これらの土師器類は同時期に使用されたものと考えるのが妥当ではないかと思われる。

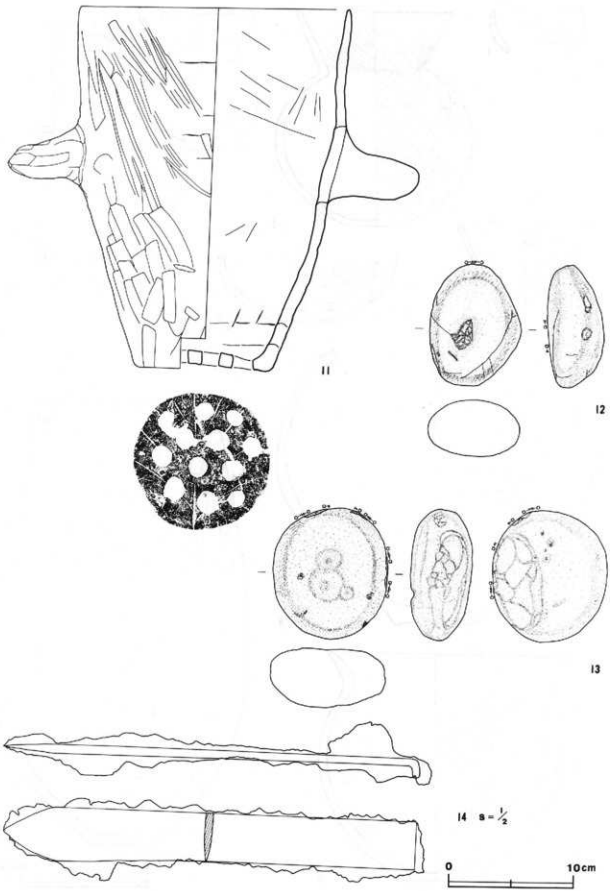
**所見**　本跡は，出土遺物から祭祀的要素をもった住居跡とも考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

第８号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第79図 1 | 坏 土師器 | A( 7.2) B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部に補修孔。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母 鈍い橙色 普通 | P81 20% 覆土中 |
| 2 | 坩 土師器 | A 12.7 B 17.7 C 4.0 | 平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ヘラナデ。口縁部内面ヘラ磨き。体部外面斜位のヘラ削り後横位のヘラ磨き。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通 | P83 98% 東コーナー覆土下層 |
| 3 | 坩 土師器 | A 9.4 B 11.0 C 2.4 | やや上げ底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面横ナデ。口縁部内面ヘラナデ。体部外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・スコリア，雲母 橙色 普通 | P84 100%，東コーナー覆土下層 |
| 4 | 坩 土師器 | A 9.2 B 9.5 C 3.7 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内彎気味に立ち上がる。 | 口縁部内・外面上位横ナデ。口縁部外面下位ヘラナデ，内面下位ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P85 95%，北コーナー付近覆土下層 |
| 5 | 坩 土師器 | A(10.6) B( 7.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ヘラ削り。口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア 鈍い黄橙色 普通 | P87 60%，北コーナー付近覆土下層 |
| 6 | 坩 上師器 | B( 5.3) C 5.3 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア 鈍い橙色 普通 | P88 30%，北コーナー付近覆土下層 |
| 7 | 坩 土師器 | A 15.8 B(13.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部上位外面横ナデ。口縁部内・外面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，浅黄橙色 普通 | P96 60%，北コーナー付近覆土下層 |
| 8 | 甕 土師器 | B(22.5) C 6.8 | 底部から体部にかけての破片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，焦褐色 普通 | P91 50%，北コーナー付近覆土下層 |
| 9 | 甕 上師器 | A 19.2 B 18.6 C 6.4 | 突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い黄橙色 普通 | P90，90%，体部外面煤付着，東コーナー覆土下層 |
| 10 | 甕 土師器 | A 19.0 B 35.9 C 5.0 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P89，95%，体部外面煤付着，東コーナー覆土下層 |




第79図　第８号住居跡出土遺物実測図(1)




第80図　第８号住居跡出土遺物実測図(2)

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第80図 11 | 甕 土師器 | A 21.8<br>B 29.5<br>C 11.0 | 底部は12孔式。体部はわずかに外傾して直線的に立ち上がり，口縁部に至る。体部中位に肥手がつく。 | 口縁端部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い橙色<br>普通 | P94，95X，底部木葉痕，東コーナー覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 12 | 磨石 | 9.9 | 7.5 | 4.6 | 443 | 安山岩 | 覆土下層 | Q6 |
| 13 | 磨石 | 10.5 | 9.3 | 5.0 | 632 | 安山岩 | 覆土下層 | Q5 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 14 | 鎌 | (22.7) | 3.0 | 0.55 | (130) | 鉄 | 北東壁際 | M1 |

### 第9号住居跡（第82図）

**位置** 調査1区中央部，F6ie区。

**規模と平面形** 長軸(6.62)m，短軸(4.10)mの長方形。

**主軸方向** N－54°－W

**壁** 壁高は20～30cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

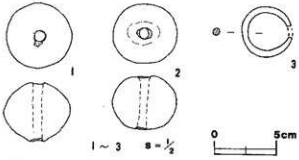
**床** 全体的に平担である。住居跡の半分近くが攪乱のため，硬化面の確認はできない。

**炉** 中央部にある。長軸40cm，短軸20cmの不定形である。炉床は暗赤褐色で掘りくぼみはほとんどない。

**ピット** 径30cmほどの円形，深さ28cmである。性格は不明である。

**覆土** 5層からなる人為堆積である。

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小大ブロック・炭化物少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 極暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量，炭化物微量
4 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小大ブロック少量



第81図 第9号住居跡出土遺物実測図

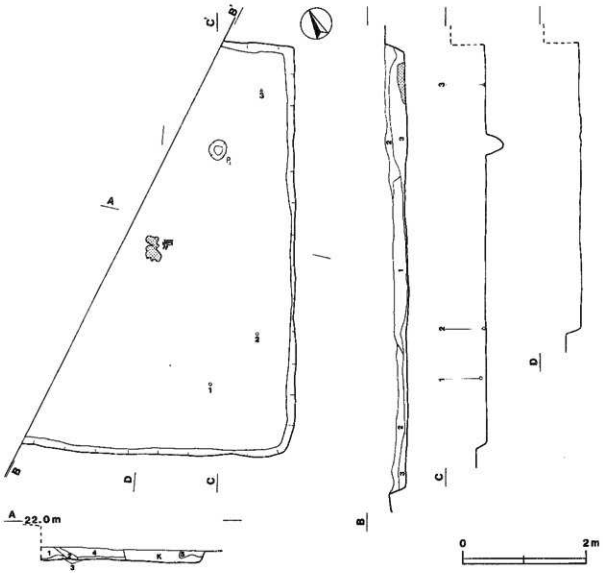
**遺物** 土師器片163点，土製品2点，青銅製品1点，鉄滓4点が出土している。住居跡の半分近くが調査区域外にあり，かつ住居跡の半分が攪乱を受けている。そのため，遺物は破片が多く，復元できる遺物はほとんどない。1，2の土玉が南コーナー付近覆土下層から，3の青銅製環が東コーナー床面直上からそれぞれ出土している。

**所見** 時期を決定する遺物がほとんどなく，断定しにくいが，住居跡の形態や出土遺物及び他の遺構の関係から古墳時代と考えられる。

第9号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | |
| 第81図 1 | 土玉 | 3.6 | 3.5 | 3.2 | 0.6 | 33 | 南コーナー付近覆土下層 | DP6 |
| 2 | 土玉 | 3.5 | 3.1 | 2.8 | 0.7 | 31 | 南コーナー付近覆土下層 | DP7 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第81図3 | 鏃 | 2.7 | 2.7 | 0.4 | (2.82) | 青銅 | 東コーナー床面直上 | M2 |




**第82図　第9号住居跡実測図**

**第10号住居跡**（第83・84図）

**位置**　調査1区中央部，F6ｎ区。

**規模と平面形**　一辺が6.92mの方形。

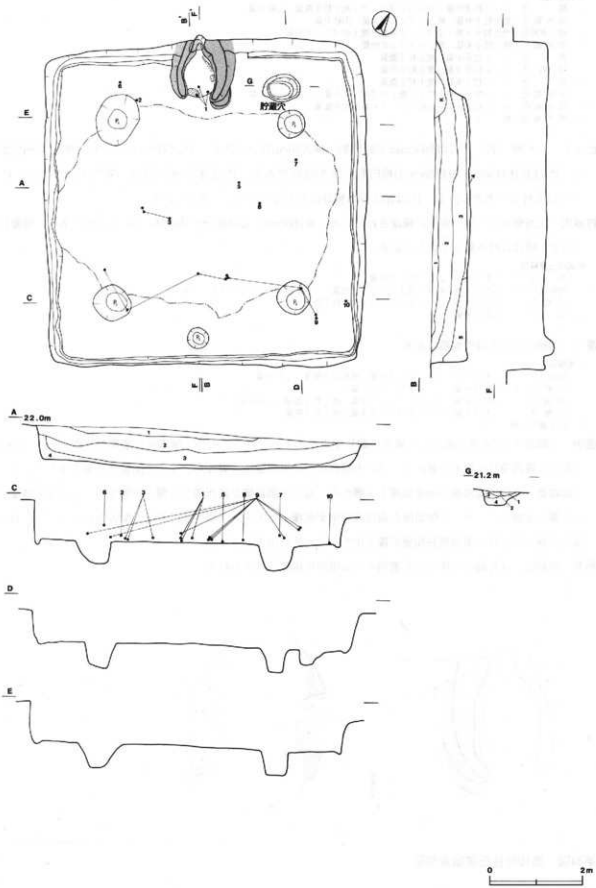
**主軸方向**　N－28°－W

**壁**　壁高は60～83cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

**壁溝**　幅は10～15cm，深さ5～10cm。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平担で，中央部が踏み固められている。

**竈**　北西壁中央部を壁外へ15cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ135cm，幅130cmである。袖部は砂と小石まじりの粘土で構築されている。




**第83図　第10号住居跡実測図**

竈土層解説
1　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子微量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，山砂少量
3　黄い赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック中量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
5　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
6　暗　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子中量
7　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
8　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック少量，小石・山砂少量
9　暗赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子微量
10　暗赤褐色　焼　　土

**ピット**　5か所。$P_1$，$P_2$は径60cmほどの円形，深さ55cmほどである。$P_3$は径80cmの円形，深さ52cmである。$P_4$は長径115cm，短径85cmの楕円形，深さ52cmである。$P_5$は径45cmの円形，深さ24cmである。$P_1$～$P_4$は主柱穴と考えられる。$P_5$は出入り口施設にともなうピットと考えられる。

**貯蔵穴**　北西壁北コーナー寄りに確認されている。長径80cm，短径60cmの楕円形，深さ33cmである。底面は平坦で，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

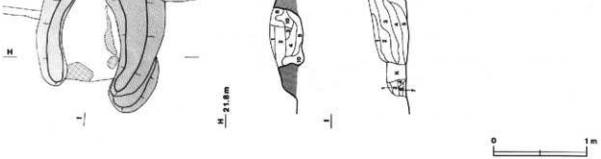
貯蔵穴土層解説
1　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量
2　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土小ブロック中量，ローム小ブロック・炭化粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
4　褐　　色　ローム粒子多量

**覆土**　5層からなる自然堆積である。

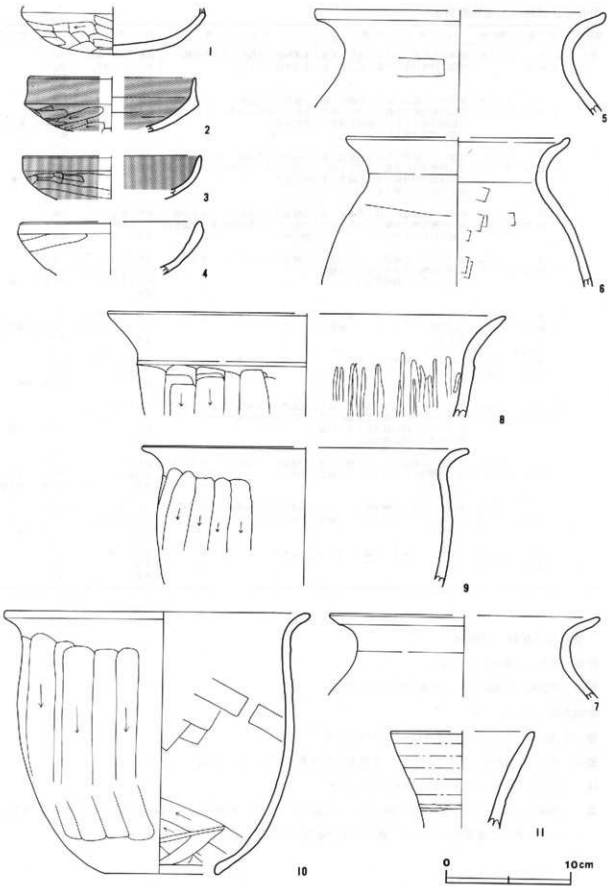
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，小石少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量，小石少量
4　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
5　暗赤褐色　焼　　土

**遺物**　土師器片327点及び混入した縄文土器片1点が出土している。1の土師器坏が竈覆土下層から，2の土師器坏が竈西隣付近覆土中層から，3の土師器坏が中央部覆土下層から，4の土師器坏が覆土中から，5の土師器甕，8の土師器甑が中央部覆土下層から，6の土師器甕が竈西隣付近覆土中層から，7の土師器甕が北部覆土中層から，9の土師器甑が南部及び南東部覆土上・中・下層から，10の土師器甑が東コーナー付近覆土下層から，11の須恵器長頸壺が覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第84図　第10号住居跡竈実測図**




第85図　第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第85図 1 | 坏 土師器 | B(3.8) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部外面ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，橙色 普通 | P85 35% 竈埋土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.4] B(4.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・スコリア 明黄褐色 普通 | P96 30% 竈西隣付近覆土中層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[14.2] B(3.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に弱い稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒 黒色 普通 | P97 10% 中央部覆土下層 |
| 4 | 坏 土師器 | A(14.4) B(4.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面磨滅著しく調整詳細不明。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤褐色 普通 | P98 10% 覆土中 |
| 5 | 甕 土師器 | A[23.4] B(8.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，内面淡い黄橙色 外面浅黄橙色 普通 | P105 5% 中央部覆土下層 |
| 6 | 甕 土師器 | A[18.0] B(12.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，黄褐色 普通 | P104 5% 竈西隣付近覆土中層 |
| 7 | 甕 土師器 | A[21.6] B(6.6) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P106 10% 北部覆土中層 |
| 8 | 鉢 土師器 | A[32.3] B(8.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部はわずかに外傾して直線的に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア 橙色 普通 | P107 5% 中央部覆土下層 |
| 9 | 鉢 土師器 | A[26.0] B(11.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア 明赤褐色 普通 | P109 20%，南部及び南東部覆土上中下層 |
| 10 | 鉢 土師器 | A 24.2 B 21.2 C 9.0 | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，中位からほぼ直立する。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・スコリア，黄褐色 普通 | P108 90%，東コーナー付近覆土下層 |
| 11 | 鉢 須恵器 | A 11.4 B(7.8) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・パミス 黄灰色 普通 | P110 10% 覆土中 |

**第11号住居跡**（第86図）

**位置**　調査1区南部，G 6 g₃区。

**規模と平面形**　長軸6.47m，短軸5.97mの方形。

**主軸方向**　N－24°－W

**壁**　壁高は50～74cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅は15～20cm，深さ2～5cm。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平担で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北西壁中央部を壁外へ20cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ160cm，幅140cmである。袖部は砂まじりの粘土で構築されている。竈内に灰を確認している。

竈土層解説
1 褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量，山砂中量
2 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
3 褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック微量，焼土粒子少量，山砂多量
4 褐　色　ローム粒子多量，山砂少量
5 鮮い赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量，山砂多量
6 赤 褐 色　焼土粒子・焼土小中ブロック多量，焼土大ブロック少量，山砂少量
7 灰 白 色　灰
8 褐　色　焼土粒子・焼土小ブロック微量，山砂少量
9 暗赤褐色　ローム小ブロック・焼土小ブロック微量，焼土粒子中量，山砂中量
10 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
11 鮮い赤褐色　焼土粒子中量，焼土小中ブロック少量
12 暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック少量，山砂少量

**ピット**　5か所。$P_1$～$P_4$は径30～40cmほどの円形，深さ46～76cmほどである。主柱穴と考えられる。$P_5$は長径35cm，短径25cmの楕円形，深さ21cmである。出入り口施設にともなうピットと考えられる。

**貯蔵穴**　北西壁北コーナー寄りに確認されている。長径80cm，短径60cmの楕円形，深さ38cmである。底面は平坦で，壁はほぼ外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
2 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
3 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量

**覆土**　6層からなる自然堆積である。

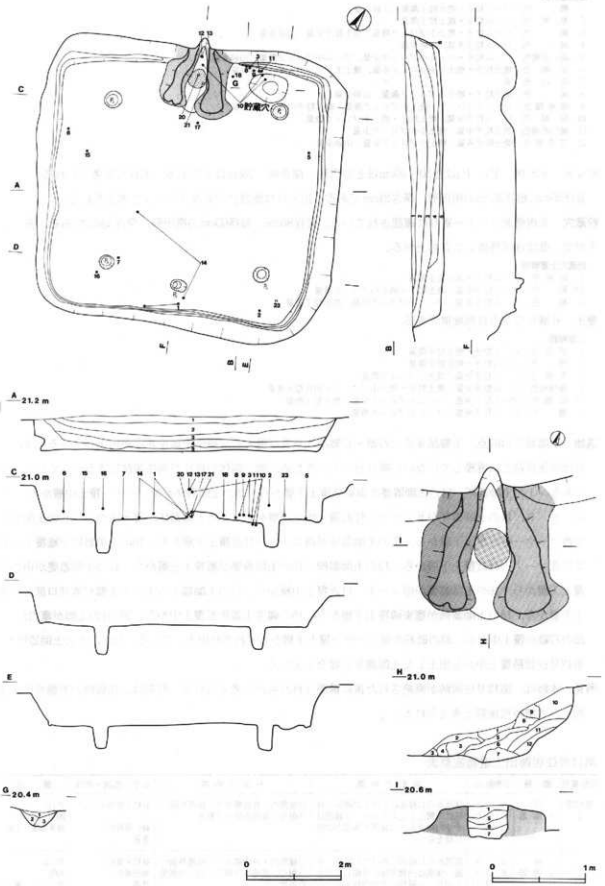
土層解説
1 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒　色　ローム粒子・焼土粒子微量
3 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
4 極暗褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5 暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6 褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片1467点，土製品8点，石器・石製品3点及び混入した縄文土器片8点が出土している。本跡と第12号住居跡とは重複していないが隣り合っているため，同一個体の破片が両住居跡にまたがっていることもある。1の土師器坏，14の土師器甕が南東部覆土下層から，2の土師器坏が東コーナー覆土中層から，3，5，8，9，11の土師器坏が北コーナー付近覆土中・下層から，4の土師器坏が覆土中から，6の土師器坏が西コーナー付近覆土下層から，7の土師器坏が南コーナー付近覆土下層から，10の土師器坏が竈覆土上層及び北コーナー付近覆土下層から，12の土師器椀，13の土師器甕が竈覆土上層から，15の土師器甕が南西部覆土下層から，16の土師器甕が南コーナー付近覆土中層から，17の土師器ミニチュア土器が竈焚口部付近覆土下層から，18の土師器甑が竈東隣覆土下層から，19の縄文土器片が覆土中から，20，21の支脚が竈内から，22の石鏃が覆土中から，23の砥石が東コーナー覆土下層からそれぞれ出土している。なお，4の土師器坏が，第12号住居跡覆土中から出土した土師器片と接合している。

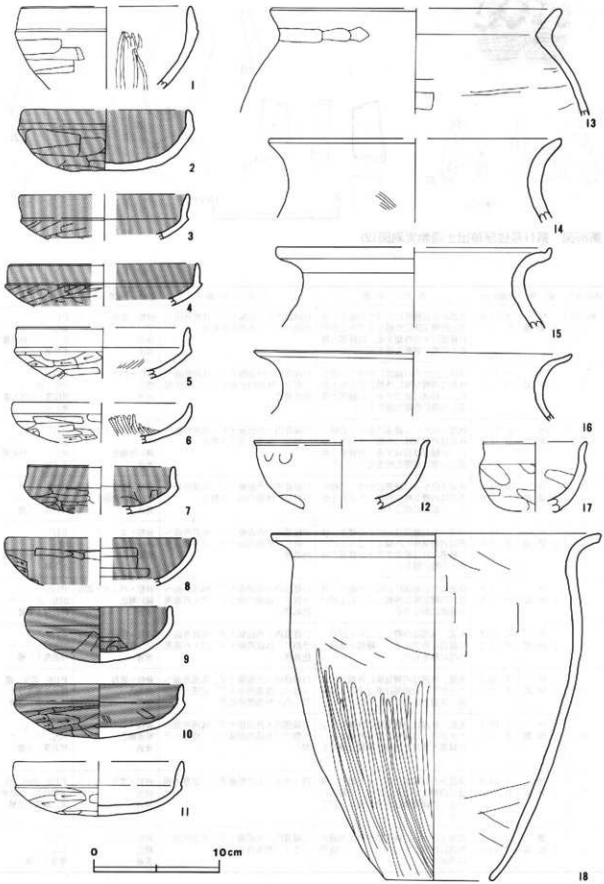
**所見**　本跡は，第12号住居跡が廃絶された後に構築されたものと考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

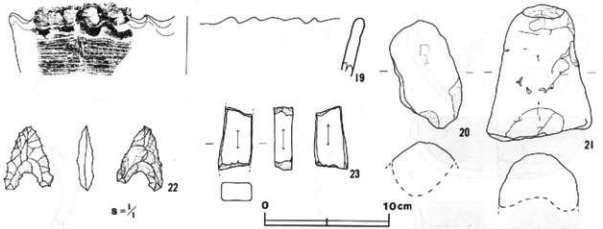
| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第87図 1 | 坏 土師器 | A[13.3] B( 5.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>鮮い黄褐色<br>普通 | P111<br>20%<br>南東部覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[13.3] B 5.0 C( 3.7) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや内傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>明赤褐色<br>普通 | P112<br>40%<br>東コーナー覆土中層 |




第86図　第11号住居跡実測図




第87図　第11号住居跡出土遺物実測図(1)




**第88図　第11号住居跡出土遺物実測図(2)**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第87図 3 | 坏 土師器 | A[13.6] B( 3.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>橙色<br>普通 | P113<br>20%<br>北コーナー付近覆土中層 |
| 4 | 坏 土師器 | A[15.2] B( 3.4) | 体部上位から口縁部にかけて破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P114<br>10%，覆土中<br>SI12覆土中出土遺物と接合 |
| 5 | 坏 土師器 | A[13.8] B( 4.1) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>純い赤褐色<br>普通 | P115<br>20%<br>北コーナー付近覆土下層 |
| 6 | 坏 土師器 | A[14.2] B( 3.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がる。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い黄褐色<br>普通 | P116<br>20%，西コーナー付近覆土下層 |
| 7 | 坏 土師器 | A[11.8] B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり口縁部はほぼ直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・スコリア<br>純い橙色<br>普通 | P117<br>10%<br>南コーナー付近覆土下層 |
| 8 | 坏 土師器 | A[14.8] B( 3.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・パミス・雲母<br>純い褐色<br>普通 | P118<br>20%，北コーナー付近覆土下層 |
| 9 | 坏 土師器 | A 11.4 B 4.5 | 丸底。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い黄橙色<br>普通 | P119<br>85%，北コーナー付近覆土下層 |
| 10 | 坏 土師器 | A 13.4 B 4.4 | 丸底。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>黒褐色<br>普通 | P120，80%，竈覆土上層及び北コーナー覆土下層 |
| 11 | 坏 土師器 | A[13.4] B 4.4 | 丸底。体部は内弯気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・パミス<br>明赤褐色<br>普通 | P121<br>70%，北コーナー付近覆土下層 |
| 12 | 椀 土師器 | A[24.0] B( 5.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部はややつまみ上げている。 | 内・外面ともに磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス<br>橙色<br>普通 | P122，10%，内面煤付着，二次焼成，竈覆土上層 |
| 13 | 甕 土師器 | A[23.2] B( 8.5) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内弯して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。頸部外面ナデ。 | 砂粒・パミス<br>橙色<br>普通 | P123<br>15%<br>竈覆土上層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第87図 14 | 壺 土師器 | A[23.4] B(6.8) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・石英・雲母 浅黄橙色 普通 | P124 10% 南東部覆土下層 |
| 15 | 壺 土師器 | A[22.0] B(6.5) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母 赤色 普通 | P125 10% 南西部覆土下層 |
| 16 | 壺 土師器 | A[25.6] B(5.1) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・石英 明黄褐色 普通 | P126 5%，南コーナー付近覆土中層 |
| 17 | ミニチュア壺 土師器 | A[8.4] B(5.6) | 底部欠損。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に弱い段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。 | 砂粒・パミス 橙色 普通 | P127 80%，竪穴口部付近覆土下層 |
| 18 | 甕 土師器 | A 26.4 B 28.1 C 8.6 | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位ヘラナデ。中位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・石英・スコリア・雲母，黒い橙色，普通 | P128 90%，竪東隅覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形及び文様の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第88図 19 | 深鉢 縄文土器 | B[28.2] C(4.7) | 口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。口唇部に指頭押圧文を施し，口縁直下に条痕文が横位に施してある。 | 砂粒・パミス 橙色 普通 | P129 5% 覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 支脚 | (8.87) | (1.3) | (4.3) | (123) | 竈内 | DP8 |
| 21 | 支脚 | 11.1 | 2.8 | (4.0) | (313) | 竈内 | DP9 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 22 | 石錘 | 1.8 | 1.3 | 0.5 | 0.53 | 黒曜石 | 覆土中 | Q38 |
| 23 | 砥石 | (5.1) | (2.8) | (1.5) | (36) | 凝灰岩 | 覆土下層 | Q39 |

### 第12号住居跡（第89図）

**位置**　調査1区南部，G6es区。

**規模と平面形**　長軸8.00m，短軸6.84mの長方形。

**主軸方向**　N－55°－E

**壁**　壁高は25～46cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

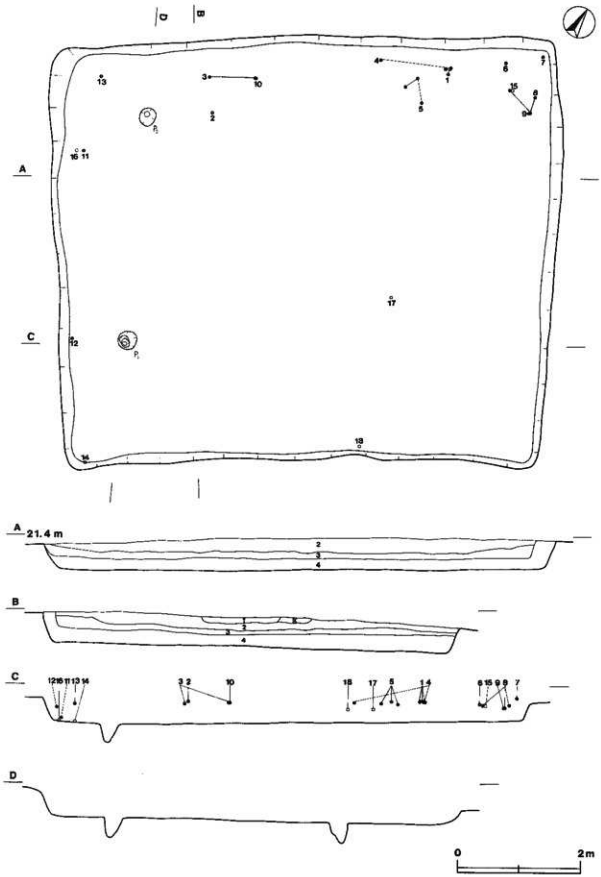
**床**　全体的に平担で，あまり踏み固められていない。

**ピット**　2か所。$P_1$，$P_2$は径30cmほどの円形，深さ30cmほどである。性格は不明である。

**覆土**　4層からなる人為堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量

**遺物**　土師器片845点，土製品6点，石器・石製品6点及び混入した縄文土器片4点が出土している。1の土師器坏，2，3，10の土師器椀が西コーナー付近覆土上層から，4～9の土師器高坏が北コーナー付近覆土上層から，11の土師器甕が西コーナー付近覆土下層から，12の土師器甕が南コーナー付近覆土上層から，13の土師器甕が西コーナー覆土上層から，14の土玉が南コーナー覆土下層から，15の土玉が北コーナー覆土上




第89図　第12号住居跡実測図

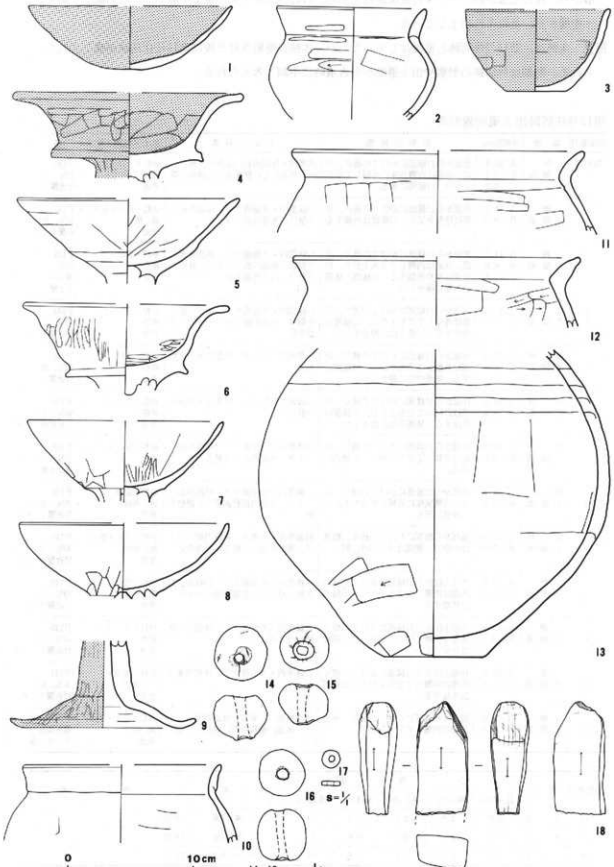
層から，16の土玉が西コーナー付近床面直上から，17の臼玉が中央部覆土中層から，18の砥石が南東壁際覆土中層から，それぞれ出土している。

**所見**　本跡は，第11号住居跡と重複はしていないが，本跡が廃絶された後に第11号住居跡が構築されたと考えられる。時期は住居跡の形態や出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第90図 1 | 坏 土師器 | A 16.4 B 5.1 C 3.2 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面赤彩。底部ヘラ削り。内・外面ともに磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P130 30%，北コーナー付近覆土上層 |
| 2 | 椀 土師器 | A 11.9 B (9.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・石英 純い橙色 普通 | P132 50%，西コーナ付近覆土上層 |
| 3 | 椀 土師器 | A 11.5 B 6.6 C 4.8 | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外歪横ナデ。体部外面へラ削り。体部内面ヘラナデ。底部へラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・パミス 橙色 普通 | P131 50% 西コーナー付近覆土上層 |
| 4 | 高坏 土師器 | A 17.4 B (6.9) | 坏部から口縁部にかけての破片。坏部は外反して立ち上がり，口縁部は外反する。坏部下位に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り。坏部内面ヘラナデ。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母・パミス 赤色 普通 | P134 60%，北コーナー付近覆土上層 |
| 5 | 高坏 土師器 | A 17.8 B (6.8) | 坏部から口縁部にかけての破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。坏部中位に稜をもつ。 | 坏部外面ヘラナデ。坏部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・パミス 橙色 普通 | P135 60%，北コーナー付近覆土上層 |
| 6 | 高坏 土師器 | A 16.2 B (6.9) | 坏部から口縁部にかけての破片。坏部は外反して立ち上がり，口縁部は外反する。坏部下位に段をもつ。 | 口縁部は外反する。坏部内・外面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・パミス 黄橙色 普通 | P136 60%，北コーナー付近覆土上層 |
| 7 | 高坏 土師器 | A 15.6 B (6.5) | 坏部から口縁部にかけての破片。坏部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ。坏部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・パミス 橙色 普通 | P138 40%，北コーナー覆土上層 |
| 8 | 高坏 土師器 | A 16.8 B (6.8) | 坏部から口縁部にかけての破片。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ。坏部内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母 純い黄橙色 普通 | P139 10%，北コーナー付近覆土上層 |
| 9 | 高坏 土師器 | D 15.0 B (7.0) | 脚部から脚部にかけての破片。脚部は中空で，脚部はラッパ状に開く。 | 脚部外面へラ磨き。脚部内面へラナデ。脚部外面へラ磨き。外面赤彩。 | 砂粒・長石・雲母 純い橙色 普通 | P141 40%，北コーナー付近覆土上層 |
| 10 | 壺 土師器 | A 15.7 B (6.3) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部に粘土紐を巡らす。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P133 10%，西コーナー付近覆土上層 |
| 11 | 壺 土師器 | A 23.2 B (6.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラナデ。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P143 10%，西コーナー付近覆土上下層 |
| 12 | 壺 土師器 | A 22.8 B (5.5) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面へラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P144 5%，南コーナー付近覆土上層 |
| 13 | 壺 土師器 | B (34.6) C 4.4 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。体部に輪積み痕。底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母 純い橙色 普通 | P145，50%，体部外面煤付着，西コーナー覆土上層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 土玉 | 2.8 | 2.9 | 2.5 | 0.6 | 19 | 南コーナー覆土下層 | DP12 |
| 15 | 土玉 | 2.5 | 2.4 | 2.1 | 0.6 | 12 | 北コーナー覆土上層 | DP10 |
| 16 | 土玉 | 2.5 | 2.5 | 2.8 | 0.6 | 17 | 西コーナー付近床面直上 | DP11 |




第90図　第12号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 第90図17 | 臼玉 | 0.5 | 0.5 | 0.1 | 0.2 | 0.04 | 粘板岩 | 中央部覆土中層 | Q11 |
| 18 | 紡錘石 | (9.1) | (4.3) | (3.1) | − | (169) | 凝灰岩 | 南東壁際覆土中層 | Q10 |

### 第13号住居跡（第91図）

**位置**　調査1区中央部，F6$_{e3}$区。

**規模と平面形**　長軸5.32m，短軸5.10mの方形。

**主軸方向**　N−50°−W

**壁**　壁高は45～55cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅5～10cm，深さ5cmほどである。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平担で，中央部が踏み固められている。床面全体に炭化材と焼土が確認されている。

**炉**　2か所。炉1は中央から北西寄りに確認されている。平面形は長径55cm，短径40cmの楕円形を呈し，床面の掘りくぼみはない。炉2は炉1の南側に隣接して確認されている。長径85cm，短径45cmの楕円形を呈し，床面の掘りくぼみはない。

**ピット**　3か所（$P_1$～$P_3$）。$P_1$は径35cmの円形，深さ35cmである。$P_2$は長径35cm，短径25cmの楕円形，深さ37cmである。$P_3$は長径25cm，短径15cmの楕円形，深さ22cmである。性格は不明である。

**貯蔵穴**　東コーナーに付設されている。長径65cm，短径55cmの楕円形で，深さ60cmである。断面形はU字形をしている。

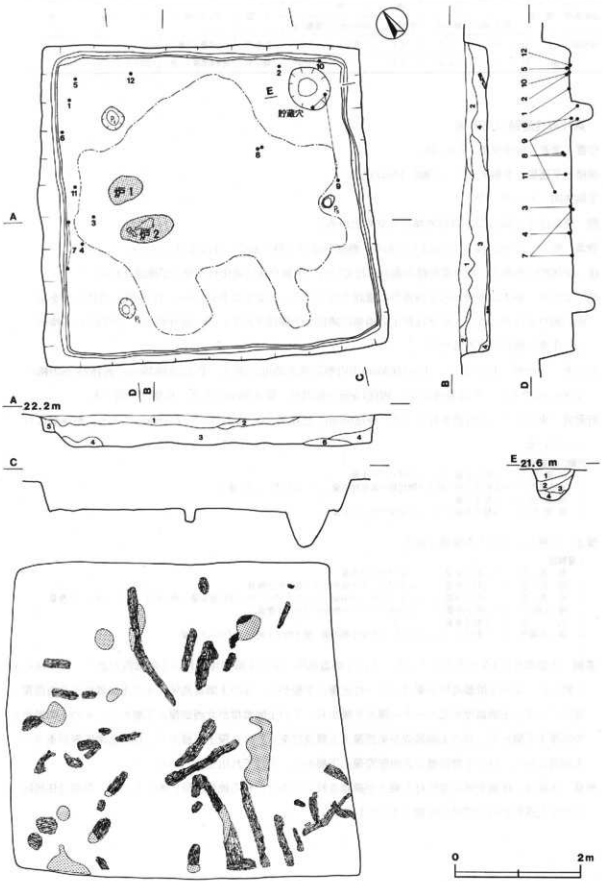
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物・炭化材中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子多量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量

**覆土**　6層からなる人為堆積である。

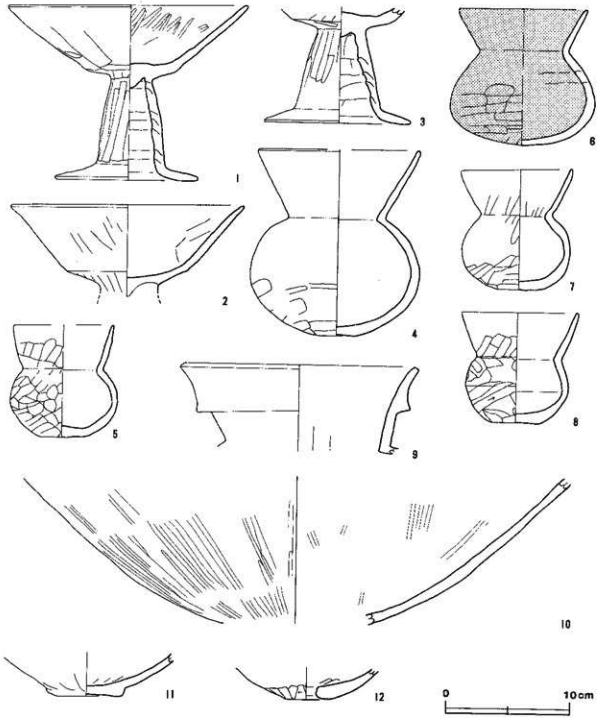
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
4　黒褐褐色　ローム粒子少量，ローム小中ブロック・焼土小ブロック微量
5　褐色　ローム粒子多量
6　鈍い赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物中量，焼土粒子・焼土小ブロック多量

**遺物**　土師器片514点が出土している。1の土師器高坏，6の土師器坩，12の土師器甕が北コーナー付近覆土下層から，2の土師器高坏が東コーナー付近覆土下層から，3の土師器高坏，4の土師器坩が北西部覆土下層から，5の土師器坩が北コーナー覆土下層から，7の土師器坩が北西部覆土下層から，8の土師器坩が中央部覆土下層から，9の土師器壺が東部覆土上層及び東コーナー覆土下層から，10の土師器壺が東コーナー床面直上から，11の土師器甕が北西壁際覆土下層から，それぞれ出土している。

**所見**　本跡は，床面全体に炭化材と焼土が確認されていることから焼失家屋と考えられる。時期は住居跡の形態や出土遺物から古墳時代中期と考えられる。




第91図　第13号住居跡・炭化材出土状況実測図




**第92図　第13号住居跡出土遺物実測図**

第13号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第92図<br>1 | 高坏<br>土師器 | A 19.1<br>B 14.2<br>D 11.5<br>E 8.2 | 脚部一部欠損。裾部はラッパ状に開く。脚部は中空で膨らみをもつ。坏部下位に稜をもち，坏部は外傾して立ち上がる。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ヘラ磨き。坏部外面ヘラナデ。坏部外面下位ヘラ削り。脚部外面ヘラナデ。脚部内面巻き上げ痕。裾部外面横ナデ。 | 砂粒・長石・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P150<br>80%<br>二次焼成，北コーナー付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第92図 2 | 高台土師器 | A 18.8<br>B(7.4) | 坏部片。坏部は外傾して立ち上がり口縁部はわずかに外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラナデ。坏部内面ナデ。 | 長石・雲母・パミス<br>純い黄褐色<br>普通 | P151<br>50%，東コーナー付近覆土下層 |
| 3 | 高台土師器 | B(9.4)<br>D(11.8)<br>E(7.5) | 脚部片。裾部はラッパ状に開く。脚部は中空で膨らみをもつ。 | 脚部外面ヘラナデ。脚部内面巻き上げ痕。裾部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色<br>普通 | P155<br>60%<br>北西部覆土下層 |
| 4 | 坩土師器 | A(13.0)<br>B 15.0<br>C 3.0 | 口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面胴部減衰して調整不明。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母<br>純い黄橙色<br>普通 | P157<br>70%<br>北西部覆土下層 |
| 5 | 坩土師器 | A(7.9)<br>B 9.0<br>C 3.8 | 口縁部欠損。平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラ削り。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>純い橙色<br>普通 | P160，65%，二次焼成，北コーナー覆土下層 |
| 6 | 坩土師器 | A 10.4<br>B 11.0 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面輪積み痕。底部ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，橙色<br>普通 | P156<br>95%，北コーナー付近覆土下層 |
| 7 | 坩土師器 | A 9.0<br>B 9.8<br>C 3.9 | 口縁部一部欠損。平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部上位内・外面横ナデ。下位ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・パミス<br>純い橙色<br>普通 | P158<br>95%，二次焼成<br>北西部覆土下層 |
| 8 | 坩土師器 | A 9.4<br>B 9.0<br>C 3.7 | 平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母，内面純い赤褐色・外面純い褐色，普通 | P159<br>80%，二次焼成<br>中央部覆土下層 |
| 9 | 壺土師器 | A 18.6<br>B(6.9) | 口縁部片。複合口縁で，外傾して立ち上がり，口縁部上位でさらに外反して開く。口縁部中位に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面下位ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・パミス<br>純い橙色<br>普通 | P161，25%<br>二次焼成・東コーナー覆土下層 |
| 10 | 壺土師器 | B(11.9) | 体部片。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部内・外面ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P162<br>5%，東コーナー床面直上 |
| 11 | 甕土師器 | B(3.6)<br>C 5.8 | 底部片。平底。突出した底部中央が凹む。 | 内・外面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>純い赤橙色<br>普通 | P164<br>10%，二次焼成<br>北西壁際覆土下層 |
| 12 | 甕土師器 | B(3.6)<br>C 5.8 | 底部片。単孔式。 | 外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母<br>橙色<br>普通 | P165，10%<br>北コーナー付近覆土下層 |

### 第14号住居跡（第93図）

**位置**　調査1区西部，G6$d_1$区。

**規模と平面形**　長軸3.98m，短軸3.10mの長方形。

**主軸方向**　N－47°－E

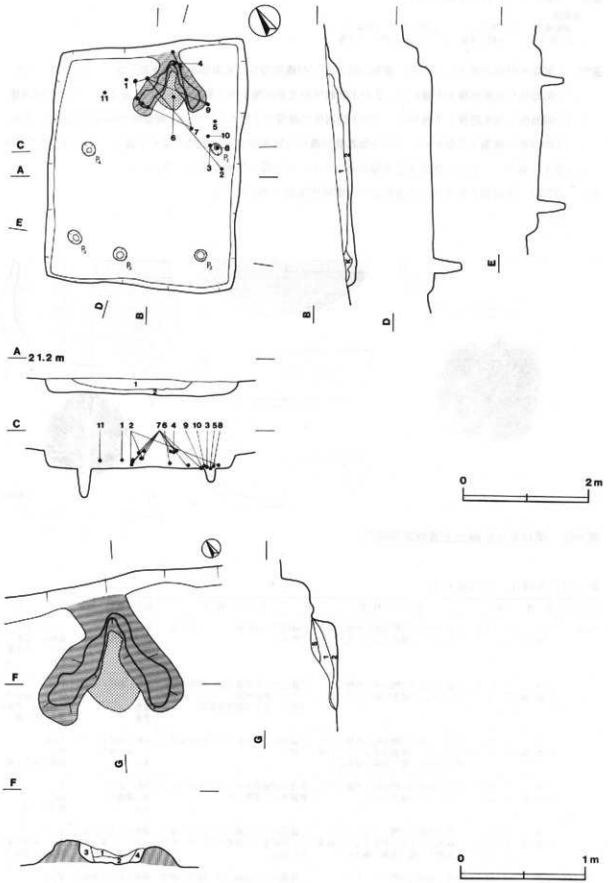
**壁**　壁高は10～50cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平担で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北東壁東コーナー寄りに付設されている。規模は長さ110cm，幅115cmである。袖部は砂まじりの粘土で構築されている。火床部は不定形で掘りくぼめられていない。

竈土層解説
1　暗赤褐色　ローム小ブロック・炭化物少量，焼土粒子中量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物微量
4　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，山砂少量
5　極暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子・焼土大ブロック・炭化粒子少量

**ピット**　5か所（$P_1$～$P_5$）。$P_1$は長径20cm，短径15cmの楕円形，深さ24cmである。$P_2$は径20cm円形，深さ38cmである。$P_3$は長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ48cmである。$P_4$は長径25cm，短径20cmの楕円形，深さは50cmである。$P_1$～$P_4$は位置から主柱穴と考えられる。$P_5$は径25cmの円形，深さは46cmである。出入り口の施設にともなうピットであると考えられる。



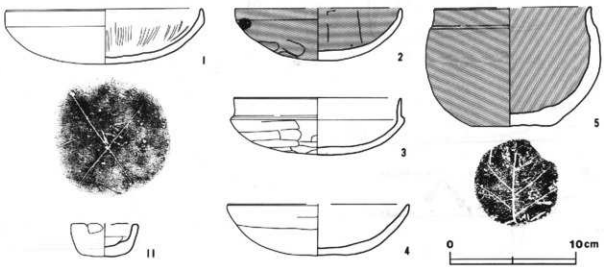

第93図　第14号住居跡実測図

**覆土**　2層からなる自然堆積である。

土層解説
1　褐紫色　ローム粒子・ローム小中大ブロック中量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量

**遺物**　土師器片61点が出土している。遺物のほとんどが竈周辺及び北東部から南東部にかけて出土している。1の土師器坏が北東部覆土中層から，2の土師器坏が北東部覆土中下層から，3の土師器坏，8の土師器甕，10の土師器甑が南東部覆土下層から，4の土師器坏が竈覆土上層から，5の土師器椀が南東部床面直上から，6の土師器甕が竈覆土下層から，7の土師器甕が竈付近床面直上及び竈周辺覆土下層から，9の土師器甕が北部覆土下層から，11の土師器手捏土器が北コーナー付近覆土下層からそれぞれ出土している。

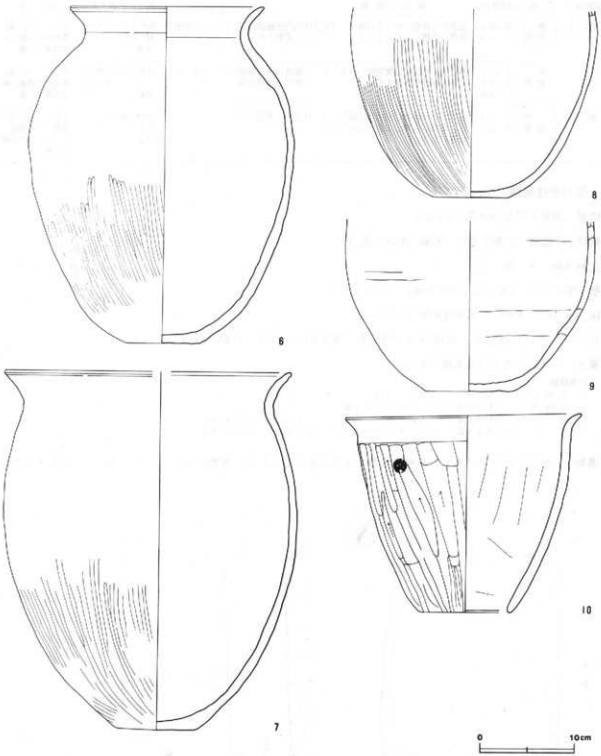
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第94図　第14号住居跡出土遺物実測図(1)**

第14号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第94図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 15.8<br>B 4.5 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラ磨き。 | 砂粒・スコリア<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P166，100%，内面剥離，底部ヘラ記号，北東部覆土中層 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A 13.4<br>B 4.2 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>橙色<br>普通 | P167<br>95%，口縁部下位に剥落痕，北東部覆土中・下層 |
| 3 | 坏<br>土師器 | A 13.5<br>B 4.7 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P168<br>95%<br>南東部覆土下層 |
| 4 | 坏<br>土師器 | A[14.6]<br>B 4.2 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部外面輪積み痕。内・外面ともに磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・パミス<br>鈍い黄橙色<br>普通 | P169<br>85%<br>竈覆土上層 |
| 5 | 椀<br>土師器 | A[12.5]<br>B 9.6<br>C 6.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面ともに磨滅著しく調整不明。内・外面黒色処理。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い黄橙色，普通 | P170<br>60%，底部木葉痕<br>南東部床面直上 |
| 第95図<br>6 | 甕<br>土師器 | A 20.7<br>B 36.4<br>C 7.9 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位より下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P171<br>90%<br>竈覆土下層 |




**第95図　第14号住居跡出土遺物実測図(2)**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第95図<br>7 | 甕<br>土師器 | A[30.4]<br>B 38.6<br>C[ 8.8] | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位より下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P172，50%，竈付近床面直上及び竈周辺覆土下層 |
| 8 | 甕<br>土師器 | B(20.4)<br>C 8.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面中位より下位にかけてヘラ磨き。内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P174，30%，体部外面煤付着，南東部覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第95図 9 | 甕 土師器 | B (18.3) C 9.3 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内面輪積み痕。内・外面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・長石・雲母 鈍い橙色 普通 | P173, 40%, 体部外面煤付着, 北東部覆土下層 |
| 10 | 鉢 土師器 | A 25.2 B 21.5 C 9.6 | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P175, 95%, 体部外面煤状痕跡, 南東部覆土下層 |
| 第94図 11 | 手捏 土師器 | A 5.4 B 2.7 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。 | 体部内・外面ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス 橙色 普通 | P176, 55%, 口縁部外面指頭痕 北コーナー付近覆土下層 |

### 第15号住居跡（第96図）

**位置**　調査1区北中央部，E6ns区。

**規模と平面形**　長軸3.42m，短軸2.81mの長方形。

**主軸方向**　N－36°－E

**壁**　壁高は20～40cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

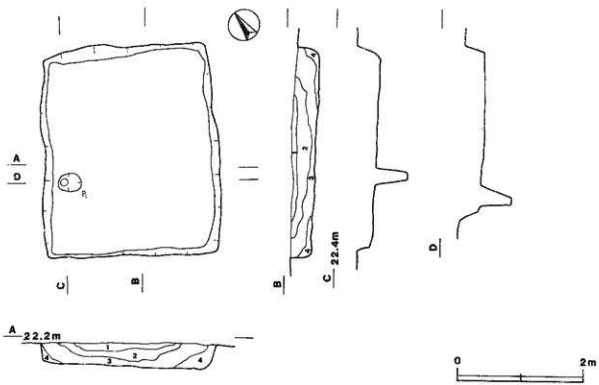
**床**　全体的に平坦で，床全体が硬化している。

**ピット**　$P_1$は長径40cm，短径30cmの楕円形，深さ52cmである。性格は不明である。

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化材微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

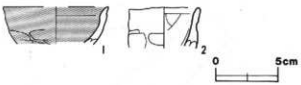
**遺物**　土師器片61点及び混入した縄文土器片1点が出土している。遺物が少なく，そのほとんどが小破片で，




第96図　第15号住居跡実測図

復元不可能である。1の土師器椀，2の土師器ミニチュア土器が覆土中から出土している。

**所見**　本跡の時期を決定する遺物が少ない。また本跡は第18号住居跡に隣接しているので，何らかの関係が考えられる。本跡の性格は，床面が全面硬化し，ピットもあることから，生活の場として何らかの利用があったものと考えられるので，住居として利用されていたと思われる。時期は，住居跡の形態や出土遺物，第18号住居跡との関係から古墳時代後期と考えられる。




**第97図　第15号住居跡出土遺物実測図**

第15号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第97図 1 | 椀 土師器 | A[ 8.6] B( 3.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・パミス 黒褐色 普通 | P177 5% 覆土中 |
| 2 | ミニチュア土師器 | A 5.6 B( 3.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒 黒褐色 普通 | P178 30% 覆土中 |

## 第16号住居跡（第98図）

**位置**　調査1区中央部，E6ji区。

**重複関係**　本跡は第3号溝によって掘り込まれていることから，第3号溝より古い。

**規模と平面形**　現存する床面から，長軸[4.74]m，短軸[4.42]mの方形。

**主軸方向**　N－25°－E

**壁**　壁高は25～33cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**炉**　攪乱のため，平面形と土層が確認できない。中央部の焼土が炉の攪乱されたものと思われる。

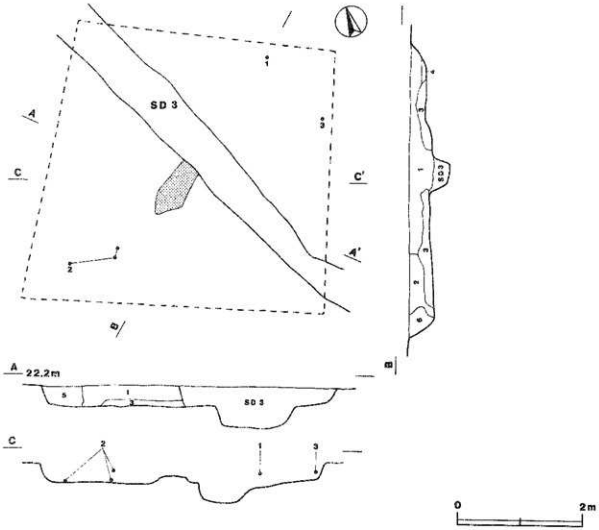
**床**　住居跡全体が攪乱を受けているため，硬化面が確認できない。

**覆土**　6層からなる人為堆積である。

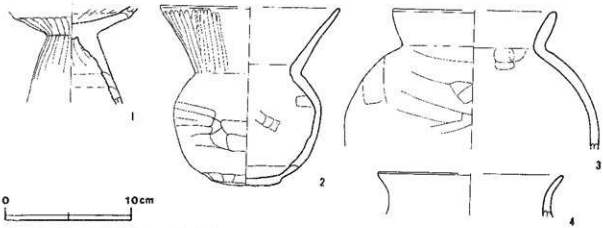
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック多量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土小中ブロック中量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック少量
6　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

**遺物**　土師器片255点及び混入した縄文土器片2点が出土している。遺物のほとんどが破片で復元・実測が不可能である。1の土師器高坏が北東壁際覆土上層から，2の土師器坩が西コーナー付近覆土上・下層から，3の土師器壺が東コーナー付近覆土上層から，4の土師器甕が北部覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代中期と考えられる。




第98図　第16号住居跡実測図




第99図　第16号住居跡出土遺物実測図

第16号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第99図 1 | 高坏 土師器 | B(7.9) E(5.5) | 脚部から坏部下位にかけての破片。脚部は膨らみをもち，坏部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 | 坏部外面ヘラ削り。坏部内面ヘラナデ。脚部外面ヘラ磨き。脚部内面巻き上げ痕。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，黄褐色 普通 | P179 50%，北東隅覆土上層 |
| 2 | 坩 土師器 | A[14.4] B 14.4 C 5.6 | 底部から口縁部にかけての破片。突出した平底。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ヘラ磨き。口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・パミス，黄褐色 普通 | P180 40%，南コーナー付近覆土上・下層 |
| 3 | 壺 土師器 | A[13.0] B(11.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面下位ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・長石 黄褐色 普通 | P181 25%，東コーナー付近覆土上層 |
| 4 | 甕 土師器 | A[14.8] B(3.4) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス 黄褐色 普通 | P182 5% 北部覆土中 |

**第17号住居跡**（第100図）

**位置**　調査1区中央部，E6$_{h2}$区。

**重複関係**　本跡は第3号溝によって掘り込まれていることから，第3号溝より古い。

**規模と平面形**　長軸7.77m，短軸7.51mの方形。

**主軸方向**　N－12°－E

**壁**　壁高は25～32cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　住居跡全体が第3号溝及び配水管工事による攪乱を受け，床の硬化面を確認できない。

**覆土**　7層からなる人為堆積である。

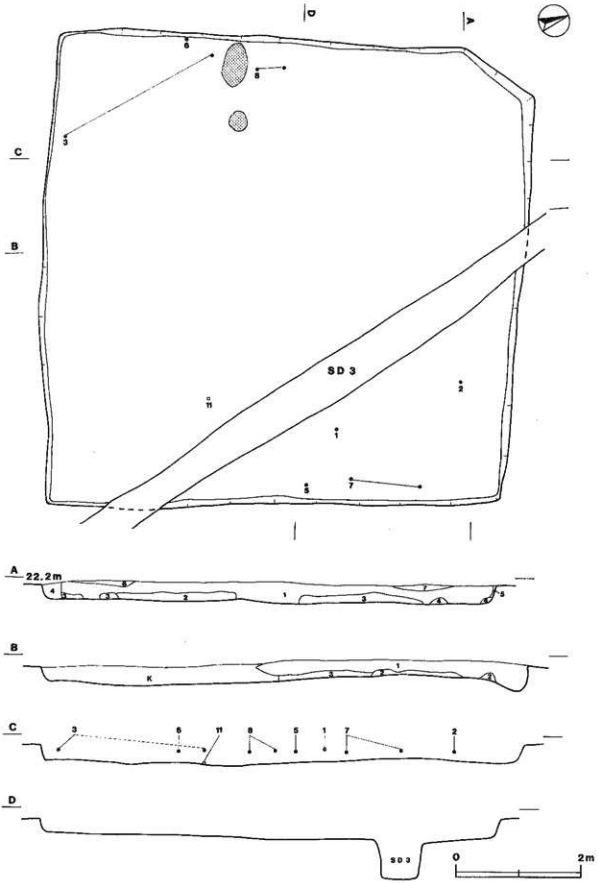
土層解説
1　黒褐色　ローム粒子・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック多量，焼土粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子・ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
5　褐　色　ローム粒子多量，炭化物少量
6　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
7　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・炭化物少量

**遺物**　土師器片439点，石器・石製品5点が出土している。遺物のほとんどが攪乱のため，覆土上層から確認されている。1の土師器坏，2の土師器鉢，5の土師器坩，7の土師器壺が北東コーナー付近覆土上層から，3の土師器高坏，6，8の土師器壺が南西コーナー付近覆土上層から，4の土師器壺，9の土師器甑，10の細石刃が覆土中から，11の勾玉が南東部覆土下層からそれぞれ出土している。

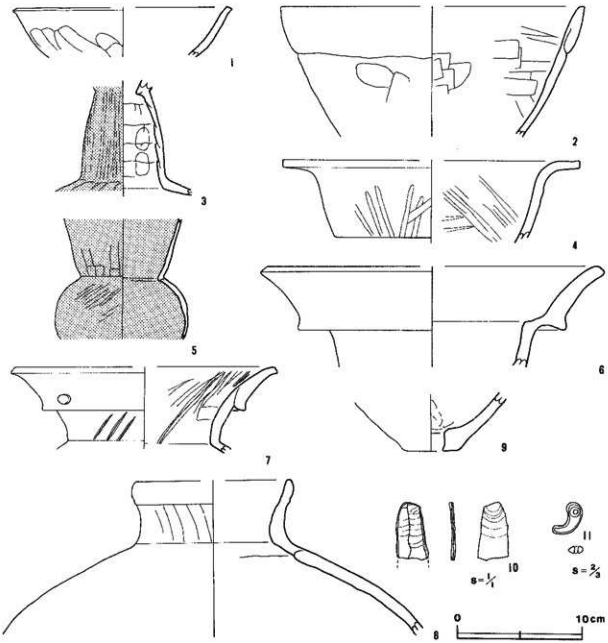
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第101図 1 | 坏 土師器 | A[16.8] B(4.0) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P185 5%，北東コーナー付近覆土上層 |
| 2 | 鉢 土師器 | A[24.6] B(10.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は折り返し口縁。 | 口縁部外面ナデ。口縁部内面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，橙色 普通 | P186 10%，北東コーナー付近覆土上・下層 |
| 3 | 高坏 土師器 | E(9.2) | 脚部片。裾部はラッパ状に開く。脚部は膨らみをもつ。 | 脚部外面ヘラ磨き。脚部内面巻き上げ痕。裾部外面ヘラナデ。外面赤彩。 | スコリア・石英・雲母，橙色 普通 | P188 20%，南西コーナー覆土上層 |
| 4 | 壺 土師器 | A[24.0] B(6.6) | 口縁部片。口縁部は内彎し，上位で屈曲し水平に開く。 | 口縁部内・外面横ナデ後ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・パミス 黄褐色 普通 | P193 5% 覆土中 |




第100図　第17号住居跡実測図




**第101図　第17号住居跡出土遺物実測図**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第101図<br>5 | 坩<br>土師器 | B(9.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は球形を呈し，口縁部は外傾する。 | 口縁部外面ヘラナデ。口縁部内面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。内・外面赤彩。 | 砂粒・雲母<br>鈍い赤褐色<br>普通 | P188，20%，体部内面剥離，二次焼成，北東コーナ付近覆土上層 |
| 6 | 壺<br>土師器 | A[26.8]<br>B(8.1) | 口縁部片。複合口縁で，直立して立ち上がり，口縁端部でさらに外反して開く。口縁部中位に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・パミス<br>明赤褐色<br>普通 | P191<br>10%，南西コーナ一覆土上層 |
| 7 | 壺<br>土師器 | A'20.8]<br>B(6.6) | 口縁部片。複合口縁で，外反して開く。 | 口縁部上位内・外面横ナデ。口縁部内・外面下位ヘラナデ。頸部外面上位に4本の沈線を施し，口縁部下位に円形浮文を貼り付けている。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色<br>普通 | P192，20%，口縁部内面低石転用低，北東コーナー付近覆土上層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第101図 8 | 壺 土師器 | A[12.4] B(12.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反し，口縁端部で直立する。 | 口縁部外面ヘラ削り。内・外面とも丁寧に磨滅著しくその他の調整不明。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P190 15%，南西コーナー覆土上層 |
| 9 | 甕 土師器 | B( 4.6) C[ 4.4] | 底部から体部下位にかけての破片。単孔式。体部は内彎気味に立ち上がる。 | 体部外面ナデ。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母 橙色 普通 | P195 5% 覆土中 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 細石刃 | (1.65) | (0.85) | (0.15) | － | (0.2) | チャート | 覆土中 | Q15 |
| 11 | 勾玉 | 1.3 | － | 0.3 | 1.8 | 0.4 | 滑石 | 南東部覆土下層 | Q18 |

## 第18号住居跡（第102・103図）

**位置**　調査1区中央部，E6$_{e3}$区。

**規模と平面形**　長軸6.79m，短軸6.70mの方形。

**主軸方向**　N－24°－W

**壁**　壁高は70～80cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。西コーナー付近の壁は配水管工事により確認できない。

**壁溝**　幅10～15cm，深さ5cmほどである。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平坦で，竈の周辺及び中央部が踏み固められている。

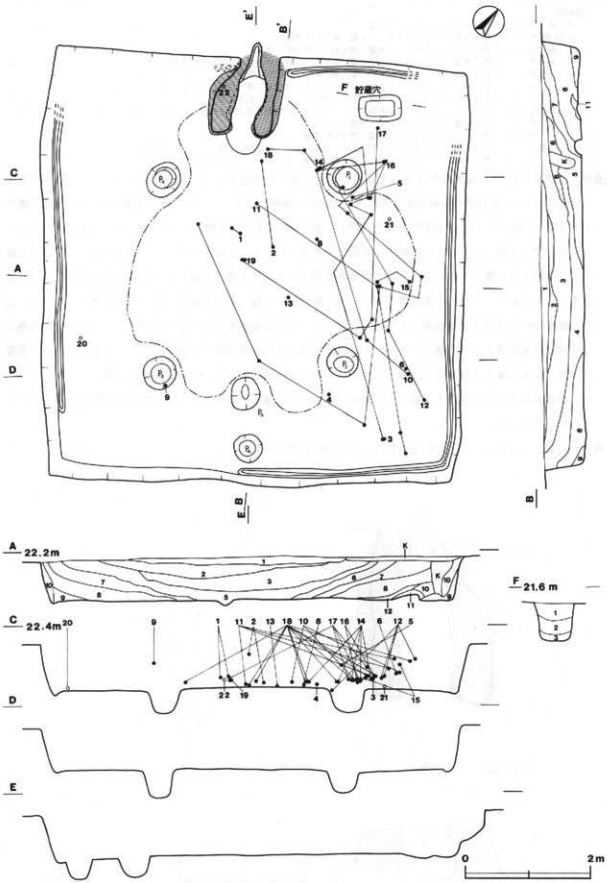
**竈**　北西壁中央部を壁外へ約25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ180cm，幅120cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。竈の火床部から貝の小片を含む灰が出土している。

竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子多量，焼土粒子・山砂・小石少量
2　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子・焼土中大ブロック・山砂少量
3　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック・焼土中ブロック・山砂・小石少量
4　鈍い赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック・山砂少量
5　鈍い赤褐色　焼土小大ブロック・山砂少量
6　鈍 い 褐 色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂多量
7　赤　褐　色　焼土粒子・焼土小中大ブロック多量
8　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，山砂少量
9　鈍い赤褐色　焼土粒子・山砂少量
10　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小大ブロック中量，焼土中ブロック・山砂少量
11　灰　白　色　灰

**ピット**　6か所。$P_1$～$P_3$は径50cmほどの円形，深さ33～44cmである。$P_4$は長径60cm，短径50cmの楕円形，深さ38cmである。$P_1$～$P_4$は主柱穴と考えられる。$P_5$は長径55cm，短径45cmの楕円形，深さ33cmである。$P_6$は径45cmの円形で，深さ33cmである。$P_5$，$P_6$は出入り口施設にともなうピットであると考えられる。

**貯蔵穴**　北西壁下，北コーナー寄りにある。長軸70cm，短軸45cmの長方形で，深さ61cmである。断面形はU字形であり，底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がる。

貯蔵穴土層解説
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　極暗褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量



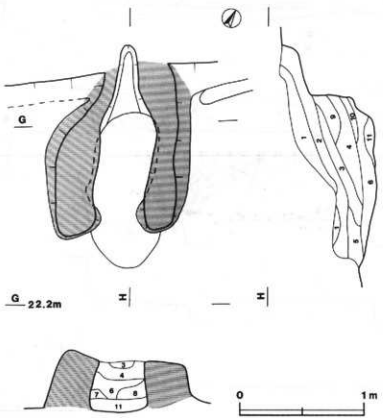

第102図　第18号住居跡実測図

**覆土**　12層からなる自然堆積である。

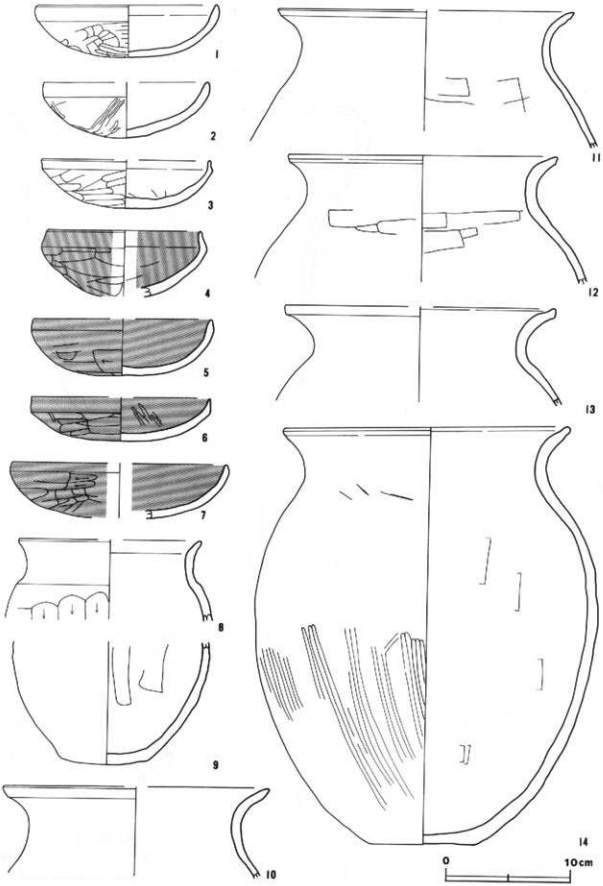
土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
4　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
7　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，焼土粒子微量，炭化粒子少量
9　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
10　褐　　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，焼土粒子微量
11　鈍い赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物中量，焼土粒子・焼土小ブロック多量
12　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化物微量

**遺物**　土師器片383点，須恵器片１点，土製品３点，石器１点が出土している。遺物のほとんどが住居跡全体に散乱しており，北西部から南東部に流れ込んだ状況で遺物が出土している。１の土師器坏，８の土師器甕が中央部覆土下層から，２の土師器坏が竈付近覆土上層及び中央部覆土下層から，３，４，６の土師器坏が東コーナー付近覆土下層から，５の土師器坏が北部覆土中層から，７の土師器坏がピット３覆土中から，14の土師器甕が北部・東部覆土下層から，９の土師器甕が南コーナー付近覆土上層から，10の土師器甕が北部及び東部覆土中・下層から，11の土師器甕が東コーナー覆土上・中層，北東部覆土下層，中央部覆土下層から，12の土師器甕が北東部及び東部覆土上・中・下層から，13の土師器甕が中央部床面直上から，15の土師器甕が北東部及び東部覆土中・下層から，16の土師器甕，21の土玉が北部覆土下層から，17の土師器甑が中央部覆土下層，北東部覆土下層及び北部覆土下層から，18の土師器甑が中央部・北部・竈付近覆土上・下層から，19の須恵器高坏が中央部覆土下層から，20の土玉が南西部覆土下層から，22の土製支脚が竈右袖部からそれぞれ出土している。

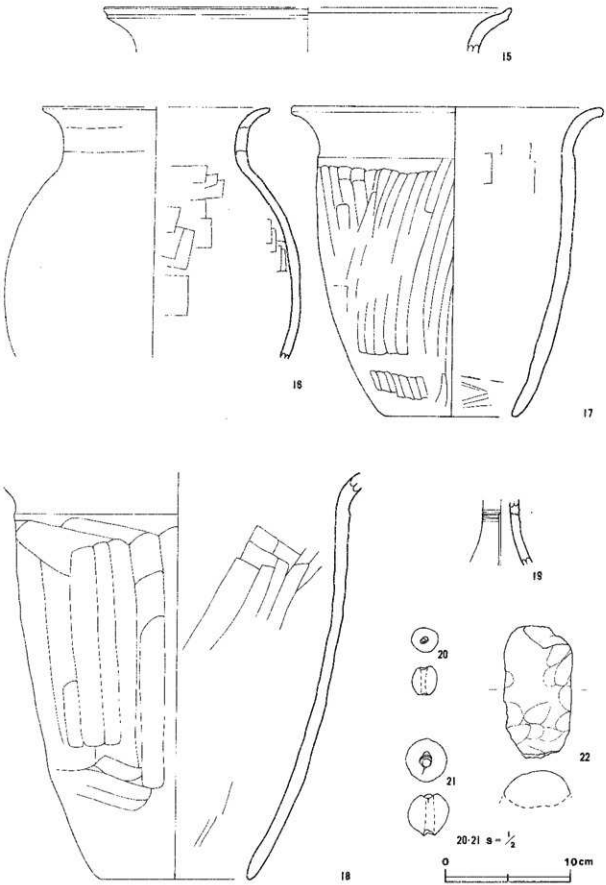
**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第103図　第18号住居跡竈実測図**




第104図　第18号住居跡出土遺物実測図(1)




第105図　第18号住居跡出土遺物実測図(2)

## 第18号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第104図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 14.4<br>B 4.2 | 丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P196<br>95%<br>中央部覆土下層 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A〔13.2〕<br>B( 4.5) | 丸底。体部は内彎気味に外傾し，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面磨滅著しく調整不明。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。底部ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア<br>橙色<br>普通 | P197，70%，体部外面墨，竈付近覆土上層及び中央部覆土下層 |
| 3 | 坏<br>土師器 | A〔13.6〕<br>B 3.9 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>赤色<br>普通 | P198<br>50%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 4 | 坏<br>土師器 | A〔12.2〕<br>B( 5.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は内傾する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外頭横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・バミュス<br>純い黄橙色<br>普通 | P199<br>40%<br>東コーナー付近覆土下層 |
| 5 | 坏<br>土師器 | A 14.4<br>B 4.6 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・石英・雲母<br>純い橙色<br>普通 | P200<br>30%<br>北部覆土中層 |
| 6 | 坏<br>土師器 | A〔14.4〕<br>B 3.5 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母<br>黒色<br>普通 | P201<br>25%，東コーナー付近覆土下層 |
| 7 | 坏<br>土師器 | A〔17.2〕<br>B( 4.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・バミュス<br>黒色<br>普通 | P202<br>20%，内面斜線<br>P3覆土中 |
| 8 | 甕<br>土師器 | A〔14.6〕<br>B( 6.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア<br>純い黄橙色<br>普通 | P209<br>15%<br>中央部覆土下層 |
| 9 | 甕<br>土師器 | B( 9.9)<br>C 7.0 | 底部から体部にかけての破片。突出した丸底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅著しく調整不明。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色<br>普通 | P211，20%，体部外面二次被熱，南コーナー付近覆土上層 |
| 10 | 甕<br>土師器 | A〔21.3〕<br>B( 7.2) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・石英・雲母，淺黄橙色<br>普通 | P204<br>5%，北部・東部覆土中・下層 |
| 11 | 甕<br>土師器 | A〔24.0〕<br>B(11.0) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・石英・雲母・スコリア，純い黄橙色，普通 | P208，10%，東コーナー・北東・中央覆土上中下層 |
| 12 | 甕<br>土師器 | A 21.6<br>B(10.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・バミュス<br>純い橙色<br>普通 | P206<br>15%<br>北東部・東部覆土上・中・下層 |
| 13 | 甕<br>土師器 | A〔21.8〕<br>B( 7.7) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P210<br>10%<br>中央部床面直上 |
| 14 | 甕<br>土師器 | A 22.8<br>B 33.9<br>C 8.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，純い黄橙色，普通 | P203<br>85%，北部・東部覆土下層 |
| 第105図<br>15 | 甕<br>土師器 | A〔32.8〕<br>B( 3.6) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>純い橙色<br>普通 | P205<br>5%，北東部・東部覆土中・下層 |
| 16 | 甕<br>土師器 | A〔18.2〕<br>B(20.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面輪積み痕。体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・長石・石英・雲母・スコリア，純い橙色，普通 | P207<br>20%<br>北部覆土下層 |
| 17 | 甕<br>土師器 | A 24.9<br>B 25.0<br>C 10.6 | 無底式。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は強く外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い黄橙色<br>普通 | P212，60%，中央部・北東部・北部覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第105図 18 | 甕 土師器 | B (32.9) C 12.0 | 底部から口縁部にかけての破片。無底式。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P213，40%，中央部・北部・竈付近覆土上・下層 |
| 19 | 高 坏 須恵器 | E (5.3) | 脚部片。脚部は中空で外側に開く。 | 脚部内・外面ロクロナデ。 | 砂粒・長石 灰色 普通 | P214 10% 中央部覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 20 | 土 玉 | 1.4 | 1.3 | 1.6 | 0.45 | 2.86 | 南西部覆土下層 | DP14 |
| 21 | 土 玉 | 2.3 | 2.2 | 2.3 | 0.70 | 9.7 | 北部覆土下層 | DP13 |
| 22 | 支 脚 | (10.7) | (5.5) | (3.0) | － | (168) | 竈右袖部 | DP15 |

### 第19号住居跡（第106図）

**位置**　調査1区北部，D6he区。

**規模と平面形**　長軸4.97m，短軸4.90mの方形。

**主軸方向**　N－31°－W

**壁**　壁高は65～74cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅10～15cm，深さ5cmほどである。断面形はU字形である。ほぼ全周している。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北西壁中央部を壁外へ約25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ115cm，幅135cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。火床部は不整形で，掘りくぼみはない。

**竈土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，山砂少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・焼土小ブロック微量
3　褐　　色　ローム粒子中量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小ブロック中量，炭化粒子微量，山砂少量
5　鈍い赤褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量，焼土粒子・焼土小ブロック中量，山砂少量
6　褐　　色　ローム小ブロック・焼土小ブロック少量，焼土粒子中量，山砂多量
7　灰 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量，山砂多量
8　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量，焼土小ブロック中量

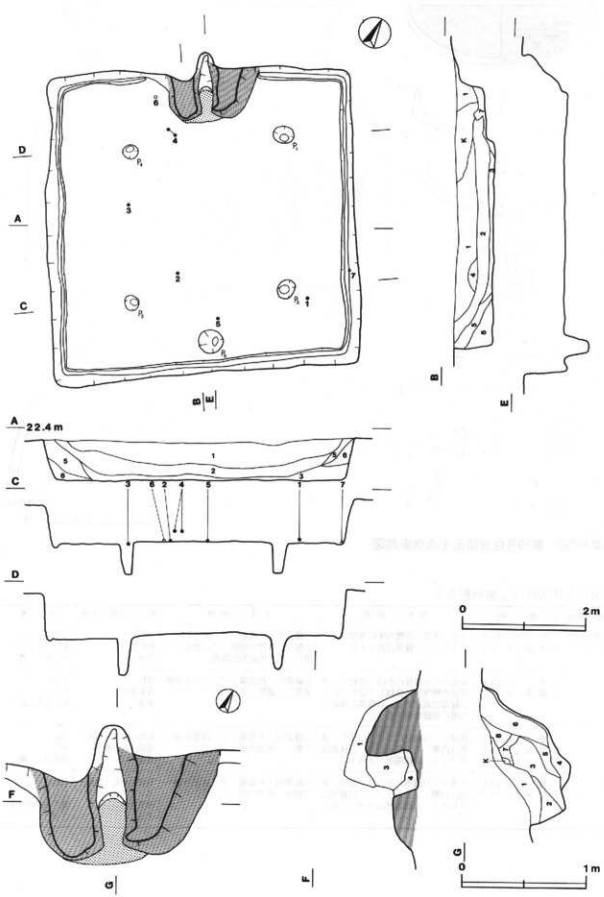
**ピット**　5か所。$P_1$～$P_4$は径30cmほどの円形，深さ52～65cmで，主柱穴と考えられる。$P_5$は径40cmの円形，深さ40cmで出入り口施設にともなうピットであると考えられる。

**覆土**　7層からなる自然堆積である。

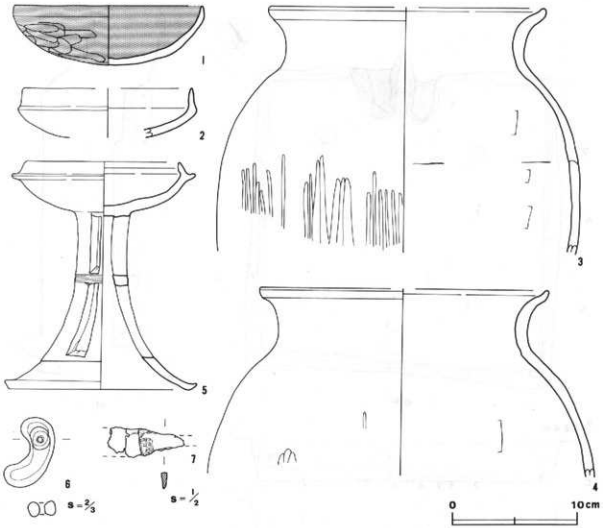
**土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子微量，ローム小大ブロック少量
2　褐　　色　ローム小中大ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
5　暗 褐 色　ローム粒子微量，ローム小ブロック少量
6　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック少量
7　黄 褐 色　山砂

**遺物**　土師器片85点，須恵器片2点，鉄製品1点，石器・石製品1点が出土している。1の土師器坏，7の刀子が東コーナー付近覆土下層から，2の土師器坏が中央部床面直上から，3の土師器甕が西部覆土下層から，4の土師器甕が竈右袖部付近覆土下層から，5の須恵器高坏が南東部床面直上から，6の勾玉が竈西隣覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




第106図　第19号住居跡実測図




**第107図　第19号住居跡出土遺物実測図**

第19号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第107図<br>1 | 坏<br>土師器 | A 15.8<br>B 4.5 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・スコリア<br>橙色<br>普通 | P215<br>99%，東コーナー付近覆土下層 |
| 2 | 坏<br>土師器 | A〔13.6〕<br>B（4.0） | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。内・外面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒<br>浅黄橙色<br>普通 | P216<br>15%<br>中央部床面直上 |
| 3 | 甕<br>土師器 | A〔22.0〕<br>B（19.8） | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部つまみ上げ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・石英・雲母，浅黄橙色<br>普通 | P217<br>20%<br>西部覆土下層 |
| 4 | 甕<br>土師器 | A〔23.0〕<br>B（15.0） | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア<br>浅黄橙色<br>普通 | P218<br>5%<br>竈右袖部付近覆土下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第107図 5 | 高坏 須恵器 | A 12.3<br>B 18.3<br>C 14.6<br>D 14.2<br>E 15.0 | 裾部はラッパ状に開く。脚部は中空で，長方形の透し窓が2ケ所に1対開けられている。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は内傾する。口縁端と体部との境に明瞭な稜をもつ。脚部中位に2条の沈線をもつ。 | 内・外面ロクロナデ。脚部の透しはヘラ状のもので長方形に切り抜いている。 | 砂粒<br>黄灰色<br>普通 | P219<br>98%<br>南東部床面直上 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | | | |
| 6 | 勾玉 | 2.8 | 0.6 | 2.0 | 5.8 | 滑石 | 竈西隣覆土下層 | Q20 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 7 | 刀子 | (4.2) | (1.6) | (0.4) | (5.25) | 鉄 | 覆土下層 | M3 |

### 第20号住居跡（第108図）

**位置**　調査1区北部，D6ｶ区。

**規模と平面形**　長軸3.50m，短軸3.44mの方形。

**主軸方向**　N－6°－W

**壁**　壁高は50～55cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北壁中央部を壁外へ約45cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ130cm，幅110cmである。両袖部とも砂まじりの粘土で構築されている。火床は円形に10cmほど掘りくぼめられている。

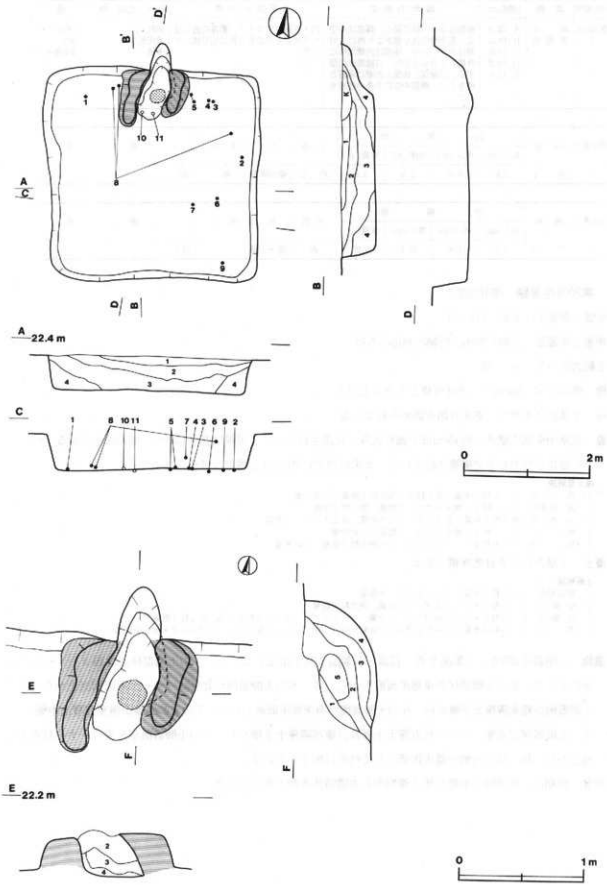
竈土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量，山砂中量
2　純い赤褐色　ローム粒子・焼土小ブロック微量，焼土粒子中量
3　赤　褐　色　焼土粒子多量，焼土小中ブロック中量，焼土大ブロック微量
4　褐　色　ローム粒子・焼土小ブロック微量，山砂中量
5　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック・炭化粒子微量，山砂多量

**覆土**　4層からなる自然堆積である。

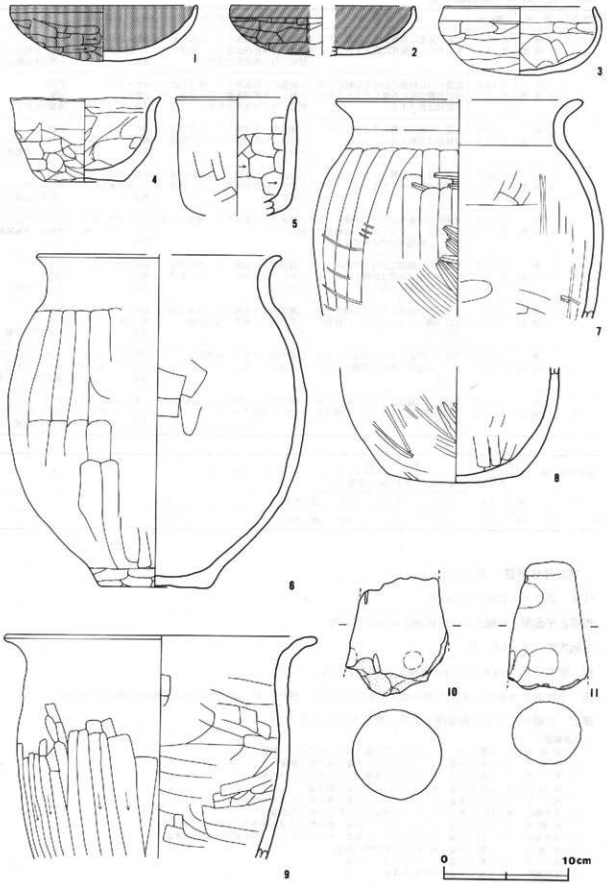
土層解説
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量
4　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・炭化物微量

**遺物**　土師器片309点，土製品2点，石器・石製品1点が出土している。1の土師器坏が北西コーナー付近床面直上から，2の土師器坏が東部床面直上から，3，4の土師器椀が北東コーナー付近床面直上から，5の土師器椀が竈東隣覆土下層から，6の土師器甕が南東部床面直上から，7の土師器甕が南東部覆土中層から，8の土師器甕が北東コーナー付近覆土上層及び竈西隣覆土下層から，9の土師器甑が南東コーナー付近床面直上から，10，11の支脚が竈火床部からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




第108図　第20号住居跡実測図




第109図　第20号住居跡出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第109図 1 | 坏 土師器 | A 15.0 B 4.5 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ちあがり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，純い褐色 普通 | P220 85%，北西コーナー付近床面直上 |
| 2 | 坏 土師器 | A [14.8] B 4.0 | 底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 赤黒色 普通 | P221 40% 東南床面直上 |
| 3 | 椀 土師器 | A 12.2 B 5.5 | 丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は内傾する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P222 100%，北東コーナー付近床面直上 |
| 4 | 椀 土師器 | A 12.1 B 6.8 C 6.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P223 80%，北東コーナー付近床面直上 |
| 5 | 椀 土師器 | A 9.5 B( 9.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は直立して立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部はやや外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，純い橙色 普通 | P224，35%，二次焼成，竈東隣覆土下層 |
| 6 | 甕 土師器 | A [19.4] B (26.7) C[ 6.6°] | 底部から口縁部にかけての破片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P225 30% 南東部床面直上 |
| 7 | 甕 土師器 | A [19.7] B (17.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・長石・雲母 純い橙色 普通 | P226 30% 南東部覆土中層 |
| 8 | 甕 土師器 | B( 9.3) C 10.5 | 底部から体部にかけて破片。丸みがかった底部。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，純い褐色 普通 | P229，30%，北東コーナー付近・竈西隣覆土下層 |
| 9 | 甑 土師器 | A 24.8 B (18.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，橙色 普通 | P230 60%，南東コーナー付近床面直上 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 10 | 支脚 | (9.6) | (8.2) | (7.2) | (519) | 竈火床部 | DP16 |
| 11 | 支脚 | (10.4) | (6.5) | (5.5) | (303) | 竈火床部 | DP17 |

## 第21号住居跡（第110図）

**位置**　調査1区北部，D6 hs区。

**規模と平面形**　長軸2.78m，短軸2.33mの長方形。

**主軸方向**　N－10°－W

**壁**　壁高は45～60cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。往穴，炉，竈などの内部施設は確認できない。

**覆土**　19層からなる人為堆積である。攪乱をひどく受けている。

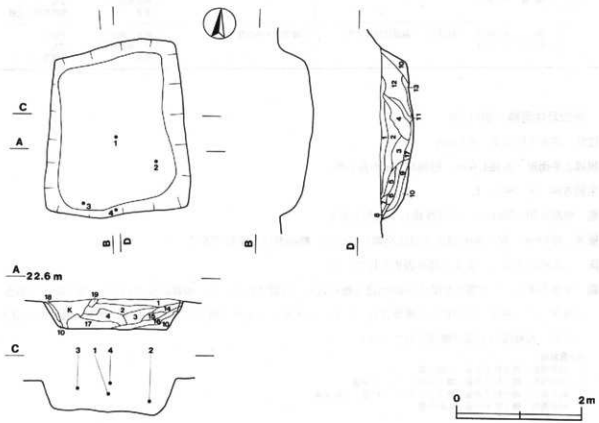
土層解説

1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　色　ローム粒子・ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化物少量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量
6　黒赤褐色　焼土粒子・焼土小中ブロック多量，炭化粒子・炭化物微量
7　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物微量
8　暗赤褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック多量，焼土小ブロック・炭化粒子・炭化物微量
9　黒褐色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
11　極暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
12　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量
13　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

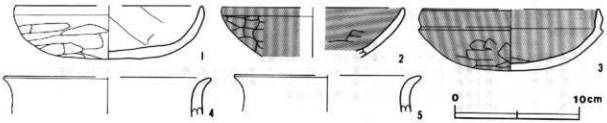
14　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量
15　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
16　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック微量，炭化粒子少量
17　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック中量，ローム大ブロック微量
18　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック微量
19　暗赤褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子微量，焼土粒子中量，焼土小ブロック少量

**遺物**　土師器片78点が出土している。攪乱のため遺物のほとんどが破片である。1の土師器坏が中央部覆土中層から，2の土師器坏が南東コーナー付近覆土下層から，3の土師器坏が南西コーナー付近覆土中層から，4の土師器甕が南壁際覆土上層から，5の土師器甕が南部覆土中から，それぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第110図　第21号住居跡実測図**




**第111図　第21号住居跡出土遺物実測図**

第21号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第111図 1 | 坏 土師器 | A[15.0] B(4.3) C(6.0) | 底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，橙色 普通 | P231 50% 中央部覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[14.6] B(4.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P233 10%，南東コーナー付近覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[15.0] B 4.3 | 体部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラナデ。体部内面上位横ナデ，下位ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P232 40% 南西コーナー付近覆土中層 |
| 4 | 甕 土師器 | A 16.4 B(3.0) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・パミス 明赤褐色 普通 | P235 3% 角柱期覆土上層 |
| 5 | 甕 土師器 | A[15.0] B(2.9) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P234 5% 南部覆土中 |

## 第22号住居跡（第112図）

**位置**　調査1区北部，E5 b6区。

**規模と平面形**　長軸4.65m，短軸3.27mの長方形。

**主軸方向**　N－80°－E

**壁**　壁高は60～70cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅10cm，深さ5cmほどではほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　東壁南東コーナー寄りを壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ135cm，幅105cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は不定形で掘りくぼみはない。煙道は緩やかに立ち上がる。右袖部の上部が確認されていない。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子少量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小中大ブロック少量
3　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小中ブロック中量，山砂少量
4　暗赤褐色　焼土粒子中量，山砂少量

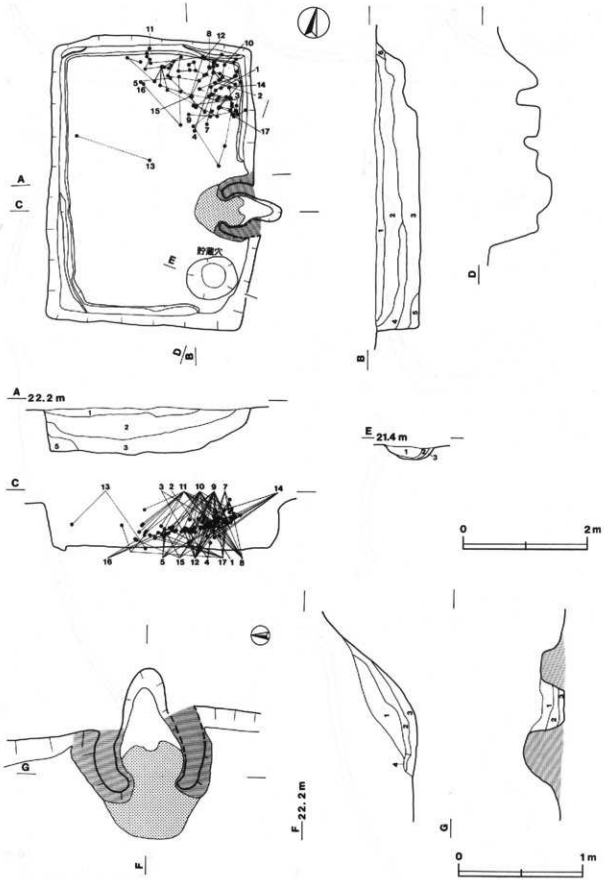
**貯蔵穴**　長径80cm，短径70cmの楕円形。深さ25cmほどである。

貯蔵穴土層解説
1　暗赤褐色　ローム粒子・焼土粒子中量，焼土中大ブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子多量，焼土粒子少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム大ブロック少量

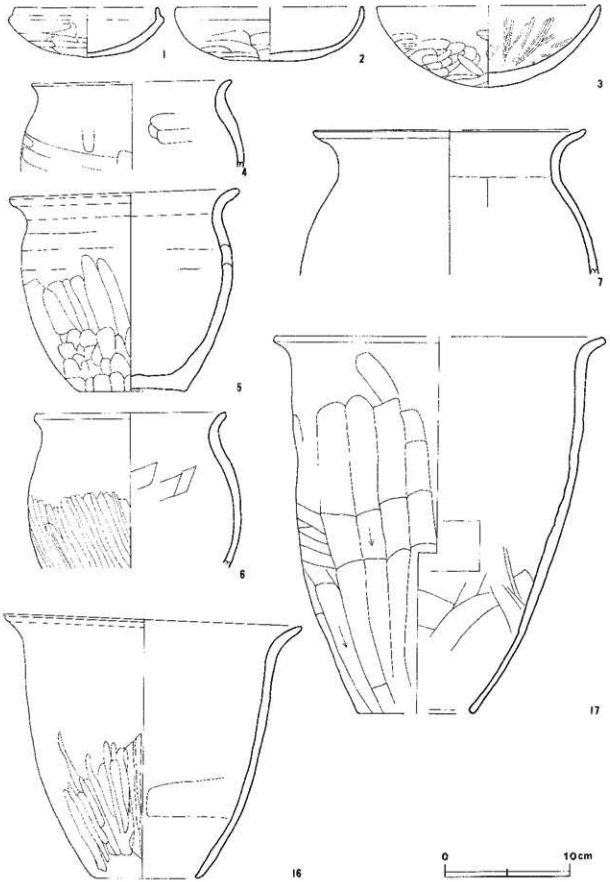
**覆土**　6層からなる人為堆積である。

土層解説
1　黒　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量
5　褐　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
6　褐　色　ローム粒子多量

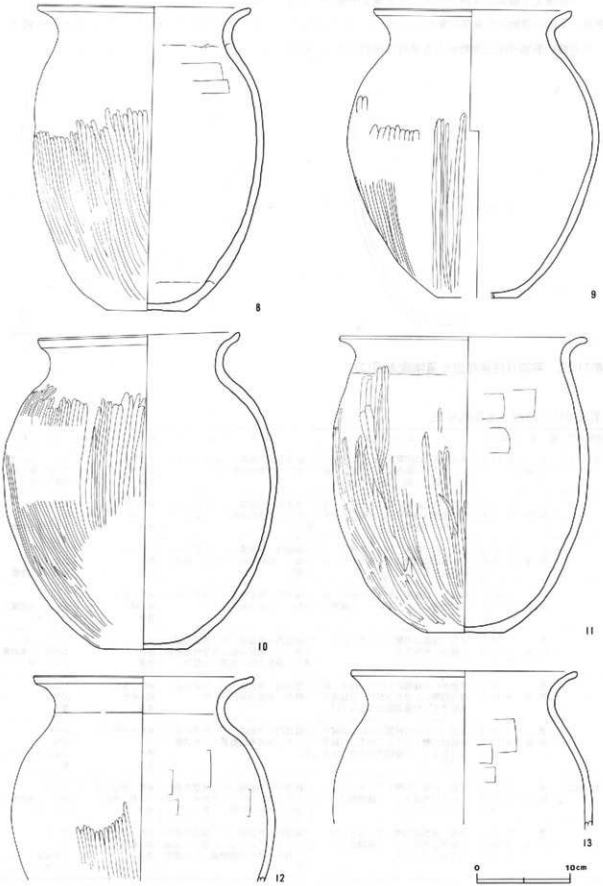
**遺物**　土師器片425点，土製品3点が出土している。遺物のほとんどが住居跡の北東部に集中し，重なり合って出土している。1～3の土師器坏が北東部覆土中層から，4の土師器鉢が北東部覆土中・下層から，5の土師器甕，16，17の土師器甑が北東部覆土中・下層から，6の土師器甕が覆土中から，7，8，12の土師器甕が北東部覆土上・中層から，9～11，14，15の土師器甕が北東部覆土上・中・下層から，13の土師器甕が




第112図　第22号住居跡実測図



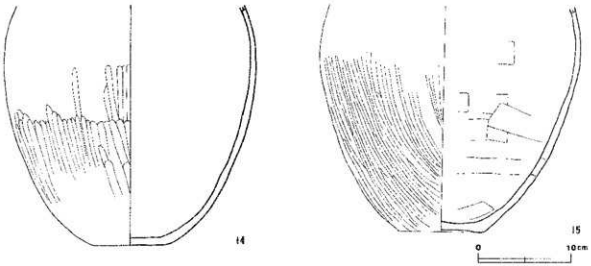

第113図　第22号住居跡出土遺物実測図(1)




第114図　第22号住居跡出土遺物実測図(2)

中央部覆土下層及び北西コーナー付近覆土中層からそれぞれ出土している。

**所見**　本跡の遺物は北東部に集中して出土していることから，まとめて投棄されたものと考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




**第115図　第22号住居跡出土遺物実測図(3)**

第22号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第113図 1 | 坏 土師器 | A 11.4<br>B 4.0 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P236，98%，底部外面刻書，北東部覆土中層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[15.0]<br>B( 4.4) | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色<br>普通 | P238<br>50%<br>北東部覆土中層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[18.0]<br>B 6.6 | 底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラ磨き。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母<br>橙色<br>普通 | P237<br>40%<br>北東部覆土中層 |
| 4 | 鉢 土師器 | A[16.1]<br>B( 7.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P241<br>20%，北東部覆土中・下層 |
| 5 | 甕 土師器 | A 18.0<br>B 16.3<br>C 8.5 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削りで，輪郭み痕。体部内面磨滅著しく調整不明。底部ヘラ削り。 | 砂粒<br>橙色<br>普通 | P247，55%，二次焼成，北東部覆土中・下層 |
| 6 | 甕 土師器 | A 15.2<br>B(12.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P246<br>60%<br>覆土中 |
| 7 | 甕 土師器 | A[21.8]<br>B(11.7) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅のため調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア<br>橙色<br>普通 | P232<br>25%<br>北東部覆土上・中層 |
| 第114図 8 | 甕 土師器 | A 22.7<br>B 32.8<br>C 8.8 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P245<br>60%，北東部覆土上・中層 |
| 9 | 甕 土師器 | A 21.0<br>B 21.1<br>C[ 8.8] | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ磨き。体部内面磨滅のため調整不明。 | 砂粒・長石・雲母<br>鈍い橙色<br>普通 | P244<br>70%<br>北東部覆土上・中・下層 |

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第114図 10 | 甕 土師器 | A 21.4<br>B 34.2<br>C 9.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P243，70%，体部内面剥離，北東部覆土上中下層 |
| 11 | 甕 土師器 | A 26.5<br>B 31.8<br>C 8.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・石英・雲母・礫，鈍い黄橙色<br>普通 | P242<br>70%，北東部覆土上・中・下層 |
| 12 | 甕 土師器 | A 23.3<br>B (22.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下へヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P249<br>30%<br>北東部覆土上・中層 |
| 13 | 甕 土師器 | A 24.3<br>B (17.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・長石・石英・雲母，鈍い赤褐色<br>普通 | P248，30%，中央部・北西コーナー付近覆土中下層 |
| 第115図 14 | 甕 土師器 | B (25.8)<br>C 7.5 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面磨滅著しく調整不明。底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石・石英・雲母，鈍い橙色<br>普通 | P250<br>30%，北東部覆土上・中・下層 |
| 15 | 甕 土師器 | B (24.5)<br>C 9.0 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・スコリア<br>鈍い橙色<br>普通 | P251<br>30%，北東部覆土中・下層 |
| 第113図 16 | 鉢 土師器 | A 23.9<br>B 20.3<br>C 8.0 | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い黄橙色<br>普通 | P255<br>70%，北東部覆土中・下層 |
| 17 | 鉢 土師器 | A (26.4)<br>B 30.4<br>C (9.2) | 無底式。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い橙色<br>普通 | P256<br>70%，北東部覆土中・下層 |

**第23号住居跡**（第116・117図）

**位置**　調査1区北部，D5$_{gr}$区。

**規模と平面形**　長軸5.65m，短軸(4.80)mの長方形。

**主軸方向**　N－19°－W

**壁**　壁高は70～75cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。西壁は調査区域外に存在する。

**壁溝**　幅10～20cm，深さ2～10cmほどで，ほぼ全周しているものと考えられる。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，中央部が踏み固められている。

**竈**　北壁中央部を壁外へ25cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ120cm，幅120cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。煙道は緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

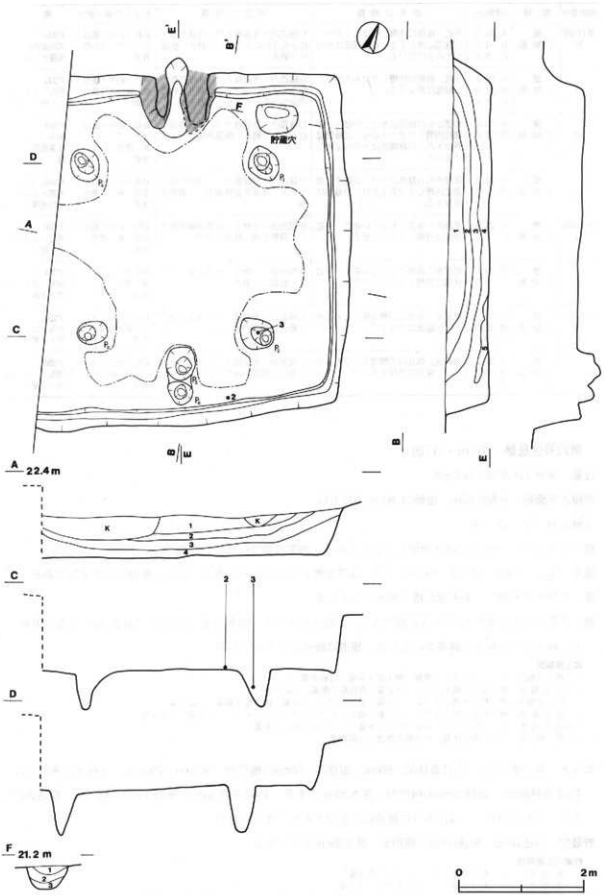
1　鈍い赤褐色　ローム中ブロック微量，焼土粒子少量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・焼土中ブロック少量，炭化粒子微量，山砂少量
3　鈍い赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック中量，焼土小ブロック少量，炭化粒子微量，山砂少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中大ブロック・ローム大ブロック少量，山砂少量
5　暗赤褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム大ブロック多量
6　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量，山砂微量

**ピット**　6か所。$P_1$～$P_4$は長径55～60cm，短径35～50cmの楕円形，深さ60～76cmで，主柱穴と考えられる。$P_5$は長径55cm，短径45cmの楕円形，深さ40cmである。$P_6$は長径45cm，短径35cmの楕円形，深さ26cmである。これらのピットは出入り口施設にともなうものと考えられる。

**貯蔵穴**　長径70cm，短径50cmの楕円形。深さ39cmほどである。

**貯蔵穴土層解説**

1　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2　黒褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子・焼土大ブロック少量，炭化粒子微量



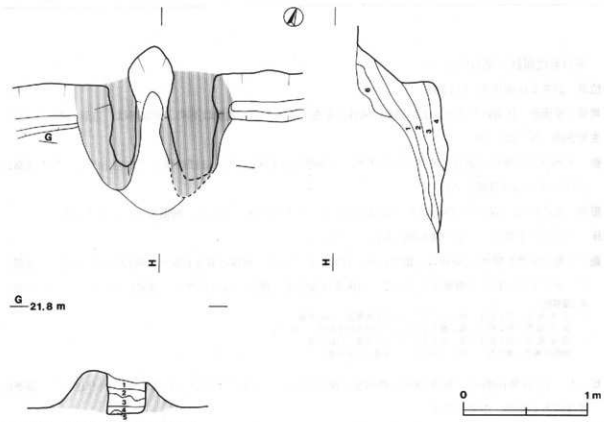

第116図　第23号住居跡実測図

**覆土**　5層からなる自然堆積である。

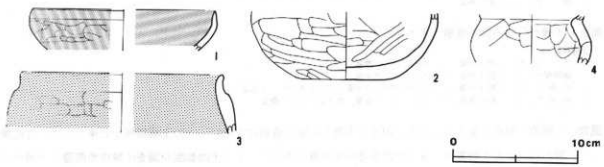
土層解説
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
2　黒　褐　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗　褐　色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
4　暗　褐　色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック少量
5　暗赤褐色　焼土

**遺物**　土師器片70点が出土している。1の土師器坏が覆土中から，2の土師器椀が南東コーナー付近覆土下層から，3の土師器椀がピット2覆土中から，4の土師器坩が北部覆土中からそれぞれ出土している。

**所見**　覆土の4層の中に焼土の層が確認されている。この焼土は，炭化物等が確認されていないことから，住居廃絶後の焼土であると考えられる。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




第117図　第23号住居跡竈実測図




第118図　第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第118図 1 | 坏 土師器 | A[14.8] B( 3.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒 黒褐色 普通 | P257 10% 覆土中 |
| 2 | 椀 土師器 | B( 5.5) C 7.6 | 底面から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，黄白色，普通 | P258 60%，南東コーナー付近覆土下層 |
| 3 | 椀 土師器 | A[16.2] B( 4.8) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に段をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面赤彩。 | 砂粒 黄白色 普通 | P259 10% 体部内面剥離 P2覆土中 |
| 4 | 坩 土師器 | B( 4.0) | 体部片。体部は内彎する。 | 体部外面ヘラナデ。体部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・礫 黄白色 普通 | P260 10% 北部覆土中 |

## 第24号住居跡（第119図）

**位置**　調査2区南東部，C4 d4区。

**規模と平面形**　住居跡の半分以上が調査区域外に存在するるため，規模は不明。平面形は，方形と考えられる。

**主軸方向**　N－20°－W

**壁**　南西及び南東壁は調査区域外のため不明。北西壁高は約85cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。北東壁高は約75cmで，ほぼ外傾している。

**壁溝**　幅約15cm，深さ5～15cmほどでほぼ全周しているものと考えられる。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ125cm，幅130cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は長方形で掘りくぼみはない。煙道は緩やかに立ち上がる。

竈土層解説
1　暗赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック・炭化物微量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量，山砂少量
3　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中大ブロック少量，山砂少量
4　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土小大ブロック少量，山砂少量

**ピット**　$P_1$は長径80cm，短径70cmの楕円形，深さ42cmで，主柱穴と考えられる。その他のピットは調査区域外にあるため，不明である。

**貯蔵穴**　長軸70cm，短軸60cmの長方形。深さ43cmほどである。

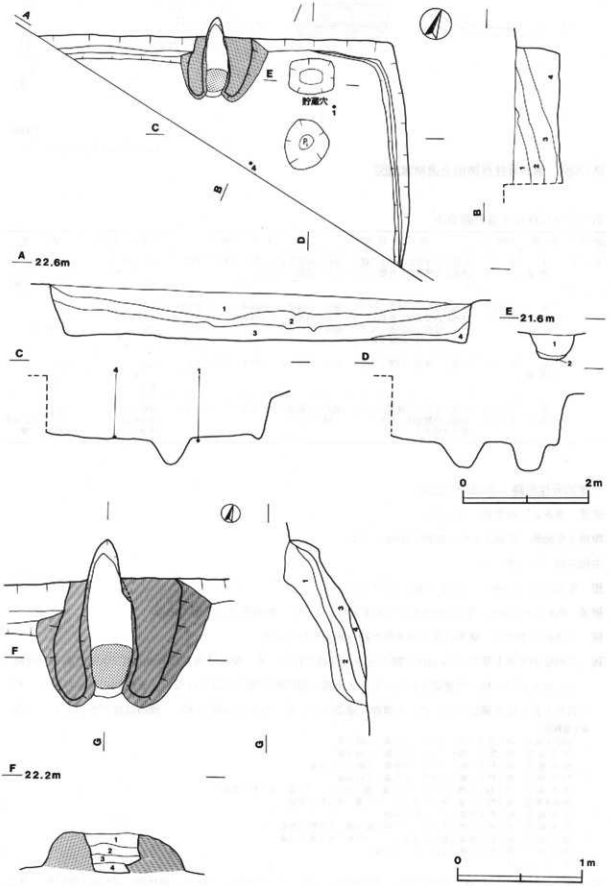
貯蔵穴土層解説
1　暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，焼土粒子・炭化粒子少量，焼土小ブロック微量
2　褐　色　ローム粒子多量

**覆土**　4層からなる自然堆積と考えられる。

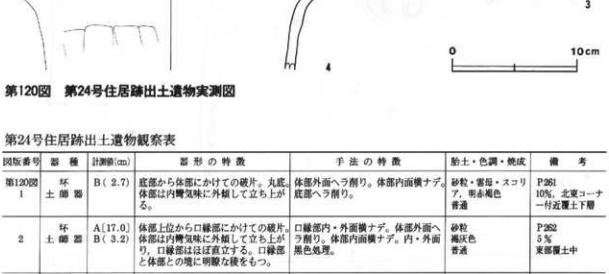
土層解説
1　黒　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
3　暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量，ローム大ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，焼土大ブロック微量

**遺物**　土師器片94点が出土している。復元・実測が可能な遺物は少ない。1の土師器坏が北東コーナー付近覆土下層から，2の土師器坏，3の土師器坩が東部覆土中から，4の土師器甑が調査区域境界際覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




第119図　第24号住居跡実測図




**第120図　第24号住居跡出土遺物実測図**

第24号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器　種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第120図 1 | 坏 土師器 | B(2.7) | 底部から体部にかけての破片。丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母・スコリア，明赤褐色 普通 | P261 10%，北東コーナー付近覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[17.0] B(3.2) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒 褐灰色 普通 | P262 5% 東部覆土中 |
| 3 | 埦 土師器 | B(6.1) | 体部片。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面ナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，黄い黄橙色 普通 | P263 20% 東部覆土中 |
| 4 | 甕 土師器 | A[25.7] B(6.8) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 浅黄橙色 普通 | P264 10%，調査区域境界際覆土下層 |

**第25号住居跡**（第121・122図）

**位置**　調査2区南東部，C4 $b_3$区。

**規模と平面形**　長軸5.78m，短軸5.50mの方形。

**主軸方向**　N－39°－W

**壁**　壁高は55～75cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅約5～15cm，深さ5cmほどではほぼ全周している。断面形はU字形である。

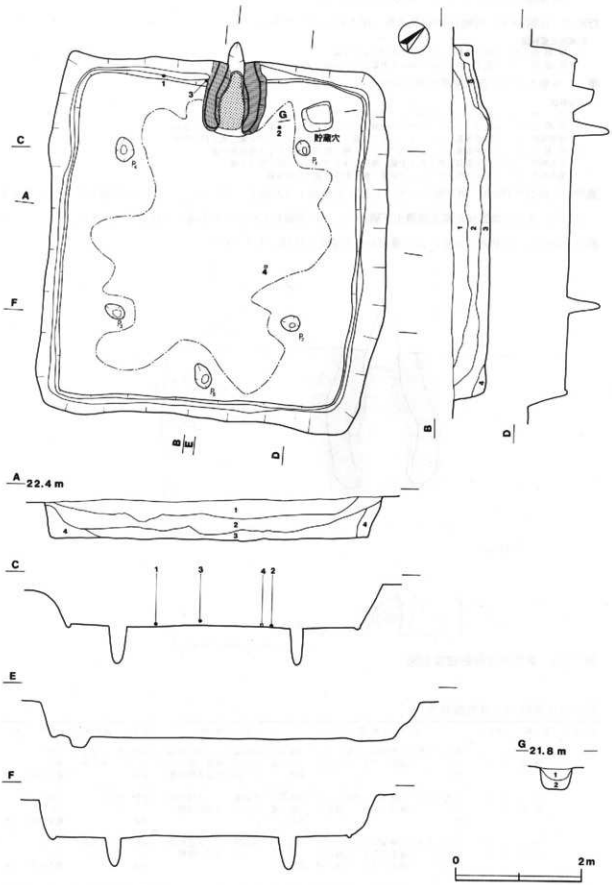
**床**　全体的に平坦で，竈周辺及び中央部が踏み固められている。

**竈**　北西壁中央部を壁外へ35cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ150cm，幅100cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は楕円形で掘りくぼみはない。火床部の下から貝の小片と土器片を含む灰を確認している。当遺跡で確認された灰のなかでは最も多い。煙道は緩やかに立ち上がる。

**竈土層解説**

1　極暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック少量，山砂少量
3　暗赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック中量，山砂・小石少量
4　暗赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック中量，山砂少量
5　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土大ブロック少量，炭化粒子微量
6　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土中大ブロック少量，炭化粒子微量
7　暗赤褐色　焼土粒子少量，ローム粒子中量
8　暗赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック・炭化物少量，炭化粒子微量
9　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小中大ブロック中量，炭化粒子少量
10　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小中ブロック少量
11　灰白色　灰

**ピット**　5か所。$P_1$は径25cmの円形，深さ63cm。$P_2$～$P_4$は長径30～40cm，短径25～30cmの楕円形，深さ52～63cmである。$P_1$～$P_4$は主柱穴と考えられる。$P_5$は長径45cm，短径25cmの楕円形，深さ20cmで，出




第121図　第25号住居跡実測図

入り口施設にともなうピットであると考えられる。

**貯蔵穴**　長軸50cm，短軸45cmの長方形。深さ37cmほどである。

**貯蔵穴土層解説**

1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中大ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中大ブロック少量

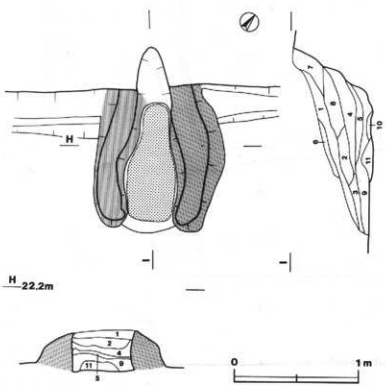
**覆土**　6層からなる自然堆積と考えられる。

**土層解説**

1　黒　　色　ローム粒子・ローム小中ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量
3　極暗褐色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中大ブロック少量，焼土粒子微量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック・焼土粒子・炭化粒子・炭化物少量
5　暗赤褐色　ローム粒子微量，焼土粒子中量，焼土小中大ブロック・炭化粒子少量
6　暗赤褐色　ローム粒子・焼土大ブロック少量，焼土粒子中量，山砂少量

**遺物**　土師器片180点，須恵器片1点，石器・石製品1点が出土している。1，3の土師器坏が竈西側覆土下層から，2の土師器坏が竈東側覆土下層から，4の黒曜石石核が中央部覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

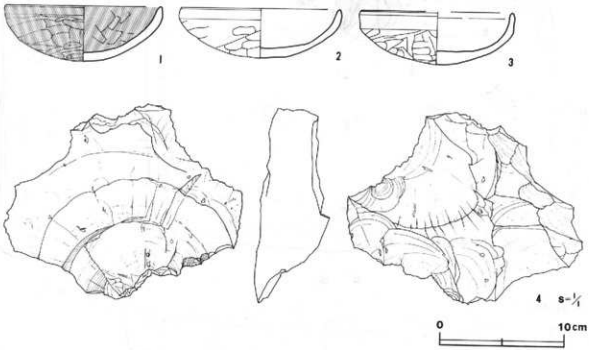



**第122図　第25号住居跡竈実測図**

第25号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第123図 1 | 坏 土師器 | A 12.6<br>B 4.5 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面ナデ。底部ヘラナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，純い橙色<br>普通 | P265<br>99%<br>竈西側覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A 12.8<br>B 4.0 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面横ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，赤色<br>普通 | P266<br>80%<br>竈東側覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A[12.3]<br>B 4.3 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面横ナデ。底部ヘラナデ。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，橙色<br>普通 | P267<br>55%<br>竈西側覆土下層 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第123図4 | 石核 | 6.4 | 7.6 | 1.6 | 62 | 黒曜石 | 中央部覆土下層 | G22 |




**第123図　第25号住居跡出土遺物実測図**

### 第26号住居跡（第124図）

**位置**　調査2区南東部，C4 as区。

**規模と平面形**　長軸6.62m，短軸4.31mの長方形。

**主軸方向**　N－54°－W

**壁**　壁高は55～80cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**壁溝**　幅約10～15cm，深さ5cmほどでほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　全体的に平坦で，竈周辺及び中央部が踏み固められている。

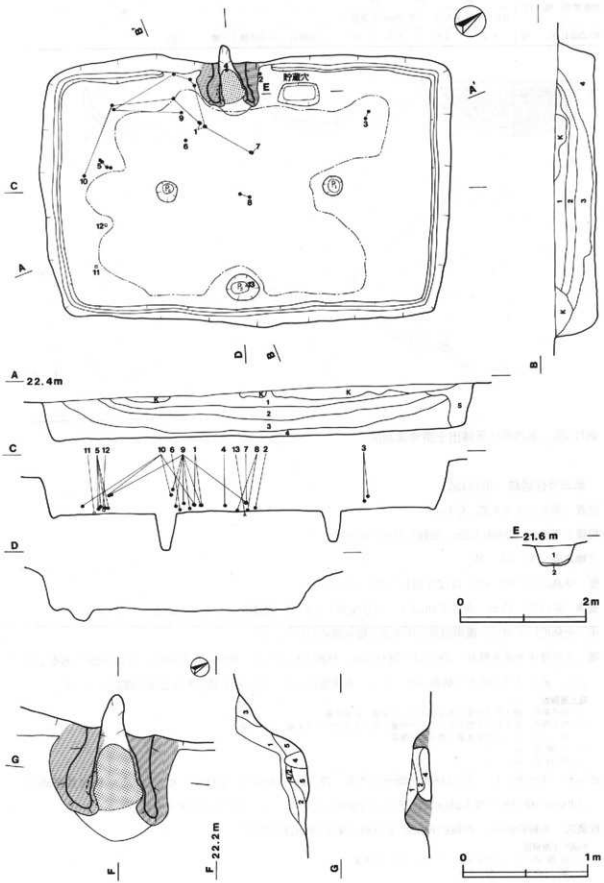
**竈**　北西壁中央部を壁外へ30cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ100cm，幅100cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。火床部から貝の小片と土器片を含む灰を確認している。

**竈土層解説**
1　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，山砂少量
2　暗赤褐色　焼土粒子・焼土小ブロック中量，焼土中大ブロック少量，山砂少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，焼土粒子微量
4　赤褐色　焼　　土
5　灰白色　灰

**ピット**　3か所。$P_1$，$P_2$は径30～32cmの円形，深さ51～58cmで，主柱穴と考えられる。$P_3$は長径55cm，短径40cmの楕円形，深さ24cmで，出入り口施設にともなうピットであると考えられる。

**貯蔵穴**　長軸約65cm，短軸約40cmの長方形。深さ43cmほどである。

**貯蔵穴土層解説**
1　暗褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子多量




第124図　第26号住居跡実測図

**覆土**　5層からなる自然堆積と考えられる。

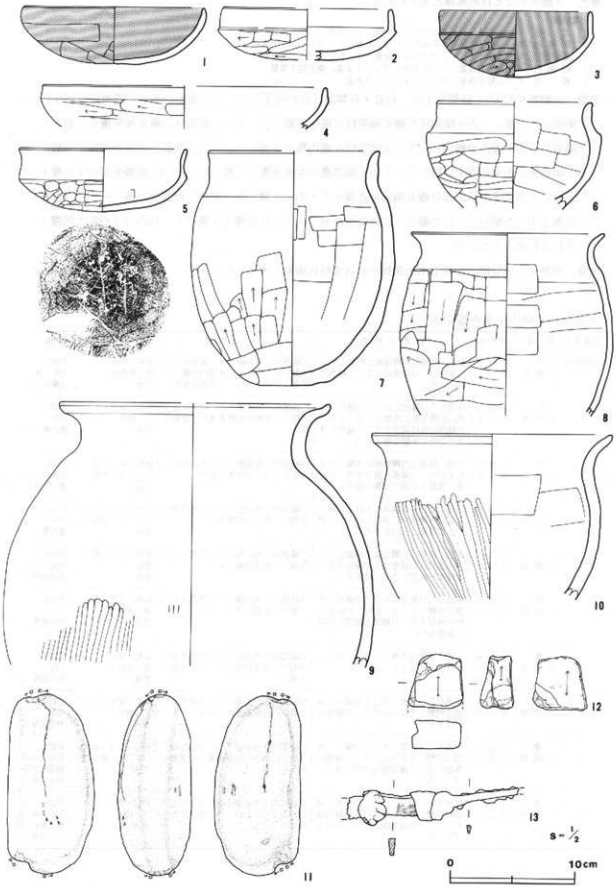
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
3　暗褐褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中大ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量，焼土粒子微量
5　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック中量

**遺物**　土師器片320点，鉄製品1点，石器・石製品2点が出土している。遺物の多くが竈周辺及び住居跡西部に集中している。1の土師器坏が竈右袖部付近覆土下層から，2の土師器坏が竈左袖部覆土下層から，3の土師器坏が北部覆土中層から，4の土師器坏が竈内覆土下層から，5の土師器坏が南西部覆土下層から，6の土師器椀が中央部覆土下層から，7の土師器甕が中央部覆土下層から，8の土師器甕が中央部覆土下層から，9の土師器甕が西部及び竈右袖部付近覆土上・中・下層から，10の土師器甕が西コーナー及び竈右袖部付近覆土中・下層から，11の敲石，12の砥石が南コーナー付近覆土下層から，13の刀子が南東部覆土下層からそれぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第125図 1 | 坏 土師器 | A 14.4 B 4.6 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラナデ。体部内面横ナデ，底部ヘラナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P269 70%．竈右袖部付近覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A.13.4 B(4.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はほぼ直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P271 40% 竈左袖部覆土下層 |
| 3 | 坏 土師器 | A 12.2 B 5.4 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部は直立する。口縁部と体部との境に明瞭な稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，黒褐色 普通 | P270 50%．体部内面剥離，北部覆土中層 |
| 4 | 坏 土師器 | A(22.8) B(3.4) | 体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，赤褐色 普通 | P272 10% 竈内覆土下層 |
| 5 | 坏 土師器 | A 13.5 B 5.1 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ナデ。 | 砂粒・長石・雲母 橙色 普通 | P268 80%．底部ホ葉痕 南西部覆土下層 |
| 6 | 椀 土師器 | A(12.4) B(8.7) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はやや外反する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P273 15% 中央部覆土下層 |
| 7 | 甕 土師器 | A[13.6] B 19.0 C 12.4 | 平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P274 70% 中央部覆土下層 |
| 8 | 甕 土師器 | A 15.6 B(14.6) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P277 40% 中央部覆土下層 |
| 9 | 甕 土師器 | A[21.6] B(21.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ磨き。体部内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P275 40%．西部・竈右袖部付近覆土上・中・下層 |
| 10 | 甕 土師器 | A 19.2 B(13.3) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はややつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面上位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・雲母・スコリア，橙色 普通 | P276 50%．西コーナー竈右袖部付近覆土中・下層 |




第125図　第26号住居跡出土遺物実測図

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 第125図11 | 敲石 | 14.6 | 7.0 | 5.9 | 863 | 安山岩 | 覆土下層 | Q23 |
| 12 | 砥石 | (4.3) | (4.4) | (2.7) | (58) | 凝灰岩 | 覆土下層 | Q24 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 | | | | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | | | |
| 13 | 刀子 | (9.2) | (1.9) | (0.3) | (11) | 鉄 | 南東部覆土下層 | M4 |

### 第27号住居跡（第126図）

**位置**　調査２区南西部，C２$_{b4}$区。

**規模と平面形**　住居跡の半分以上が調査区域外にあるため，規模は不明。平面形は方形と考えられる。

**主軸方向**　N－50°－W

**壁**　壁高は75～115cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。南西壁・南東壁・南コーナー・東コーナー・西コーナーは調査区域外にある。

**壁溝**　幅約５～15cm，深さ５cmほどでほぼ全周している。断面形はU字形である。

**床**　床面は全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。調査区域外にある床面の詳細は不明である。

**竈**　北西壁中央部に付設されている。規模は長さ130cm，幅115cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。火床部は楕円形で掘りくぼみはない。

竈土層解説
1　瑞　場　色　ローム粒子中量，焼土粒子微量，山砂・小石少量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小大ブロック・炭化物少量，山砂少量
3　純い赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック中量，山砂・小石少量
4　暗赤褐色　焼土粒子多量，焼土小中大ブロック中量，山砂少量
5　極暗赤褐色　焼土粒子中量，焼土小ブロック少量，山砂・小石少量
6　純い赤褐色　ローム粒子・焼土粒子少量，山砂少量

**ピット**　$P_1$は長径50cm，短径45cmの楕円形，深さ70cmで，主柱穴と考えられる。その他のピットは調査区域外にあるため，不明である。

**貯蔵穴**　北コーナーと竈との間にある。長軸90cm，短軸45cmの長方形。深さ40cmほどである。

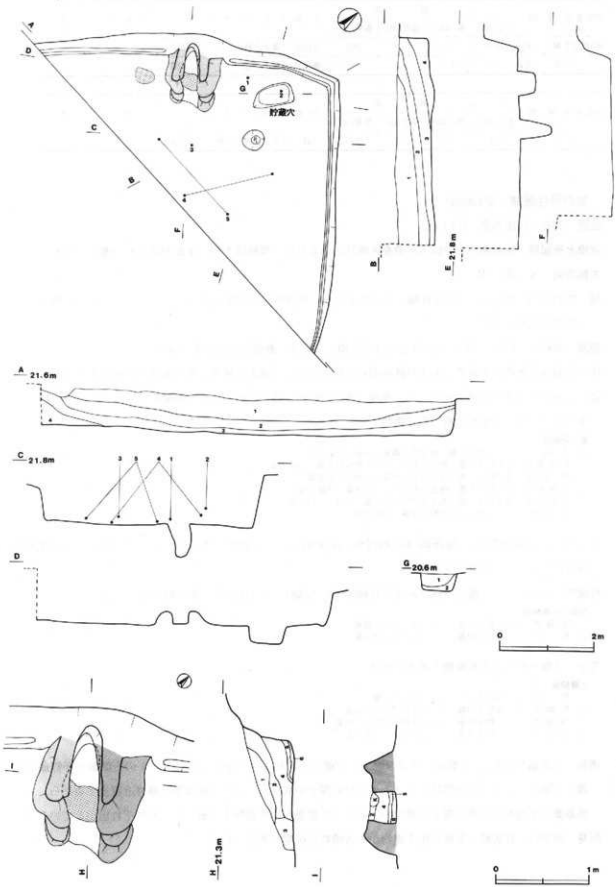
貯蔵穴土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**覆土**　４層からなる自然堆積と考えられる。

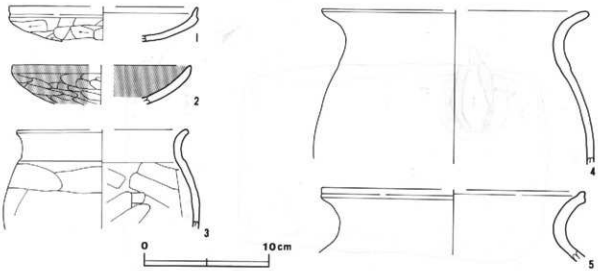
土層解説
1　黒　　色　ローム粒子・ローム小ブロック少量
2　黒 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック少量
4　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小中ブロック少量

**遺物**　土師器片114点，土製品１点及び混入した縄文土器片１点が出土している。１の土師器坏が貯蔵穴付近覆土下層から，２の土師器坏が北コーナー付近覆土中層から，３の土師器甕が竈付近覆土下層から，４の土師器甕が北部及び中央部覆土下層から，５の土師器甕が中央部覆土下層から，それぞれ出土している。

**所見**　時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。




第126図　第27号住居跡実測図




**第127図　第27号住居跡出土遺物実測図**

第27号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第127図 1 | 坏 土師器 | A[15.2] B( 2.8) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部はやや外傾する。口縁部と体部との境に稜をもつ。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。 | 砂粒・雲母 赤色 普通 | P278 15% 貯蔵穴付近覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A[14.2] B( 3.2) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部に至る。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P279 10% 北コーナー付近覆土中層 |
| 3 | 甕 土師器 | A[13.6] B( 8.0) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・石英・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P282 5% 竈付近覆土下層 |
| 4 | 甕 土師器 | A[21.4] B(22.5) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面調整不明。 | 砂粒・石英・雲母 鈍い黄橙色 普通 | P280 5%，北部・中央部覆土下層 |
| 5 | 甕 土師器 | A[20.1] B( 5.3) | 口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部はつまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母 明黄褐色 普通 | P281 5% 中央部覆土下層 |

**第28号住居跡（第128図）**

**位置**　調査1区南東部，G6$_{g1}$区。

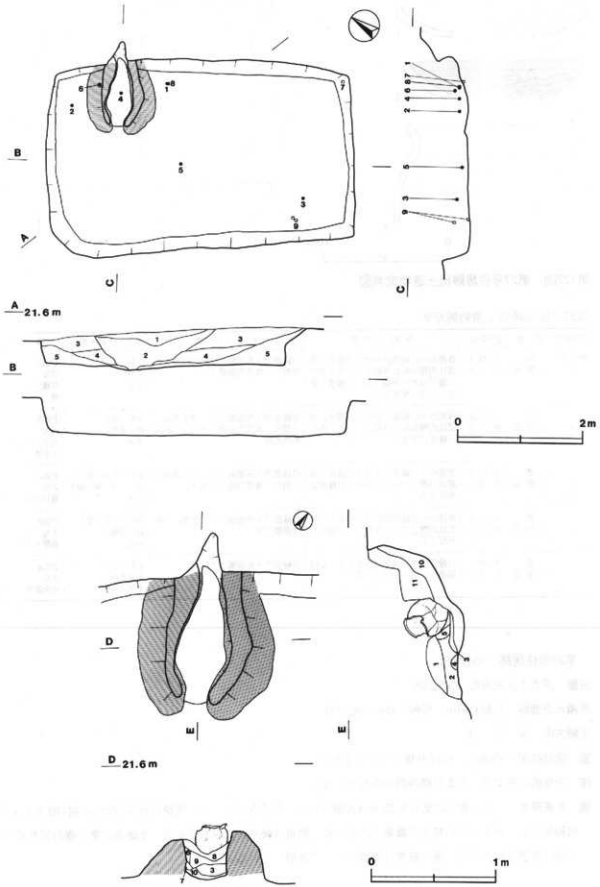
**規模と平面形**　長軸4.94m，短軸3.12mの長方形。

**主軸方向**　N－57°－E

**壁**　壁高は50～80cmで，ほぼ外傾して立ち上がる。

**床**　全体的に平坦で，あまり踏み固められていない。

**竈**　北東壁北コーナー寄りに壁外を35cmほど掘り込み，付設されている。規模は長さ150cm，幅110cmである。両袖部とも，砂まじりの粘土で構築されている。煙道は緩やかに立ち上がる。土師器の甕が竈の天井部を突き抜け確認されている。甕の底部は支脚によって破損している。




第128図　第28号住居跡実測図

竈土層解説

1 明赤褐色　焼土粒子少量，山砂・小石少量
2 暗赤褐色　焼土粒子・焼土小大ブロック少量，山砂少量
3 明赤褐色　焼土粒子多量，焼土小大ブロック中量
4 極暗褐色　ローム粒子・焼土中ブロック少量
5 明赤褐色　焼土粒子・焼土中大ブロック多量
6 暗赤褐色　焼土粒子・焼土小大ブロック少量，山砂少量
7 明赤褐色　ローム大ブロック・焼土小ブロック少量，山砂少量
8 純い赤褐色　焼土粒子・焼土大ブロック少量，山砂少量
9 暗赤褐色　焼土粒子・焼土小大ブロック中量，炭化粒子少量，山砂少量
10 赤褐色　焼土粒子中量，焼土中大ブロック少量，山砂少量
11 明　褐　色　ローム大ブロック・焼土中大ブロック少量，山砂少量

**覆土**　5層からなる人為堆積である。

土層解説

1 明褐色　ローム粒子・ローム小中ブロック少量
2 黒褐色　ローム粒子中量，ローム小大ブロック少量
3 明褐色　ローム粒子・ローム中ブロック少量，焼土粒子・焼土小ブロック微量
4 暗褐色　ローム粒子・ローム小ブロック中量，ローム中大ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 暗褐色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック中量

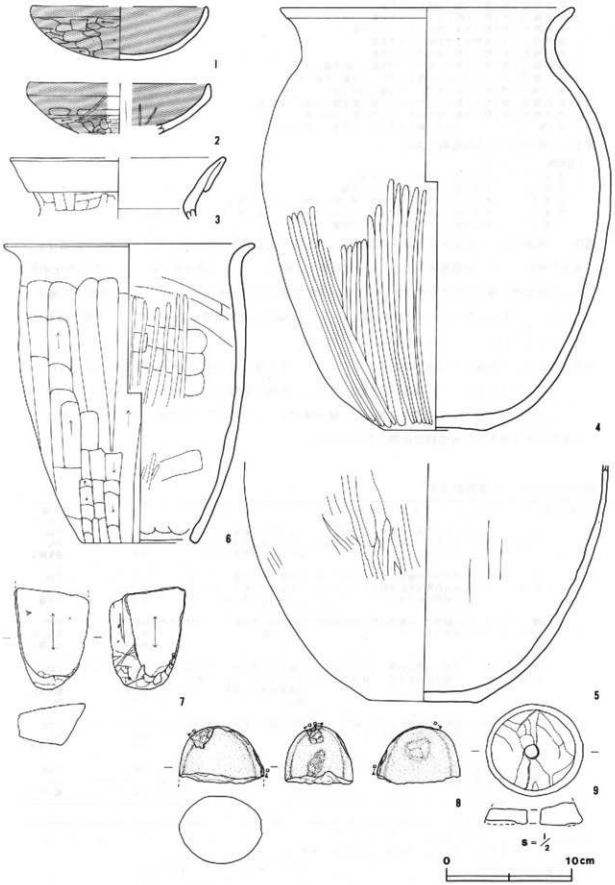
**遺物**　土師器片76点，石器・石製品3点及び混入した縄文土器片5点が出土している。1の土師器坏が竈東隣覆土下層から，2の土師器坏が北コーナー付近覆土下層から，3の土師器甕が南コーナー付近覆土中層から，4の土師器甕が竈天井部及び燃焼部から，5の土師器甕が中央部覆土下層から，6の土師器甑が竈右袖部直上から，7の砥石が東コーナー付近床面直上から，8の敲石が竈東隣覆土下層から，9の石製紡錘車が南コーナー付近床面直上から，それぞれ出土している。

**所見**　本跡は，平坦地から斜面に変わるところにあり，遺構確認の段階に住居跡であるとは認められず，土坑として調査を進めていった。調査が進むにしたがい，遺構の範囲が広く，壁が土坑と違った立ち上がりをしているので，住居跡としての調査に変えた。竈を確認することにより，住居跡と断定した。時期は，住居跡の形態や出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第129図 1 | 坏 土師器 | A 14.0 B 4.3 | 丸底。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁端部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面横ナデ。底部ヘラ削り。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母 橙色 普通 | P283 50% 竈東隣覆土下層 |
| 2 | 坏 土師器 | A 14.6 B (4.1) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。 | 砂粒・雲母・パミス 純い橙色 普通 | P284 25%，北コーナー付近覆土下層 |
| 3 | 甕 土師器 | A 17.4 B (4.9) | 口縁部片。口縁部は折り返し口縁で外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 純い橙色 普通 | P287 5%，南コーナー付近覆土中層 |
| 4 | 甕 土師器 | A 23.5 B 34.0 C 5.2 | 平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁端部はやや つまみ上げている。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き。体部内面摩滅著しく調整不明。底部ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・石英・雲母 純い褐色 普通 | P285 90% 竈天井部及び燃焼部 |
| 5 | 甕 土師器 | B (19.1) C 8.8 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ磨き。体部内面ヘラナデ。 | 砂粒・スコリア 橙色 普通 | P286 40% 中央部覆土下層 |
| 6 | 甑 土師器 | A 20.0 B 24.0 C 9.2 | 無底式。体部は内彎して立ち上がり口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ後ヘラ磨き。 | 砂粒・長石・スコリア，純い橙色 普通 | P288 95% 竈右袖部直上 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 孔径(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 7 | 砥石 | (8.2) | (6.0) | (3.3) | — | (195) | 凝灰岩 | 東コーナー床面直上 | Q27 |
| 8 | 敲石 | (4.7) | 6.9 | 5.5 | — | (219) | 安山岩 | 竈東隣覆土下層 | Q25 |
| 9 | 紡錘車 | 5.0 | 5.2 | (1.3) | 0.7 | (31) | 凝灰岩 | 床面直上 | Q26 |




第129図　第28号住居跡出土遺物実測図

表5　西栗山遺跡住居跡一覧表

| 住居跡番号 | 位置 | 主軸方向 | 平面形 | 規模(m)長軸×短軸 | 深さ(cm) | 床面 | 内部施設 壁溝 | 主柱穴 | 貯蔵穴 | ピット | 入口 | 炉・竈 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 新旧関係(古→新) |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Ofa6 | N-34°-W | 長方形 | 4.60×4.82 | 54~80 | 平坦 | 全周 | 1 | — | 2 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢,鍋)須恵器(蓋瓶)石器(石錘,磨石) | 古墳時代後期 |
| 2 | Ffa | N-50°-E | 長方形 | 3.86×3.00 | 33~39 | 平坦 | — | 2 | — | 2 | — | — | 自然 | 土師器(坏,甕) | 古墳時代後期 |
| 3 | Ffa3 | N-27°-W | 方　形 | 6.15×6.00 | 58~72 | 平坦 | 半周 | 4 | — | 4 | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,高坏,甕,壺,手付鉢)土製品(紡錘車) | 古墳時代後期 |
| 4 | Ffa6 | N-45°-W | 方　形 | 5.88×5.77 | 55~70 | 平坦 | 全周 | 4 | 有 | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,高坏,甕,鉢)須恵器(壺)土製品(支脚) | 古墳時代後期 |
| 5 | Ffa4 | N-20°-W | 方　形 | 5.85×5.10 | 60~70 | 平坦 | 全周 | 4 | 有 | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢)須恵器(坏)土製品(支脚,紡錘車) | 古墳時代後期 |
| 6 | Ofa | N-34°-E | 方　形 | 3.82×3.32 | 25~30 | 平坦 | — | — | — | 1 | — | — | 人為 | 土師器(高坏,甕,壺,甑)石器(磨石) | 古墳時代中期 |
| 7 | Ofa5 | N-50°-W | 方　形 | 3.70×3.47 | 65~105 | 平坦 | — | — | — | 1 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,鉢,壺,甕)石器(磨石)土製品(支脚) | 古墳時代後期 |
| 8 | Ofa7 | N-40°-W | 長方形 | 7.82×6.32 | 25~35 | 平坦 | 全周 | — | 有 | — | — | 炉3 | 人為 | 土師器(坏,甕,鉢)須恵器(蓋)石器(磨石) | 古墳時代中期 |
| 9 | Ffa | N-54°-W | 長方形 | 6.62×4.10 | 20~30 | 平坦 | — | 1 | — | 1 | — | 炉1 | 人為 | 土製品(土玉)骨製品(櫛) | 古墳時代 |
| 10 | Ffa7 | N-28°-W | 方　形 | 6.92×6.32 | 60~83 | 平坦 | 全周 | 4 | 有 | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢)須恵器(蓋) | 古墳時代後期 |
| 11 | Ofa8 | N-24°-W | 方　形 | 6.47×5.57 | 50~74 | 平坦 | 全周 | 4 | 有 | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢,ミニチュア,鍋)石器(磨石)土製品(支脚)石製品(臼玉) | 古墳時代後期 |
| 12 | Ofa4 | N-55°-E | 長方形 | 8.00×6.84 | 25~46 | 平坦 | — | 2 | — | 2 | — | — | 人為 | 土師器(坏,鉢,高坏,壺)土製品(土玉)石器(磨石)石製品(臼玉) | 古墳時代中期 |
| 13 | Ffa2 | N-50°-W | 方　形 | 5.32×5.10 | 45~55 | 平坦 | 全周 | 3 | 有 | 3 | — | 炉2 | 人為 | 土師器(高坏,甕,壺,鉢)石器(磨石) | 古墳時代中期 |
| 14 | Ofa1 | N-47°-E | 長方形 | 3.98×3.10 | 10~50 | 平坦 | — | 4 | — | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢,鍋,手鉢) | 古墳時代後期 |
| 15 | Ffa | N-36°-E | 長方形 | 3.42×2.81 | 20~40 | 平坦 | — | 1 | — | 1 | — | — | 自然 | 土師器(鉢,ミニチュア) | 古墳時代後期 |
| 16 | Ffa | N-25°-E | 方　形 | 4.74×4.42 | 25~33 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 人為 | 土師器(高坏,甕,壺,鉢) | SB6→SB8 古墳時代中期 |
| 17 | Ffa4 | N-12°-E | 方　形 | 7.77×7.54 | 25~32 | 平坦 | — | — | — | — | — | — | 人為 | 土師器(坏,高坏,鉢,甕,壺,皿)石製品(勾玉) | SB7→SB8 古墳時代中期 |
| 18 | Ffa | N-34°-W | 方　形 | 6.72×6.76 | 70~80 | 平坦 | 全周 | 5 | 有 | 6 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,高坏,壺,甕)須恵器(坏)土製品(土玉,支脚)石器(磨石) | 古墳時代後期 |
| 19 | Ffa6 | N-31°-W | 方　形 | 4.92×4.90 | 65~74 | 平坦 | 全周 | 4 | — | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,高坏)石製品(勾玉)不明鉄製品 | 古墳時代後期 |
| 20 | Dfa | N-6°-W | 方　形 | 3.20×3.44 | 50~55 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,鉢,壺,甕)土製品(支脚) | 古墳時代後期 |
| 21 | Dfa4 | N-10°-W | 長方形 | 2.78×2.33 | 45~60 | 凹状 | — | — | — | — | — | — | 人為 | 土師器(坏,甕) | 古墳時代後期 |
| 22 | Efa | N-40°-E | 長方形 | 4.46×3.27 | 60~70 | 平坦 | 全周 | — | 有 | — | — | 竈 | 人為 | 土師器(坏,甕,鉢,鍋) | 古墳時代後期 |
| 23 | Dfa7 | N-19°-W | 長方形 | (5.65×4.80) | 70~75 | 平坦 | 全周 | 5 | 有 | 6 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,鉢,用) | 古墳時代後期 |
| 24 | Cfa4 | N-30°-W | 長方形 | — | 75~85 | 平坦 | 全周 | 1 | 有 | 1 | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,用,甕) | 古墳時代後期 |
| 25 | Cfa | N-30°-W | 方　形 | 5.78×5.50 | 55~75 | 平坦 | 全周 | 4 | 有 | 5 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏)石製品(石錘) | 古墳時代後期 |
| 26 | Cfa3 | N-54°-W | 長方形 | 6.62×4.31 | 55~80 | 平坦 | 全周 | 2 | 有 | 3 | 有 | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕,鉢)石器(磨石,砥石)鉄製品(刀子) | 古墳時代後期 |
| 27 | Cfa | N-50°-W | 方形 | — | 75~115 | 平坦 | 全周 | 1 | 有 | 1 | — | 竈 | 自然 | 土師器(坏,甕) | 古墳時代後期 |
| 28 | Cfa7 | N-37°-E | 長方形 | 4.94×3.12 | 50~80 | 平坦 | — | — | — | — | — | 竈 | 人為 | 土師器(坏,甕,鉢)石製品(紡錘車)石器(磨石) | 古墳時代後期 |

## 2　土坑

当遺跡からは，陥し穴と思われる土坑１基，炭化材の小片が多量に確認された土坑２基，性格不明土坑10基の計13基の土坑が検出されている。それぞれの土坑からの遺物は少なく，時期や性格について不明なものが多い。形状及び出土遺物に特徴のある４基の土坑について，ここに解説を加え，その他については一覧表に記載した。

### 第１号土坑（第130図）

**位置**　調査１区東部，F７$_{16}$区。

**規模と平面形**　長径1.66m，短径1.45mのほぼ円形で，深さは70cmほどである。

**長軸方向**　N－61°－E

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　皿状である。

**覆土**　３層からなり，自然堆積とみられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック・焼土粒子・焼土中大ブロック・炭化粒子少量

**遺物**　土師器片２点が出土している。１の土師器甕が中央部覆土下層から出土している。

**所見**　本跡の性格は不明である。時期は，出土遺物が２点のため，断定しにくいが，古墳時代と考えられる。

第１号土坑出土遺物観察表

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第130図 1 | 甕 土師器 | A(18.0) B(4.5) | 口縁部片。口縁部は外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，浅黄橙色 普通 | P289 10% 中央部覆土下層 |

### 第５号土坑（第130図）

**位置**　調査１区南部，G６$_{f5}$区。

**規模と平面形**　長軸4.64m，短軸1.30mの長方形で，深さは48cmほどである。

**長軸方向**　N－25°－W

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　４層からなり，人為堆積とみられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子・炭化物中量，ローム中ブロック少量，
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物中量，ローム大ブロック少量，焼土粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小中大ブロック・炭化物中量，炭化粒子少量
4　黒　　色　炭

**遺物**　出土遺物はない。

**所見**　本跡の時期・性格は不明である。

### 第10号土坑（第130図）

**位置**　調査１区南部，Ｇ６$_{d1}$区。

**規模と平面形**　長径2.10m，短径1.50mの楕円形で，深さは187cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－39°－Ｗ

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

**底面**　平坦である。

**覆土**　４層からなり，自然堆積とみられる。

土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック少量，炭化物微量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化物微量
3　褐　　色　ローム粒子多量，炭化物微量
4　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック・炭化粒子・炭化物少量

**遺物**　出土遺物はない。

**所見**　本跡の性格は，形態から陥し穴と考えられる。時期は不明である。

### 第13号土坑（第130図）

**位置**　調査１区西部，Ｆ６$_{h1}$区。

**重複関係**　第１号溝と重複しており，第１号溝が本跡を掘り込んでいるので，本跡が古い。

**規模と平面形**　長軸4.43m，短軸1.21mの長方形で，深さは56cmほどである。

**長軸方向**　Ｎ－27°－Ｗ

**壁面**　ほぼ外傾して立ち上がる。

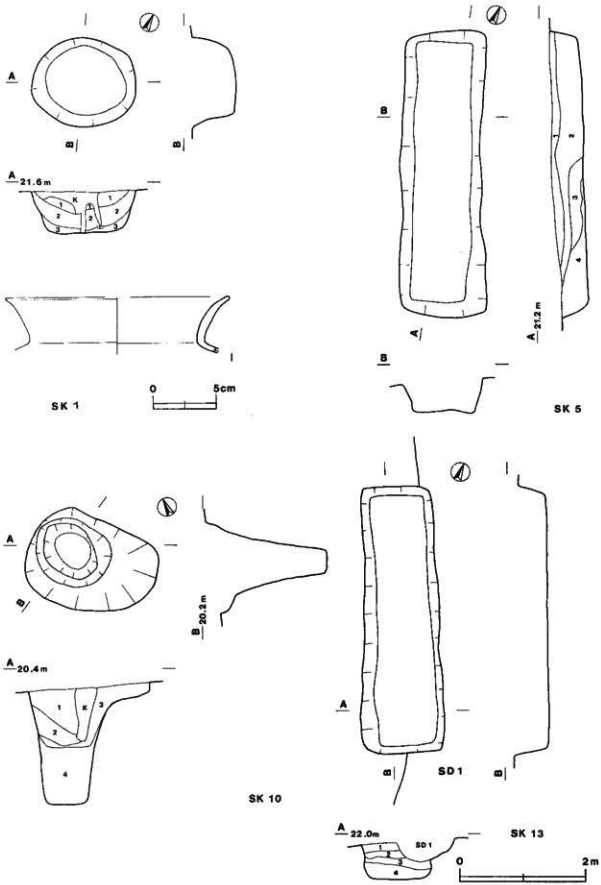
**底面**　平坦である。

**覆土**　４層からなり，人為堆積とみられる。

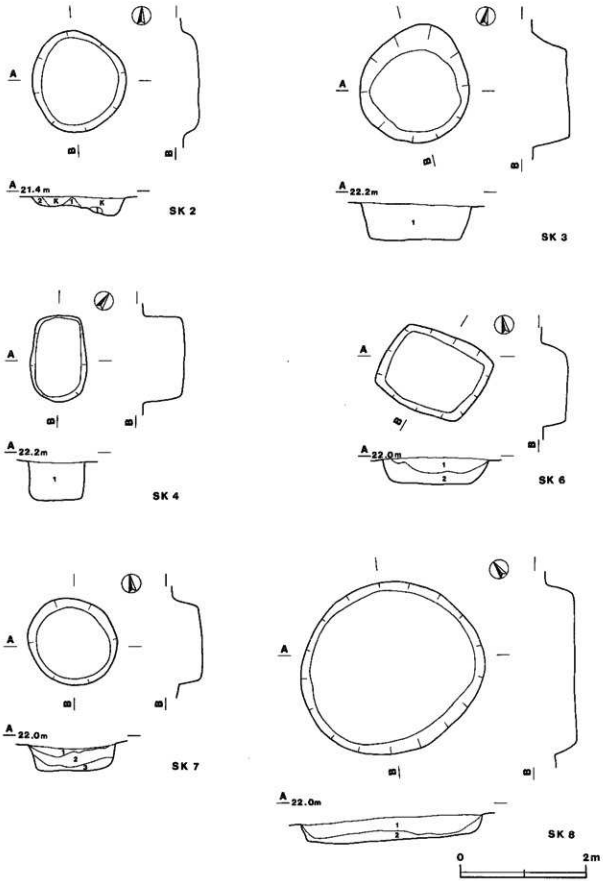
土層解説
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム大ブロック・炭化粒子・炭化物少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物中量，ローム小大ブロック少量
3　黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物中量，ローム中大ブロック少量
4　黒　　色　炭

**遺物**　出土遺物はない。

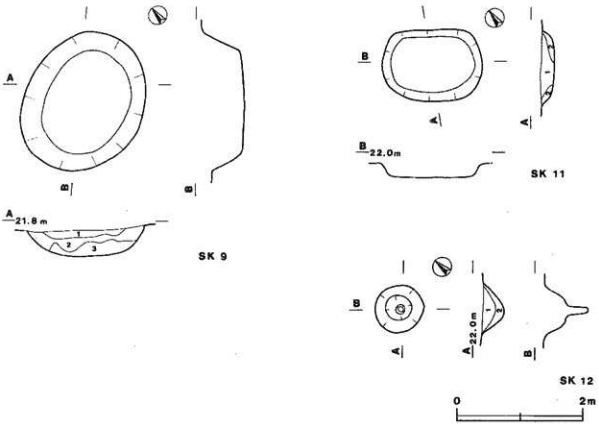
**所見**　本跡の時期・性格は不明である。




第130図　第1・5・10・13号土坑・出土遺物実測図




第131図　第2～4・6～8号土坑実測図




**第132図　第9・11・12号土坑実測図**

## 土坑土層解説

**第2号土坑土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム小大ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小ブロック少量

**第3号土坑土層解説**
1　黒 褐 色　ローム粒子・ローム大ブロック多量，ローム小中ブロック中量，炭化粒子少量

**第4号土坑土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子中量，ローム小中大ブロック多量

**第6号土坑土層解説**
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック微量

**第7号土坑土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小中ブロック中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　褐　　色　ローム粒子多量

**第8号土坑土層解説**
1　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量

**第9号土坑土層解説**
1　褐　　色　ローム粒子中量
2　褐　　色　ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
3　暗 褐 色　ローム粒子多量，ローム中ブロック中量，ローム大ブロック少量

**第11号土坑土層解説**
1　黒 褐 色　ローム粒子中量，炭化粒子・炭化物多量
2　極暗褐色　ローム粒子・炭化粒子・炭化物中量，焼土粒子微量

**第12号土坑土層解説**
1　暗 褐 色　ローム粒子・ローム大ブロック中量，ローム小ブロック少量
2　暗 褐 色　ローム粒子・ローム小中大ブロック中量

表6　西栗山遺跡土坑一覧表

| 土坑番号 | 位置 | 長径方向(長軸方向) | 平面形 | 規模 長径(軸)×短径(軸)(m) | 規模 深さ(cm) | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | F7$_{a}$ | N-61°-E | 円形 | 1.66×1.45 | 70 | 外傾 | 皿状 | 自然 | 土師器片2点 | 古墳時代 |
| 2 | G7$_{ba}$ | N-5°-W | 円形 | 1.64×1.50 | 25 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片24点，縄文土器片1点 | 時期不明 |
| 3 | E7$_{gd}$ | N-0° | 円形 | 1.93×1.76 | 60 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | 時期不明 |
| 4 | E6$_{ce}$ | N-35°-W | 楕円形 | 1.40×1.90 | 68 | 垂直 | 平坦 | 自然 | | 時期不明 |
| 5 | G6$_{e}$ | N-25°-W | 長方形 | 4.64×1.30 | 48 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | 時期不明 |
| 6 | F9$_{ad}$ | N-51°-W | 長方形 | 1.65×1.32 | 45 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片1点，縄文土器片3点 | 時期不明 |
| 7 | F6$_{gi}$ | N-0° | 円形 | 1.43×1.40 | 42 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | 時期不明 |
| 8 | F5$_{ib}$ | N-62°-E | 円形 | 2.96×2.71 | 44 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片13点，縄文土器片8点 | 時期不明 |
| 9 | F5$_{ib}$ | N-65°-E | 楕円形 | 2.31×1.90 | 61 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 縄文土器片3点 | 時期不明 |
| 10 | C8$_{di}$ | N-38°-W | 楕円形 | 2.10×1.50 | 187 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | 崩し穴，時期不明 |
| 11 | B8$_{ie}$ | N-65°-W | 楕円形 | 1.61×1.15 | 22 | 外傾 | 平坦 | 自然 | | 時期不明 |
| 12 | B8$_{ie}$ | N-90°-E | 円形 | 0.78×0.76 | 72 | 外傾 | 凹 | 自然 | 土師器片8点 | 時期不明 |
| 13 | F9$_{di}$ | N-27°-W | 長方形 | 4.43×1.21 | 56 | 外傾 | 平坦 | 人為 | | SK13→SD1，時期不明 |

## 3　溝

当遺跡からは，3条の溝が確認されている。いずれの溝も出土遺物が少なく，時期は不明である。第1号溝と第2号溝について解説し，第3号溝は，一覧表で解説する。

### 第1号溝（第133図・付図2）

**位置**　調査1区西部，F6$_{gi}$区。

**重複関係**　本跡が第13号土坑を掘り込んでいるので，本跡が新しい。

**規模と形状**　上幅1.12m，下幅0.90m，深さ0.23m，確認長54.0mで，断面形はU状である。

**方向**　N－20°－W

**覆土**　2層からなる自然堆積である。

土層解説
SP－A
1　黒褐色　ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
2　黒褐色　ローム粒子・黒色土ブロック少量，ローム小ブロック微量

**遺物**　土師器片4点が出土している。

**所見**　本跡は，1区西側斜面低地から北部に向かってのびている。北端は，撹乱により遺構の確認ができないが，第2号溝とつながっていたものと考えられるところから，道路状遺構とも考えられる。時期は不明である。

### 第2号溝（第133図・付図2）

**位置**　調査2区南東部から北部，A3$_{ba}$～B4$_{fa}$区。

**規模と形状**　上幅0.77～1.50m，下幅0.55～0.70m，深さ0.32m，確認長84.5mで，断面形はU状である。

**方向**　N－50°－W

**覆土**　1層からなる自然堆積である。

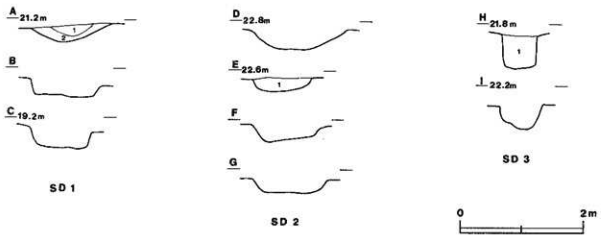
土層解説
SP－E
1　極暗褐色　ローム粒子中量，ローム小中ブロック微量

**遺物**　出土していない。

**所見**　本跡は，2区北部から南東部に向かってのびている。南東端は，調査区域外のため確認できないが，調査区域外で第1号溝とつながっていたものと考えられるところから，道路状遺構とも考えられる。時期は不明である。

### 第3号溝（第133図・付図2）

土層解説
SP－H
1　極暗褐色　ローム粒子・ローム小中大ブロック中量




**第133図　第1～3号溝実測図**

表7　西栗山遺跡溝一覧表

| 調査番号 | 位置 | 主軸方向 | 断面 | 規模（m） | | | | 壁面 | 底面 | 覆土 | 出土遺物 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 確認長 | 上幅 | 下幅 | 深さ | | | | | 新旧関係（古→新） |
| 1 | PGae | N-20°-W | ∪状 | 54.0 | 1.12 | 0.90 | 0.23 | 外傾 | 平坦 | 自然 | 土師器片4点 | SD1→SK13，道路状遺構，時期不明 |
| 2 | AJae<br>BGet | N-50°-W | ∪状 | 84.5 | 0.77～1.50 | 0.55～0.70 | 0.32 | 緩斜 | 平坦 | 自然 | | 道路状遺構，時期不明 |
| 3 | BGm | N-30°-W | U字状 | 38.8 | 0.74 | 0.25～0.50 | 0.62 | 外傾 | 平坦 | 人為 | 土師器片32点，縄文土器片6点 | SI10，SI16，SI17→SD3，現代の溝 |

## 4　遺構外出土遺物

遺構外出土遺物は，試掘・表土除去・遺構確認の調査で出土した遺物である。それらの遺物を土器・石器・金属製品に大別し，それらの特徴について解説する。

### 土器

土器を第Ⅰ～Ⅴ群に分けて記載する。

第Ⅰ群　縄文時代早期の土器群

第Ⅱ群　縄文時代前期の土器群

第Ⅲ群　縄文時代中期の土器群

第Ⅳ群　縄文時代後期の土器群

第Ⅴ群　その他の土器群

第Ⅰ群土器

42の口縁部片，40の底部片，44の胴部片は貝殻沈線文の土器片である。52，53は，胎土に繊維を含み，表裏に条痕文を施した茅山式土器の胴部片である。

第Ⅱ群土器

8，9，11，12は，横位の短い条線文の下に連続した押圧文を施す興津式土器の口縁部片である。13，14，18～25，59．61，63～65，67の胴部片は，条線文を施す興津式土器の胴部片である。15，17は，横位に集合沈線文を施した諸磯式土器の口縁部片である。37，41は浮島式土器の口縁部片である。57，58は，胎土に繊維を含む黒浜式土器の胴部片である。60，62，66は，多縄文系圧痕文が施された胴部片である。

第Ⅲ群土器

16は，阿玉台式土器の胴部片である。26～30の口縁部片，38，39，45～47の胴部片は，阿玉台Ⅰｂ式土器である。31～33は，隆起線に沿って押圧文を施す阿玉台Ⅱ式土器の口縁部片である。35，36は加曽利Ｅ式土器の口縁部片である。43，48，49は，沈線を施す加曽利ＥⅢ式土器の胴部片である。50，51は，連弧文を施す加曽利ＥⅣ式土器の胴部片である。

第Ⅳ群土器

34は堀之内式土器の口縁部片である。54～56は，無文地に沈線を施す堀之内式土器の胴部片である。

第Ⅴ群土器

1は土師器坏，2，3は土師器高坏，4は土師器坩，5～7は土師器甕である。10は須恵器片である。

石器，石製品

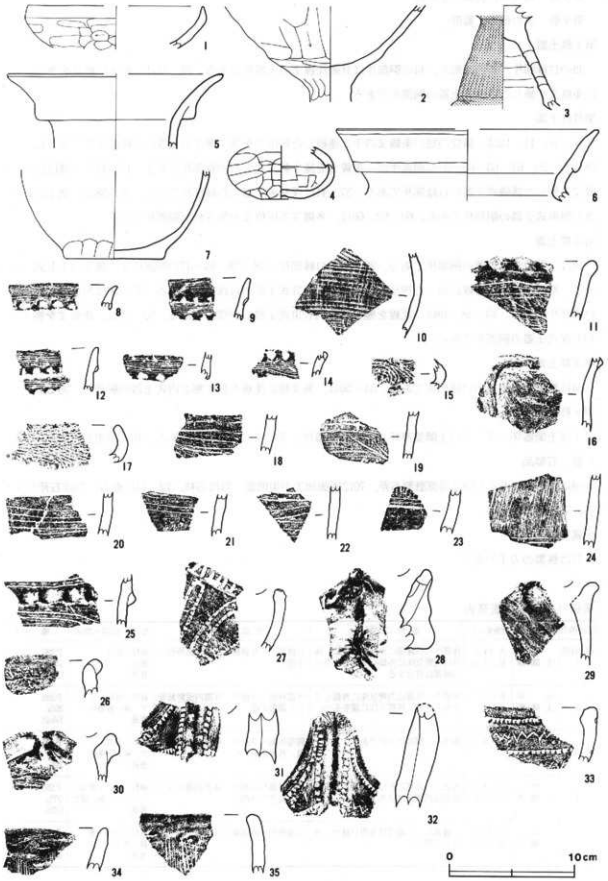
68は細石刃である。69は局部磨製石斧，70は両面加工の尖頭器，71は石核，72，74は磨石，73は石斧である。75，76は砥石である。

金属製品

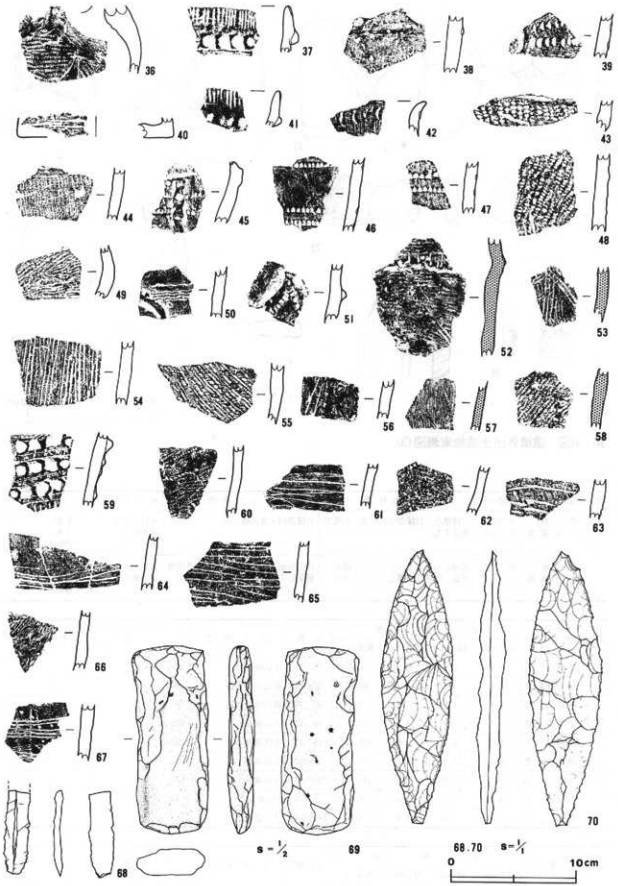
77は鉄製の刀子である。

遺構外出土遺物観察表

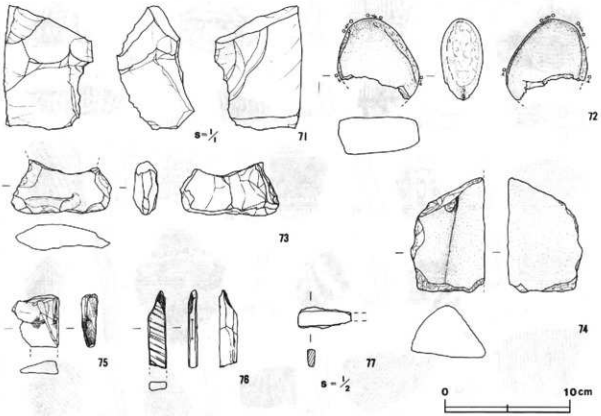
| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第134図 1 | 坏 土師器 | A(14.2) B(3.4) | 体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり口縁部は直立する。 | 口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り。 | 砂粒・雲母 赤色 普通 | P290 15% G75E |
| 2 | 高坏 土師器 | B(7.7) | 坏部片。坏部は内彎気味に外傾して立ち上がる。坏部下位に稜をもつ。 | 坏部外面ヘラ削り。坏部内面磨滅著しく調整不明。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い黄橙色 普通 | P292 20% E84E |
| 3 | 高坏 土師器 | E(8.4) | 脚部片。脚部は中空である。 | 脚部外面ヘラ磨き。脚部内面輪積痕。外面赤彩。 | 砂粒・雲母・スコリア，鈍い赤褐色 普通 | P293 40% 1E |
| 4 | 坩 土師器 | B(4.3) C 3.3 | 底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面ヘラ削り。体部内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。 | 砂粒・長石・雲母・スコリア，鈍い橙色 普通 | P295 30% G75E |
| 5 | 壺 土師器 | A(17.4) B(6.1) | 口縁部片。口縁部は有段口縁で，外反して開く。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母・礫 鈍い橙色 普通 | P298 5% E84E |




第134図　遺構外出土遺物実測図(1)




第135図　遺構外出土遺物実測図(2)




**第136図　遺構外出土遺物実測図(3)**

| 図版番号 | 器種 | 計測値(cm) | 器形の特徴 | 手法の特徴 | 胎土・色調・焼成 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 第134図 6 | 壺 土師器 | A[21.2] B(5.8) | 口縁部片。口縁部は折り返し口縁で外反する。 | 口縁部内・外面横ナデ。 | 砂粒・雲母 明赤褐色 普通 | P299 5% F9aG区 |
| 7 | 甕 土師器 | B(7.1) C[8.0] | 底部から体部下位にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。 | 体部外面下端ヘラ削り。内・外面磨滅著しく調整不明。底部ヘラナデ。 | 砂粒・スコリア 純い橙色 普通 | P297 5% G7IX |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 石質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第135図68 | 細石刃 | (2.3) | (0.6) | (0.2) | (0.01) | 頁岩 | 1区表採 | Q28 |
| 69 | 局部磨製石斧 | 10.1 | 4.1 | 1.4 | 93.0 | 安山岩 | 第12号住居跡 | Q9 |
| 70 | 尖頭器 | 7.4 | 1.9 | 0.7 | 8.25 | 頁岩 | 第12号住居跡 | Q8 |
| 第136図71 | 石核 | 3.4 | 2.4 | 1.6 | 12.0 | 頁岩 | 1区表採 | Q29 |
| 72 | 磨石 | (6.6) | 6.7 | 3.0 | (169.0) | 砂岩 | 1区表採 | Q33 |
| 73 | 石斧 | (8.0) | (4.3) | (2.0) | (75.0) | 安山岩 | 1区表採 | Q31 |
| 74 | 磨石 | (9.2) | (6.0) | (4.3) | (315.0) | 安山岩 | 1区表採 | Q32 |
| 75 | 砥石 | (4.3) | (4.7) | (1.3) | (20.0) | 泥岩 | B3$_a$表採 | Q36 |
| 76 | 砥石 | (6.3) | (1.6) | (0.8) | (9.8) | 泥質片岩 | 1区表採 | Q37 |

| 図版番号 | 種別 | 計測値 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 材質 | 出土地点 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 77 | 刀子 | (2.8) | (1.2) | (0.4) | (3.96) | 鉄 | 1区表採 | M5 |

## 第4節 まとめ

当遺跡から検出された遺構は，竪穴住居跡28軒，土坑13基，溝3条である。ここでは，時期別に各時代の主な遺構と遺物についての概要を述べ，まとめとする。

### 1 旧石器時代

旧石器時代の遺物は，尖頭器，細石刃（2片）の3点のみであり，ユニット等は確認されていない。尖頭器は，古墳時代の第12号住居跡覆土中から出土し，細石刃の1片は，調査1区で表面採集し，もう1片は，同じく古墳時代の第17号住居跡覆土中から出土している。いずれも調査1区から出土している。

### 2 縄文時代

縄文時代の遺構は確認できなかった。縄文時代の遺物は，早期から後期の土器片が調査1・2区全体から出土しているが，特に集中して出土する地点はなかった。

### 3 古墳時代

当遺跡の中心となる時期である。2期に分けることができる。

第1期（5世紀）

第6，8，12，13，16，17号住居跡の6軒が該当する。第8，11，13，16，17号住居跡の5軒は，調査1区の南部から北部にかけて約100mの範囲に，ほぼ直線上に並んでいる。いずれも調査1区の台地縁辺部に存在し，覆土が浅い。住居跡の形態は，第6，13，16，17号住居跡の4軒が方形で，第8，12号住居跡の2軒が長方形である。第8，13号住居跡には炉が存在するが，第12，16，17号住居跡においては炉を確認することができなかった。第13号住居跡は，多量の炭化材と焼土が出土し，焼失家屋と考えられる。

遺物は，それぞれの住居跡から土師器の坏，椀，坩，高坏，甕，壺，甑が出土している。須恵器は出土していない。赤彩された土師器は，第12，13，17号住居跡から出土しており，他の住居跡からは確認できなかった。

いずれも黒色処理した坏・椀類は出土せず，一部鬼高期の様相を有する遺物も含まれているが，坩とともに段をもつ高坏などが出土しているところから5世紀と考えられる。

第2期（6世紀後半～7世紀前半）

第1～5，7，10，11，14，15，18～28号住居跡の21軒が該当する。調査1区から17軒，調査2区から4軒検出している。第1～4，7，10，12，14号住居跡の8軒は，調査1区の南部に径約40mの範囲で，第15，18～23号住居跡の7軒は，調査1区北部に径20mの範囲で，第24～26号住居跡の3軒は，調査2区の南東部に30mの範囲にそれぞれまとまっている。住居跡の形態は，長方形が8軒で，方形が13軒である。竈を伴う住居跡は，第1，3～5，7，10，11，14，18～20，22～28号住居跡の18軒で，第2，6，15，21号住居跡の4軒は小形の遺構であり，竈をもたない。いずれも覆土が深く，約1mに達する住居跡もある。1区の南西部の斜面に，第1，7，14，28号住居跡の4軒が位置しており，第1，7号の住居跡の竈は壁を掘り込んでいない。竈をもつ第1，3～5，7，10，11，18～20，23～27号住居跡の15軒は，主軸方向が，ほぼ北西を向いている。第14，22，28号住居跡の3軒は，主軸方向がほぼ東を向いている。

遺物は，ほとんどが土師器で，黒色処理を施す坏類が多い。また，当遺跡からは，常総甕が出土している。表8は，それを分類したものである。表中に取り上げた遺物は，底部から口縁部まで残存しているものである。

当遺跡からは，B，D，E類のような甕が，体部片や口縁部などの一部欠損する甕も含めると，数多く出土している。C，F類のような体部外面上位からヘラ磨きを施してある甕や，A類のような口縁端部のつまみ上げが強くされている甕は，出土点数が少ない。いずれも体部は長胴化しており，体部上位に最大径をもっている。

表8　西栗山遺跡出土常総甕一覧表

| 甕の特徴 | 遺物番号 | 遺構 |
|---|---|---|
| 口縁端部つまみ上げ，体部外面中位から下位にヘラ磨き（A類） | P80 | SI5 |
| 口縁端部ややつまみ上げ，体部外面中位から底部にヘラ磨き（B類） | P244,245,285 | SI22,28 |
| 口縁端部ややつまみ上げ，体部外面上位から底部にヘラ磨き（C類） | P243 | SI22,26 |
| 口縁部外反し，体部外面中位からヘラ磨き（D類） | P12,171 | SI1,14 |
| 口縁部外反し，体部外面中位から底部にヘラ磨き（E類） | P79,172,203 | SI7,14,18 |
| 口縁部外反し，体部外面上位から底部にヘラ磨き（F類） | P242 | SI22 |

須恵器は，第1，4，5，10，18，19号住居跡の6軒から出土しているのみである。第5号住居跡出土の須恵器は，覆土上層から出土しており，奈良時代の様相があるため，流れこみと考えられる。

いずれも黒色処理した坏が多く出土し，常総甕が共伴して出土するところから，6世紀後半から7世紀前半にかけての時期と考えられる。

また，第1，3～5，11，18，25，26号住居跡8軒の竈内から，灰白色の灰を検出している。灰を1㎜メッシュのフルイで洗浄し，含まれるものを選別した結果，貝の小片や魚骨片及び土器片を検出できた。特に，第4号住居跡の灰からは，アカニシ，ハマグリ，ウミニナの貝片を検出している。

参考文献


- 財団法人千葉県文化財センター　『房総考古学ライブラリー2　縄文時代（1）』1985年3月
- 瀬見浩　『図解　技術の考古学』　有斐閣　1994年4月
- 芹沢長介　『旧石器の知識』　東京美術　1986年6月
- 吉原哲明　『原色日本貝類図鑑』　保育者　1989年2月
- 樫村宣行　「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート2号』財団法人　茨城県教育財団　1992年4月
- 財団法人　勝田市文化振興公社　『（財）勝田市文化振興公社文化財報告第3集　武田Ⅲ』1990年3月
- 樫村宣行・浅井哲也　「常総地域の鬼高式土器ー久慈川・那珂川流域を中心としてー」（『考古学ジャーナル』342）ニューサイエンス社　1992年
- 坂野和信　「和泉式土器の成立過程とその背景ー布留式後期土器との編年的検討ー」『埼玉県考古学論集』埼玉県文化財事業団　1991年7月

# 付　　章

## 根崎遺跡出土炭化材の樹種同定分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

### はじめに

茨城県では、これまでに多くの遺跡で住居構築材の樹種が明らかにされてきた。その結果、沿海地でアカガシ亜属などの暖温帯常緑広葉樹が確認されるのに対し、内陸部ではクヌギ節・コナラ節等の二次林を構成する落葉広葉樹が多いことが明らかとなってきた。その境界がどの付近になるのかは不明である。

本報告では、根崎遺跡から出土したた古墳時代中期の住居構築材の樹種を明らかにする。

### 1．試料

試料は、古墳時代中期の第８号住居跡から出土した住居構築材と考えられる炭化材４点（試料番号Ａ～Ｄ）である。各試料の詳細は、樹種同定結果と共に表１に記した。

### 2．方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

### 3．結果

炭化材は全てコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された（表１）。解剖学的特徴などを以下に記す。

**・コナラ属コナラ亜属クヌギ節**（Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp. ）

**ブナ科**

環孔材で孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。

**表１　炭化材の樹種同定結果**

| 遺構名 | 時代・時期 | 試料番号 | 出土位置 | 樹種 |
|---|---|---|---|---|
| 第８号住居跡 | 古墳時代中期 | A | 出入り口 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 |
| | | B | 北西壁際 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 |
| | | C | 住居跡中央部 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 |
| | | D | 北東壁際 | コナラ属コナラ亜属クヌギ節 |

### 4．考察

住居構築材と考えられる炭化材は全てクヌギ節であった。このことから、住居構築材の多くの部材にクヌギ節が使用されていたことが推定される。

古墳時代の住居構築材については、県内でも多くの遺跡で樹種同定が行われている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1986a，1986b；未公表資料）。これらの結果を見ると、牛久市や岩井市など内陸の台地上の遺跡でクヌギ節・コナラ節が多い。一方沿海地では、古墳時代の資料は少ないが、アカガシ亜属などの暖温帯常緑広葉樹林の構成種が多く確認され、内陸部とは異なった用材選択が推定される。同様の傾向は、千葉県や神奈川県でも確認されており、植生の違いを反映したことが推定されている（高橋・植木，1994）。暖温帯常緑広葉樹林の構成種を使用する地域と、落葉広葉樹を使用する地域の境界については、詳細が明らかではない。これまでのところ、アカガシ亜属は鉾田町平出久保遺跡で確認されている。落葉広葉樹は、牛久市や岩井市周辺地域、茨城町の各遺跡で確認されている。今回の結果により、つくば市丘陵地でも落葉広葉樹を主とした樹種構成であったことが推定される。今後は、さらに東の霞ヶ浦沿岸地域等でも資料を蓄積していく必要がある。

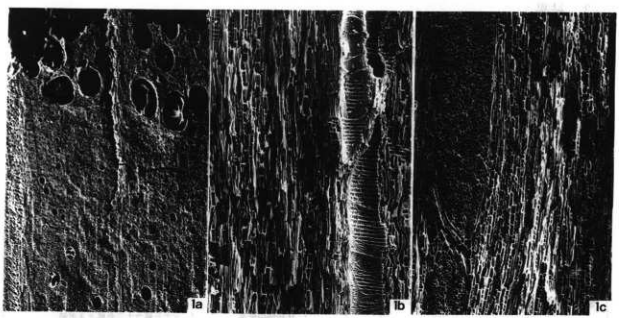
〈引用文献〉

パリノ・サーヴェイ株式会社（1986a）奥山A遺跡出土試料　炭化材同定報告．茨城県教育財団文化財調査報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２」，p.239-240，財団法人茨城県教育財団．

パリノ・サーヴェイ株式会社（1986b）西原遺跡出土試料　種子及び材同定報告．茨城県教育財団文化財調査報告書第31集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書２」，p.241-243，財団法人茨城県教育財団．

高橋　敦・植木真吾（1494）樹種同定からみた住居構築材の用材選択．PALYNO，２，p.5-18.

**図版１　炭化材**




１．コナラ属コナラ亜属クヌギ節（試料番号Ｂ）
a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b，c